

10. 海洋動物

(1) 調査概要

1) 調査方法

県内の海域は有明海、八代海（不知火海）の2大内湾と天草諸島西方の天草灘の3海域に区分され、環境の多様性が高くなっている。県内に生息する海洋動物は分類群も多岐にわたり、種類数も原生動物を除いて6,000種以上と見積もられ、その調査は困難を伴っている。

県内には九州大学天草臨海実験所と熊本大学合津マリンステーションの2つの臨海実験所が設置されており、これらの海域で採集された多くの標本とそれらに基づく動物相、植物相の目録がある。また、熊本県希少野生動植物検討委員会では1991年より現在まで、全県下の希少野生動植物の現地調査を実施し、基礎資料を積み上げており、各種調査報告も出版されている。上記資料及び現地調査の結果を元に1998年にRDB1998として公表し、その後の調査を基に2004年、2009年、2014年にレッドリスト・レッドデータブックとして改訂を進めてきた。海洋動物分科会では改訂版作成に当たり、RL2014掲載種を中心に候補種を選定し、その後の文献及び現地調査・検討によりランクの変更、種の追加・削除、生息分布情報の更新を行った。これらと並行して、最新の知見に基づき、分類、学名の改訂を行った。また、2012年以降、貝類・甲殻類などの海洋無脊椎動物の環境省による選定が進んだため、その評価を反映した。

候補種の選定にあたっては、主として人間の生活や活動と関わりが深く、かつ調査研究情報が豊富な潮間帯域（塩性湿地、干潟、岩礁など）と20m以浅の潮下帯に生息する種を対象に候補種とした。なお、上記以外でも熊本県を模式産地（タイプ産地）とする種に関しては、文献・標本・調査情報を積極的に収集して評価を行った。

2) 分布・生息状況の情報の採用基準

上述の2つの臨海実験所の出版した動物相に関する目録に記載されている情報、熊本県に関連する論文の情報、研究者や漁業者などへの聞き取り調査と標本の確認、海洋動物分科会メンバーによる現地調査を基準とした。

以下の各氏・機関にデータや写真の提供・教示、調査への協力を受けた。厚く感謝する。福田宏、芳賀拓真、石川裕、狩野泰則、川内野善治、齋藤寛、阪本登、潮崎正浩、鈴木寿之、高重博、武田昌代、田中正信、つる詳子、和田太一、渡部哲也、神奈川県立生命の星・地球博物館、国立科学博物館、熊本大学、九州大学（敬称略）

なお、写真は熊本県産以外のものも使用している。

3) 調査結果の概要

県内に生息する海洋動物は、海綿動物から哺乳類まで、潮間帯から深場まで6,000種以上がいる中から、RL2014選定種322種を中心に候補種として検討を加え、最終的に全299種を選定した。

新規の生息地発見や個体群の安定的な存在が確認された種、海水温変動などによる自然遷移や遇因分布の要素が強い種、生息分布情報が不十分な種などは、下位ランクへの移動や指定種からの削除を行った（表3.1）。特に貝類では、今回多くの種を削除・整理した。逆にいくつかの生息地の消滅や個体群の減少傾向が認められた種類は上位ランクへの移動、新規追加を行った。指定種総数は299種となり、RL2014より減少した。これは、軟体動

物で指定解除した種が多かったためである。

以下に指定種の概要を記す。

絶滅(E X)は刺胞動物のマンジュウイシモドキ1種類のみであった。絶滅危惧I A類(C R)は19種であり、軟体動物がヒメアカガイを始め15種と大部分を占めており、その他分類群は哺乳類のスナメリ、爬虫類のアカウミガメ、半索動物のミサキギボシムシ、腕足動物のオオシャミセンガイであった。絶滅危惧I B類(E N)は48種となり、軟体動物が32種で全体の67%を占めている。その他の分類群は節足動物9種、環形動物3種、刺胞動物2種、頭索動物と半索動物が各1種と様々な動物群が含まれていた。絶滅危惧II類(V U)は全90種中76種が軟体動物で占められ、次いで節足動物、環形動物、棘皮動物、刺胞動物、腕足動物であった。準絶滅危惧(N T)115種の内訳は軟体動物71種、節足動物30種、ほか14種であった。

RDB2009とRL2014からのランク変更については表3.2を参照。ランクの変更があったものについては、できるかぎり種の「生息状況」の欄において解説した。

指定種を全体的に見ると、軟体動物が全体の71%を占め、次いで甲殻類16%となり、両者で指定種の大部分を占めているが、両者は海洋生物ではもっとも大きな分類群であり、その割合と合致している。生息地別に見ると指定種の多くが干潟・砂浜や内湾で見られる種類である。これらの場所が人間生活の影響をもっとも強く受ける場所であり、沿岸開発や各種工事の影響も含め、干潟面積の減少と生息環境の悪化傾向が続いているためと考えられる。

4) 今後の課題

- ① 海洋動物の属する分類群は極めて多様で多くの動物門が含まれ、対象種は6,000種以上となっている。さらに詳細な調査が必要とされる。
- ② 熊本県の海である有明海、八代海(不知火海)、天草灘は全国的に見ても独特の環境であり、特産種も多く、新種や日本初記録など学術上貴重な種も多くなっている。今回指定した種類はもちろん重要であるが、今後の調査・研究の進展によりさらなる追加が必要になると思われる。今回情報不足(DD)として示した種類の多くは今後の調査により、より上位のランクへ移ると考えられる。
- ③ 海洋生物は陸上生物に比べて普段人の目に触れることは少なく、人目に触れやすい潮間帯の生物についても、食用となる種類以外はあまり注目されることがない。また近似種が多いために、その区別は専門家以外では困難で、正確な情報が限定され、聞き取り調査なども制限が多くなる。種の分布域や密度などの情報は潮間帯に生息する種類以外は、極めて貧弱で、個々の種の分布を明らかにするのは困難な状況である。本レッドデータブックに掲載されている他の生物群と比べると不十分な状況であるが、対象種の多さと多様性を持つ海洋生物という範疇では現時点では仕方がないことと考えられる。今後も現地調査を積み重ねて、各種の分布状況を少しずつでも明らかにして行き、保全活動等に役立てる必要がある。

5) 補足：軟体動物の選定と非掲載とした種

軟体動物は、種類が多く、今回ランクの変更と共に、過去の熊本県RDBとRL2014に掲載された種を少なからず非掲載としたので、その内容を以下に述べる。軟体動物の選定にあたっては、RL2014の掲載種、環境省レッドリスト掲載種で熊本県に分布するものを

中心に検討を行った。その過程で、以下に示す①「環境省レッドリスト掲載種で、県内に分布するが、今回の熊本県RDBでは非掲載とした種」、②「RL2014に掲載していたが、今回非掲載とした種」を決定した。これまでやや曖昧な「希少性」などの判断で掲載していた種の多くを非掲載とした。すなわち、絶滅・減少傾向について、十分なデータがなく、客観性が低いものについては、削除や情報不足への移動を行った。特に、異鰓類のウミウシ型の生活種は、他の軟体動物と異なった発生状況・出現動態があるため、全国的な生息状況なども参照して再検討を行った。また、分類学的検討やレッドリスト種としての要件の再検討が必要と考えられる種も、一部を非掲載とした。これらの検討によって、RL2014掲載種のうち、31種を非掲載とした。今回、新たに掲載された種は6種で、軟体動物の総掲載種数は212種となった。

① 環境省レッドリスト掲載種で、県内に分布するが、今回の熊本県RDBでは非掲載とした種。括弧内は環境省評価。下線は熊本県RL2014掲載種。これらは、全国的には保全の必要性が評価されている種であり、環境影響評価などの際に重要となるため、下記に熊本県に分布していることを示しておく。

- a. 県内で豊富に生息する種：フトヘナタリ(NT)、ウミニナ(NT)、ムシロガイ(NT)、クチバガイ(NT)、ウネナシトマヤガイ(NT)
- b. 明らかな減少傾向が認められない種：ヤマトシジミ(NT)
- c. 分類学的検討や詳細情報が必要な種：ツバサカノコ(NT)、タニシツボ(NT)、ナギツボ(NT)、ナガゴマフホラダマシ(ゴマフホラダマシ、VU)、クダボラ(NT)、ヒガタヨコイトカケギリ(DD)、シゲヤスイトカケギリ(NT)、ササクレマキノガイ(NT)、ミクニシボリザクラ(NT)、アシベマスオ(DD)

② RL2014に掲載していたが、今回非掲載とした種。括弧内はRL2014の評価。下線は環境省レッドリスト掲載種。

- a. 明らかな減少傾向が認められない種：カノコガイ(DD)、コオロギ(NT)、ヒメカニモリ(NT)、ネジガイ(NT)、ヤタテガイ(NT)、アマクサキジビキガイ(DD)、タテジワミドリガイ(VU)、ウミナメクジ(DD)、カキウラクチキレモドキ(NT)、ハマチドリ(VU)
- b. 生息状況の客観的評価が困難であった種(生息深度が深いものや、データの不足を含む)：カセミミズ(VU)、オオシマカセミミズ(VU)、タニシツボ(NT)、ヒナツボ(DD)、トゲモミジヒトデヤドリニナ(DD)、マダラウミフクロウ(DD)、ハナデンシャ(NT)、カスミミノウミウシ(NT)、ニシキツバメガイ(DD)、カラスキセワタ(NT)、カノコキセワタ(NT)、アマクサウミコチョウ(NT)、アユカウウミコチョウ(DD)、シゲヤスイトカケギリ(DD)、ササクレマキノガイ(DD)、シマダコ(DD)、ヒヨワガイ(EN)、ケヅメガイ(EN)
- c. 分類学的検討や詳細情報が必要な種：ミッケルセンマツムシ(NT)、オオシマチャボダマ(DD)、アマクサチャボダマ(DD)

(2) 種の解説

絶滅(EX)から情報不足(DD)までの、それぞれのカテゴリーに位置づけた299種について、以下に解説する。

絶滅 (EX)

マンジュウイシモドキ

Cycloseris tenuis (Dana, 1846)

刺胞動物
クサビライシ科

熊本県カテゴリー
絶滅 (EX)
環境省カテゴリー

選定理由 絶滅

生息環境 潮下帯、砂礫底、砂底

生息状況 1965年に天草富岡湾にて採集されて以降、数多くのドレッジ、潜水調査を行ったが確認されていない。和歌山県串本以南に分布。富岡湾での記録は、非サンゴ礁域のものとして貴重である。

生存への脅威 海辺の改変等、水質汚濁

特記事項 直径40~100mmの円形の単体サンゴで、中央部の口の周辺で隔壁が盛り上がるのが特徴である。

絶滅危惧 I A 類 (CR)

オオシャミセンガイ

Lingula adamsi Dall, 1873

腕足動物
シャミセンガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧 I A 類 (CR)
環境省カテゴリー
絶滅危惧 I A 類 (CR)

選定理由 全国局限、県内局限、近年減少、地域的孤立

生息環境 内湾、干潟、潮下帯、砂泥底

生息状況 有明海特産種。低潮帯や潮下帯の砂泥地に分布。県内では天草松島（1980年以前に数例）と荒尾沖（1989年）で採集されている。

生存への脅威 埋め立て、干潟の減少・消失

特記事項 殻長60mm。触手動物門腕足綱。リン酸カルシウムの2枚の殻とキチン質の肉茎からなる。殻は暗緑色。近縁のミドリシャミセンガイは殻が緑色で小型。柳川沖で1992年に、三池沖で2005年6月と8月に記録がある。



撮影：逸見泰久

ヌノメヘナタリ

Pirenella cancellata Ozawa & Reid, 2016

軟体動物
キバウミニナ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧 I A 類 (CR)
環境省カテゴリー
絶滅危惧 I A 類 (CR)

選定理由 全国局限、県内局限、模式産地、地域的孤立・希少

生息環境 内湾、干潟、泥底・砂泥底

生息状況 天草市羊角湾早浦を模式産地として、2016年に記載された新種。国内では早浦でしか生息が確認されていない。他には、三重県松阪市で殻のみの記録があり、海外では、韓国順天湾、中国大陸沿岸の一部に分布する。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁

特記事項 カワアイに似るが小型（殻長約30mm）で、螺層の輪郭が直線的、殻口外唇の肥厚・張り出しが強く、後端が突出する。



撮影：山下博由

ドロアワモチ

熊本県カテゴリー
絶滅危惧 I A 類 (CR)

Onchidium sp. A

軟体動物
ドロアワモチ科

環境省カテゴリー
絶滅危惧 II 類 (VU)

選定理由 全国局限、県内局限、近年減少、地域的孤立・希少

生息環境 内湾、干潟、泥底

生息状況 県内では、天草下島（富岡汐入浜）に個体群が存在したが、港湾工事で消滅した。1992 年には、天草上島（倉江川）において生息が確認されたが、その後再発見されておらず、現在は熊本県では確認されていない。日本、中国に分布。国内では、四国、九州、南西諸島に分布するが、生息地は局所的である。内湾・河口の泥干潟に生息し、泥上を匍匐し、泥に潜る。



撮影：川内野善治

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁

特記事項 学名未確定種。体長 50 mm。長楕円形のナメクジ状で、体は柔らかい。灰黒色の背面には多数の疣があり、中央に大きな眼点がある。腹面は橙色を帯びる。

ヤベガワモチ

熊本県カテゴリー
絶滅危惧 I A 類 (CR)

Onchidium sp. B

軟体動物
ドロアワモチ科

環境省カテゴリー
絶滅危惧 I 類 (CR+EN)

選定理由 全国局限、県内局限、分布境界、特殊生息生育環境

生息環境 内湾、河口、塩性湿地

生息状況 県内では、八代海北部の河口域の塩性湿地に生息。シオマネキなどのカニ穴を隠蔽場所として利用している。独特の振れた短い糞塊を残すため、隠れている場合でも、生息を推測できる。日本、朝鮮半島、中国に分布。日本では、有明海、八代海のみに分布し、生息地は少ない。



撮影：吉崎和美

生存への脅威 河川改修、埋め立て、塩性湿地の減少・消失、水質汚濁

特記事項 学名未確定種。体長 60 mm。長楕円形のナメクジ状で、体はドロアワモチよりも硬い。灰黒色の背面には多数の疣と複数の眼点があり、中央の眼点は大きい。腹面は灰色で、側部には小さい黒点が多数ある。

オキヒラシイノミ

熊本県カテゴリー
絶滅危惧 I A 類 (CR)

Pythia cecillei (Philippi, 1847)

軟体動物
オカミミガイ科

環境省カテゴリー
絶滅危惧 I 類 (CR+EN)

選定理由 全国局限、県内局限、近年減少、地域的孤立、希少

生息環境 内湾、河口、高潮帯、塩性湿地

生息状況 県内では、天草下島（羊角湾）にのみ生息し、分布範囲は狭い。羊角湾では、生息が知られて以降、収集目的の乱獲が起きており、個体数が減少している。日本、中国南部・ベトナム北部に分布。日本では、九州北岸～西岸にのみ分布。生息地は少なく、消滅した個体群も少なくない。海岸、塩性湿地の護岸や埋め立てが生存への大きな脅威である。



撮影：吉崎和美

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、塩性湿地の減少・消失、水質汚濁、捕獲・採集

特記事項 殻長 23 mm。背腹に扁平な紡錘形、殻口には複数の歯がある。黒褐色でやや厚い殻皮を被る。

ヒメアカガイ

Anadara troscheli (Dunker, 1882)

軟体動物
フネガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧 I A 類 (CR)
環境省カテゴリー
絶滅危惧 I 類 (CR+EN)

選定理由 全国局限、県内局限、近年減少

生息環境 内湾、干潟、泥底・砂泥底、アマモ場

生息状況 県内では、死殻が天草、八代海で見られ、過去の温暖期から比較的近年まで、内湾の泥干潟やアマモ場に生息していたと考えられる。熊本県 RDB2004 では「絶滅」としたが、その後、天草下島（羊角湾）に生息していることが確認された。個体数はごく少なく、絶滅の危険性が非常に高い。日本（本州～九州）、南シナ海～フィリピンに分布。現在、国内においては生息がほとんど確認されていない。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁、捕獲・採集、動物食害

特記事項 殻長 60 mm。殻高 40 mm 程度の箱形で、殻はよく膨らみ厚く、褐色の殻皮を備える。サルボウなどの近似種とは肋の数が 24～26 本と少ないことで区別される。



撮影：吉崎和美

ヒメエガイ

Mesocibota bistrigata (Dunker, 1866)

軟体動物
フネガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧 I A 類 (CR)
環境省カテゴリー
絶滅危惧 I B 類 (EN)

選定理由 全国局限、県内局限、近年減少

生息環境 内湾、潮間帯、潮下帯、転石地

生息状況 県内では、有明海（玉名市など）で殻が確認されるのみ。天草下島（通詞島）での記録があるが、九州大学天草臨海実験所所蔵の「ヒメエガイ」と記された通詞島産標本は、ヒメエガイではなかった。日本、朝鮮半島以南の東アジア～東アフリカに分布。日本では、瀬戸内海・有明海・博多湾などで古い殻が見られるが、現在の生息地はごく少なく、瀬戸内海の一部でしか生息が確認されていない。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、水質汚濁、自然遷移

特記事項 殻長 35 mm。前後に長い箱型で、28 本内外の放射肋を持ち、肋は縦に二分される。褐色の殻皮を持つ。



撮影：山下博由

ヒョウブガイ

Trisidos kiyonoi (Makiyama, 1931)

軟体動物
フネガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧 I A 類 (CR)
環境省カテゴリー
絶滅危惧 I 類 (CR+EN)

選定理由 全国局限、県内局限、分布境界、近年減少、地域的孤立・希少

生息環境 内湾の低潮帯～水深 10m 程度までの、アマモ場や藻場、砂泥底や岩礫地

生息状況 県内では、天草下島（羊角湾）に分布。個体数は少ないと考えられる。日本、中国、インド・西太平洋に分布。日本では、瀬戸内海西部、九州北岸、天草に分布するが、近年の生息記録はほとんどない。国内では絶滅寸前と考えられ、羊角湾の個体群は極めて貴重である。

生存への脅威 海辺の改変等、水質汚濁、海水域の変化

特記事項 殻長 10cm。前後に長い箱型で、後部は強く右にねじれる。ピロッド状の殻皮を持つ。



撮影：吉崎和美

アゲマキ

Sinonovacula constricta (Lamarck, 1818)

軟体動物
ナタメガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧 I A 類 (CR)
環境省カテゴリー
絶滅危惧 I 類(CR+EN)

選定理由 全国局限、県内局限、近年減少

生息環境 内湾、河口、干潟、泥底

生息状況 日本、朝鮮半島、中国に分布。日本では、有明海、八代海北部に大きな個体群があったが、1990年代初期から壊滅状態になった。2000年前後には、八代海の砂川河口に個体群が存在し、これが国内のアゲマキの最後の大きな個体群だったが消滅した。現在は八代海北部で幼貝の生息がごく稀に確認される他、白川・緑川河口でも生息が確認されるが多くない。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁、捕獲・採集

特記事項 殻長 90 mm。佐賀県有明海沿岸では、種苗放流などによってやや復活傾向にある。



撮影：山下博由

ミドリユムシヤドリガイ

Sagamiscintilla thalassemicola (Habe, 1962)

軟体動物
ウロコガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧 I A 類 (CR)
環境省カテゴリー
絶滅危惧 I 類(CR+EN)

選定理由 全国局限、県内局限、模式産地、特殊生息生育環境

生息環境 干潟、浅海、共生

生息状況 天草下島の富岡が模式産地であるが、再発見されていない。紀伊半島～九州西岸に分布するが、確認例はごく少ない。近年、愛媛県・鹿児島県で生息が確認され、*Anelassorhynchus* 属などのユムシ類の口吻内側に共生することが明らかになった (Goto and Ishikawa, 2018)。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁、その他（宿主の減少）

特記事項 殻長 5 mm。小さなアサリ型で、殻は薄く平滑。



撮影：石川裕

フジナミガイ

Hiatula boeddinghausi (Lischke, 1870)

軟体動物
シオサザナミ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧 I A 類 (CR)
環境省カテゴリー
絶滅危惧 I 類(CR+EN)

選定理由 全国局限、県内局限、近年減少

生息環境 内湾、干潟、砂底、砂泥底

生息状況 県内では、天草上島（龍ヶ岳）、天草下島（本渡、富岡、牛深）で記録がある。天草下島では、近年の確実な記録がない。日本（本州～九州）、朝鮮半島に分布。日本各地に生息していたが、干潟や内湾域では生息地は極めて少なくなった。本州日本海沿岸の砂浜の浅海域に、比較的多くの生息地が残っている。砂・砂泥干潟・砂浜の低潮帯～浅海に生息し、長い水管を持ち、深く潜って生活する。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁、捕獲・採集

特記事項 殻長 10cm。楕円形、やや厚質、紫色で、黄褐色の殻皮を被る。



撮影：山下博由

イシゴロモ

熊本県カテゴリー
絶滅危惧 I A 類 (CR)

Aspidopholas yoshimurai Kuroda & Teramachi, 1930

軟体動物
ニオガイ科

環境省カテゴリー
絶滅危惧 I 類(CR+EN)

選定理由 全国局限、県内局限、特殊生息生育環境

生息環境 内湾、潮間帯、堆積岩

生息状況 県内では、八代海（宇土半島）の一部に分布し、生息範囲は狭い。日本（本州～九州）に分布するが、これまで確認されていた生息地は数ヶ所しかなく、それらの多くは消滅しており、現存生息地は極めて少ない。潮間帯の堆積岩（砂岩・泥岩）の岩盤・岩塊に穿孔して生息する。中国からも記録があるが、日本産との詳細な関係は不明。



撮影：芳賀拓真

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁、捕獲・採集

特記事項 殻長 35 mm。長楕円形、後端は鈍く尖り、前端は大きく開く。殻表前部には細かい螺条が密で、後部は平滑。

チリメンユキガイ

熊本県カテゴリー
絶滅危惧 I A 類 (CR)

Meropesta sinojaponica Zhuang, 1983

軟体動物
バカガイ科

環境省カテゴリー
絶滅危惧 I 類(CR+EN)

選定理由 全国局限、県内局限

生息環境 内湾、干潟、砂泥底

生息状況 県内では、有明海沿岸で殻が確認されているのみ。宇土市住吉町長部田では、複数の新鮮な殻が確認されている（日本ベントス学会、2012）。日本、朝鮮半島、中国に分布。日本では、近年の生息記録はない。



撮影：山下博由

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻長 60 mm。前後に長い楕円形で、後背縁が長く、後縁はやや細まる。殻表には波皺状の放射細条が多数あり、ピロード状の殻皮を持つ。

アツカガミ

熊本県カテゴリー
絶滅危惧 I A 類 (CR)

Dosinia (Asa) biscocta (Reeve, 1850)

軟体動物
マルスダレガイ科

環境省カテゴリー
絶滅危惧 I 類(CR+EN)

選定理由 全国局限、県内局限、近年減少

生息環境 内湾、干潟、砂泥底

生息状況 県内では、有明海沿岸で古い殻が見られるのみ。熊本市の浚渫砂泥からも殻が見られ、潮下帯にも分布する可能性がある。日本、朝鮮半島、中国に分布。日本では、瀬戸内海、有明海などで殻が発見されるが、現在は生息情報がない。



撮影：山下博由

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻高 40 mm。カガミガイに似るが、殻は小型で厚い。

ウラカガミ

熊本県カテゴリー
絶滅危惧 I A 類 (CR)

Dosinia (Dosinella) corrugata (Reeve, 1850)

軟体動物
マルスダレガイ科

環境省カテゴリー
絶滅危惧 I 類(CR+EN)

選定理由 全国局限、県内局限、近年減少

生息環境 内湾、干潟、中潮帯～潮下帯、泥底

生息状況 県内では、有明海（熊本市）、天草で、干潟や潮下帯から合弁の殻が発見されるが、近年は生息が確認されていない。天草松島周辺（前島）では、かつて泥干潟に生息していたが、干潟が砂質化して見られなくなった。日本（本州～九州）、朝鮮半島、中国に分布。現在の日本で主な生息域は内湾の潮下帯泥底である。全国的に生息記録はごく少ない。



撮影：山下博由

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、海水域の変化、水質汚濁

特記事項 殻長 65 mm。やや角張った類円形で、膨らみは弱く、薄質、密な輪肋がある。套線湾入は非常に深い。

チョウセンハマグリ

熊本県カテゴリー
絶滅危惧 I A 類 (CR)

Meretrix lamarckii Deshayes, 1853

軟体動物
マルスダレガイ科

環境省カテゴリー

選定理由 県内局限、近年減少

生息環境 外洋、浅海、砂浜、砂底

生息状況 県内では、天草下島の天草灘に面した外洋域の砂浜砂底（白鶴浜、魚貴、砂月）で見られる。熊本県では、生息域が狭く、近年は減少傾向にあり、個体群の存続が危惧される。日本（本州～種子島）、朝鮮半島、東シナ海～南シナ海に分布。



撮影：山下博由

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、水質汚濁、捕獲・採集、海水域の変化、その他（砂浜の減少）

特記事項 殻長 10cm。前後に長い亜三角形、重厚で光沢が強く、套線湾入の下端が尖る。水産有用種。

ミサキギボシムシ

熊本県カテゴリー
絶滅危惧 I A 類 (CR)

Balanoglossus misakiensis Kawano, 1902

半索動物
ギボシムシ科

環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 全国局限、県内局限、近年減少、特殊生息生育環境

生息環境 内湾、干潟、砂泥底

生息状況 天草上島・下島周辺の砂質干潟数ヶ所で見られるが、個体数は少ない。分布は低潮帯に限られ、生息域は極めて狭い。

生存への脅威 干潟の減少・消失

特記事項 紐状で体長 40cm に達する。生時の色彩は変異がある。糞塊を出さないため、生息地を掘り返さないと確認できない。

アカウミガメ

Caretta caretta (Linnaeus, 1758)

爬虫類
ウミガメ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧 I A 類 (CR)
環境省カテゴリー
絶滅危惧 I B 類 (EN)

選定理由 全国局限、県内局限、近年減少、地域的孤立・希少

生息環境 外洋、砂浜

生息状況 天草下島西岸の砂浜に、夜間産卵のため6月から8月に上陸する。砂浜の減少、プラスチックゴミや定置網、海水浴場では踏圧や光害などの人為的影響を受け、産卵回数・孵化数共に減少傾向にある。

生存への脅威 海辺の改変等、誤獲、踏みつけ、人の接近・利用、夜間照明

特記事項 体長1m近くになるウミガメ類で、日本近海でのみ産卵する種類である。繁殖期以外は主に東シナ海を回遊していると考えられている。多様性条例（指定希少野生動植物）。



撮影：吉崎和美

スナメリ

Neophocaena asiaorientalis Pilleri & Gühr, 1972

哺乳類
ネズミイルカ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧 I A 類 (CR)
環境省カテゴリー

選定理由 全国局限、県内局限、近年減少、地域的孤立・希少

生息環境 内湾、沿岸

生息状況 沿岸性で有明海、天草沿岸、八代海に分布。八代海の漁業者によると、昔は多かったが、近年は減少しているという。単独あるいは数頭の小群で回遊する。本州～九州、朝鮮半島～中国沿岸に分布。*Neophocaena phocaenoides* (Cuvier, 1829)は、中国南部～東南アジア～インド洋に分布する別種とされる。水産庁の評価は「希少種」。IUCNの評価は、絶滅危惧 I B 類。

生存への脅威 水質汚濁、誤獲、その他（船舶航行・漁業）

特記事項 体長1～2mで、顕著な背びれを欠くこと、吻部を欠くこと、体色がうすい灰色であることなどから他のイルカ類とは区別される。天草では「なみうお」、八代海では「あみーご」などの地方名がある。



撮影：田畑清霧

絶滅危惧 I B 類 (EN)

ニンジンイソギンチャク

Paracondylactis hertwigi (Wassilieff, 1908)

刺胞動物
ウメボシイソギンチャク科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧 I B 類 (EN)
環境省カテゴリー

選定理由 全国局限、県内局限、近年減少

生息環境 内湾、干潟、砂底

生息状況 砂底の干潟から潮下帯にかけて分布する種類で、宇土半島から天草にかけて広く分布していたが、現在は天草周辺（龍ヶ岳、富岡）の砂質干潟以外ではまれである。

生存への脅威 海辺の改変等、干潟の減少・消失

特記事項 触手環の直径60mmで48本の触手を持つ。体壁はオレンジ色。日中は砂地に埋没して、夜間に触手を広げる。



撮影：吉崎和美

マキガイイソギンチャク

熊本県カテゴリー
絶滅危惧 I B 類 (EN)
環境省カテゴリー

Paranthus sociatus Uchida, 1940

刺胞動物
セトモノイソギンチャク科

選定理由 全国局限、県内局限、模式産地、特殊生息生育環境

生息環境 内湾、干潟、共生

生息状況 大矢野島、天草下島（富岡、羊角湾）、球磨川河口、水俣湾で記録がある。富岡は新種記載論文において言及されている産地であるが、現在は生息が確認されていない。アラムシロやカニノテムシロの殻上に共生する。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁

特記事項 体高 7~10 mm、体幅 6~8 mm。触手 48 本。体は通常緑褐色で、上部ほど緑が強い傾向があり、24 本の黄褐色の縦縞がある。タテジマイソギンチャクに似るが槍糸がない点で識別可能。通常ムシロガイ類やカニモリガイ類の殻上に付着する。九州・南西諸島の砂質干潟等に生息するが、確認されている生息地は極めて少ない。



撮影：逸見泰久

オオシリブトヒザラガイ

熊本県カテゴリー
絶滅危惧 I B 類 (EN)
環境省カテゴリー

Parachiton latus Saito, 1996

軟体動物
サメハダヒザラガイ科

選定理由 全国局限、県内局限、模式産地

生息環境 外洋、潮下帯

生息状況 天草下島（通詞島）の水深 3m が模式産地。模式産地以外では、伊豆諸島新島沖で殻の記録があるのみ。

生存への脅威 海辺の改変等、水質汚濁

特記事項 殻長 24 mm。殻板は幅広く低平、殻表の顆粒は癒合し、放射列や不規則な縦列をなす。殻頂部に 1 対の暗赤色の斑点がある。

シマヘナタリ

熊本県カテゴリー
絶滅危惧 I B 類 (EN)
環境省カテゴリー
絶滅危惧 I 類 (CR+EN)

Cerithidea tonkiniana Mabille, 1887

軟体動物
キバウミニナ科

選定理由 全国局限、県内局限、分布境界、近年減少

生息環境 内湾、河口、高潮帯、塩性湿地

生息状況 県内では、有明海沿岸～宇土半島～天草北部～八代海北部（球磨川まで）に分布。八代海北部の大野川・氷川河口の個体群は、日本最大規模である。八代海北部以外での個体群サイズは小さく、消滅が危惧される個体群が少なくない。日本（瀬戸内海西部、有明海、八代海）、朝鮮半島、中国に分布。日本では、生息地は局所的で、個体群サイズも小さい場合が多い。



撮影：山下博由

生存への脅威 河川改修、埋め立て、ヨシ原の減少、塩性湿地の減少・消失、水質汚濁、捕獲・採集

特記事項 殻長 35 mm。塔型、やや間隔の広い縦肋があり、螺肋は殻底以外で弱く、殻表は光沢がある。殻口は広く張り出す。近似種フトヘナタリは螺肋が顕著である

ゴマフダマ

Notocochlis tigrina (Röding, 1798)

軟体動物
タマガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧 I B 類 (EN)
環境省カテゴリー
絶滅危惧 I 類(CR+EN)

選定理由 全国局限、県内局限、近年減少

生息環境 内湾、干潟、中潮帯～低潮帯、砂泥底・泥底

生息状況 県内では、有明海（荒尾市～宇土市）、大矢野島、天草松島周辺（前島、池島、高杣島）、天草上島、八代海で記録があり、比較的広く分布するが、現存生息地は少ない。熊本県では、アサリ資源保護のために、ツメタガイ類とその卵塊（砂茶碗）の駆除が推奨されており、本種も誤獲される恐れがある。日本、中国、インド・西太平洋に分布。国内では瀬戸内海、有明海八代海に分布する。



撮影：和田太一

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、捕獲・採集、誤獲

特記事項 殻長 30 mm。球形、厚質、白地に暗紫褐色の小斑点が多数ある。蓋は石灰質、白色。

ヒロオビヨフバイ

Nassarius succinctus (A. Adams, 1852)

軟体動物
ムシロガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧 I B 類 (EN)
環境省カテゴリー
絶滅危惧 I 類(CR+EN)

選定理由 全国局限、県内局限、近年減少

生息環境 内湾、干潟、浅海、泥底

生息状況 県内では、有明海（熊本市沖）の潮下帯で生息が確認されている。日本、朝鮮半島、インド・西太平洋に分布し、日本では瀬戸内海西部と有明海にのみ分布。生息地、生息個体数は減少傾向にある。佐賀県などの有明海奥部では、移入種カラムシロ *Nassarius sinarus* (Philippi, 1851) と生息地の競合が起きている可能性が高いが、熊本県ではまだそのような状況は確認されていない。



撮影：山下博由

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、外来種の侵入

特記事項 殻長 20 mm。縫合下と殻底に螺条を備えるが、体層中央部は平滑。3本の褐色帯を持つが、生時は黒く泥染されていることが多い。

ウネムシロ

Reticunassa hiradoensis (Pilsbry, 1904)

軟体動物
ムシロガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧 I B 類 (EN)
環境省カテゴリー
絶滅危惧 I 類(CR+EN)

選定理由 全国局限、県内局限、近年減少

生息環境 内湾、干潟、砂底、砂泥底、転石地

生息状況 県内では、野釜島、天草下島（通詞島、富岡）で記録されている。近年の生息確認例は少ない。日本（本州～九州）、朝鮮半島、中国北部に分布。1990年代以降、日本各地で個体群が消滅しており、現存生息地は少ない。



撮影：山下博由

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻長 13 mm。クロスジムシロ *Reticunassa fratercula* (Dunker, 1860) より大型で、顆粒状の縦肋と、明瞭な螺肋がある。

オガイ

Cantharus cecillei Philippi, 1844

軟体動物
エゾバイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧 I B 類 (EN)
環境省カテゴリー
絶滅危惧 I B 類 (EN)

選定理由 全国局限、県内局限、近年減少

生息環境 内湾～湾口、低潮帯～潮下帯、砂泥底・岩礫底

生息状況 県内では、大矢野島、野釜島、天草松島周辺（前島、池島、飛竜島）、天草下島（通詞島）で確認されている。近年も所によっては、潮間帯で生息が確認される。日本（本州～九州）、朝鮮半島、中国に分布。日本では一時、顕著な減少傾向にあった。本種の減少要因は、トリブチルスズ（TBT）化合物によるインポセックスであると考えられた。TBTの規制により、日本では個体群が復活傾向にある。



撮影：山下博由

生存への脅威 海辺の改変等、水質汚濁、その他（インポセックス）

特記事項 殻長 40 mm。厚質、縦肋が顕著で肩は張り、螺肋は明瞭。外唇内部に滑層歯が並ぶ。茶色いビロード状の殻皮を被る。

ホンコンモミジボラ

Inquisitor latifasciata (G. B. Sowerby II, 1870)

軟体動物
モミジボラ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧 I B 類 (EN)
環境省カテゴリー

選定理由 全国局限、県内局限、地域的孤立・希少

生息環境 内湾～湾口、潮下帯、泥底・砂泥底

生息状況 県内では、有明海から天草松島周辺（高空島沖）で確認されている。本種はこれまで、*Inquisitor pseudoprincipalis* (Yokoyama, 1920) ホソウネモミジボラと混同されてきたが、香港をタイプ産地とする *Inquisitor latifasciata* (G. B. Sowerby II, 1870) に同定される。日本、朝鮮半島、中国に分布し、日本ではほぼ有明海にのみ生息する。分布域が狭く限定的であるため、絶滅が危惧される。和名は山下ほか（2019）で提唱。



撮影：山下博由

生存への脅威 海辺の改変等、水質汚濁

特記事項 殻長 40 mm。細長い紡錘形、縦肋の間に明瞭な螺肋を持ち、やや布目状に見える。

イワカワトクサ

Duplicaria evoluta (Deshayes, 1859)

軟体動物
タケノコガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧 I B 類 (EN)
環境省カテゴリー
絶滅危惧 II 類 (VU)

選定理由 全国局限、県内局限、近年減少

生息環境 外洋、低潮帯～潮下帯、砂底

生息状況 県内では、天草下島（富岡）の干潟低潮帯に個体群が存在したが、消滅した。牛深での記録があるが、生息状況などは不明。日本（本州～九州）、朝鮮半島、中国、インド・太平洋に分布。日本では、響灘沿岸などで減少傾向にある。肉食性であるため、底質・水質の汚染や変化による餌動物の減少が個体群に負荷をもたらしている可能性がある。



撮影：齋藤寛

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻長 50 mm。塔型、茶褐色、多数の縦肋は顕著で隆起し、縫合下帯はくびれて明瞭。

シチクガイ

Hastula rufopunctata (E. A. Smith, 1877)

軟体動物
タケノコガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧 I B 類 (EN)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 県内局限、近年減少

生息環境 外洋、低潮帯～潮下帯、砂底

生息状況 県内では、天草下島の浅海砂底で普通に見られたが、現在は生息が確認されていない。本州及び朝鮮半島以南、インド・太平洋の外洋や外洋に面した湾の砂底に生息する。相模湾など各地で減少傾向にあり、消滅した個体群も少なくない。肉食性であるため、底質・水質の汚染や変化による餌動物の減少が個体群に負荷をもたらしている可能性がある。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、水質汚濁

特記事項 殻長 35 mm。細い塔型、黄色や紫黒色で、縫合下に褐色斑列をめぐらす。



撮影：山下博由

ムラクモキジビキガイ

Japanacteon nipponensis (Yamakawa, 1911)

軟体動物
オオシノミガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧 I B 類 (EN)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 県内局限、近年減少

生息環境 内湾、干潟、潮下帯、砂底、砂泥底

生息状況 県内では、天草下島（本渡、富岡、牛深）で記録がある。1960年代には、ごく普通に見られたが、現在は確認例が少ない。本州～九州、朝鮮半島に分布。日本各地の干潟で見られたが、減少傾向にある。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻長 13 mm。卵円形、薄質、体層は殻長の 80% を占める。灰色の地に、群雲状の黒い縦縞を持つ。



撮影：高重博

ウミマイマイ

Lactiforis takii (Kuroda, 1928)

軟体動物
フタマイマイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧 I B 類 (EN)
環境省カテゴリー
絶滅危惧 II 類 (VU)

選定理由 全国局限、県内局限、特殊生息生育環境

生息環境 内湾、河口、干潟、泥底

生息状況 県内では、有明海（唐人川河口）、八代海（大野川～砂川河口、戸馳島）に分布。かつて記録のあった長洲町葉切川、玉名市菊池川では現状不明で、消滅した可能性もある。日本、朝鮮半島に分布。日本では、瀬戸内海（周防灘）、有明海、八代海に分布する。河口域の軟泥底に生息するため、干潟の砂質化や覆砂は生存への脅威となる。

生存への脅威 河川改修、海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁、その他（底質の変化、砂質化、覆砂）

特記事項 殻長 8 mm。球形、薄質、蓋を持ち、茶褐色で色帯を持つ個体もある。



撮影：和田太一

イボキサゴナカセクチキレモドキ

Boonea umboniocola Hori & Okutani, 1995

軟体動物
トウガタガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧 I B 類 (EN)
環境省カテゴリー
絶滅危惧 II 類 (VU)

選定理由 全国局限、県内局限、模式産地、特殊生息生育環境

生息環境 内湾、干潟、低潮帯、砂底・砂泥底、共生

生息状況 県内では、天草下島（本渡、富岡）で確認されている。イボキサゴの体液を吸い、その個体群に依存しているため、生存基盤が脆弱である。模式産地の富岡湾ではイボキサゴの減少により、一時消滅したとされたが、その後イボキサゴと共に復活した。瀬戸内海、宮崎県、天草に分布し、生息地は少ない。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁、その他（ホストの減少）

特記事項 殻長 4 mm。体層が大きい紡錘形で、やや薄質、半透明白色で光沢がある。



撮影：和田太一

インチドリ

Amathina tricarinata (Linnaeus, 1767)

軟体動物
トウガタガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧 I B 類 (EN)
環境省カテゴリー
絶滅危惧 I 類 (CR+EN)

選定理由 全国局限、県内局限、特殊生息生育環境

生息環境 内湾～湾口、潮間帯～潮下帯、共生

生息状況 県内では、有明海（熊本市）、天草松島周辺（前島）に分布。本種はタイラギ、イタボガキなどの二枚貝の殻上に共生する。熊本市ではカリガネエガイへの共生が確認されている。他に、アズマニシキ、チリボタンなどにも共生もする。本州～九州、インド・西太平洋に分布。日本ではかつてかなり普通に見られた種であるが、近年は生息地が限られてきている。タイラギ、イタボガキなどの大型種のホストの減少が影響していると考えられる。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁、その他（ホストの減少）

特記事項 殻長 15 mm。笠形、殻頂は小さく巻き、殻頂から前縁へ 3 本の太い肋が走る。白色、厚質。褐色の殻皮を被る。



撮影：山下博由

クマサルボウ

Anadara globosa urusus (Tanaka, 1959)

軟体動物
フネガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧 I B 類 (EN)
環境省カテゴリー
絶滅危惧 II 類 (VU)

選定理由 全国局限、県内局限、近年減少

生息環境 内湾、干潟、低潮帯～潮下帯、砂泥底・泥底

生息状況 県内では、有明海（玉名市～宇土半島東部）、大矢野島、天草松島周辺（前島）に分布。天草周辺では、近年確認されていない。瀬戸内海～九州、南シナ海～東南アジアに分布。有明海にはかつて豊富に生息していたが、現在は著しく減少しており、種苗生産も試みられている。有明海以外でも産出は少ない。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁、捕獲・採集

特記事項 殻長 12 cm。正方形に近い箱型で、膨らみは強く、34 本内外の平滑な放射肋があり、黒褐色の粗い殻皮を持つ。



撮影：山下博由

ハイガイ

熊本県カテゴリー
絶滅危惧 I B 類 (EN)

Tegillarca granosa (Linnaeus, 1758)

軟体動物
フネガイ科

環境省カテゴリー
絶滅危惧 II 類 (VU)

選定理由 全国局限、県内局限、近年減少

生息環境 内湾、干潟、泥底

生息状況 県内では、有明海（唐人川～緑川河口）、八代海北部（大野川～球磨川河口）に分布。天草松島周辺、天草下島（富岡）にもかつて生息していたが、現在は見られない。日本、朝鮮半島、中国、インド・西太平洋に分布。日本では縄文時代の温暖期に分布を拡大したが、現在は有明海、八代海、伊万里湾にのみ生息する。泥干潟に生息するため、干潟の砂質化や覆砂は生存への脅威となる。生息深度が浅いため、場所によってはカラスなどに捕食されることがある。



撮影：和田太一

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁、動物食害

特記事項 殻長 60 mm。箱型、やや厚質、結節を備えた 20 本内外の放射肋があり、茶色い殻皮を被る。有明海沿岸では、かつて殻を焼いて「貝灰」を製造していた。

ササゲミミエガイ

熊本県カテゴリー
絶滅危惧 I B 類 (EN)

Estellacar galactodes (Benson in Cantor, 1842)

軟体動物
サンカクサルボウ科

環境省カテゴリー
絶滅危惧 I 類 (CR+EN)

選定理由 全国局限、県内局限、近年減少

生息環境 内湾、干潟、泥底

生息状況 県内では、有明海（唐人川～緑川河口）、八代海北部に分布。生息地、個体数は少ない。日本、朝鮮半島、中国に分布。日本では瀬戸内海西部、有明海、八代海に分布し、生息地は少ない。泥干潟に生息するため、干潟の砂質化や覆砂は生存への脅威となる。



撮影：和田太一

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁、その他（底質の変化、砂質化、覆砂）

特記事項 殻長 20 mm。前後にやや長い台形、やや厚質、膨らみは強く、殻表は細肋が交わり布目状で、ピロード状の殻皮を被る。

ケガイ

熊本県カテゴリー
絶滅危惧 I B 類 (EN)

Trichomya hirsuta (Lamarck, 1819)

軟体動物
イガイ科

環境省カテゴリー

選定理由 全国局限、県内局限、近年減少

生息環境 内湾、外洋、潮間帯、岩礁

生息状況 県内では、天草下島（富岡）で記録がある（波部・菊池、1960）が、近年は確認されていない。本種は、日本各地で個体群が消失しており、生息地は非常に少なくなっている。個体群の衰退・消失の原因は、よく分かっていない。



撮影：山下博由

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、水質汚濁

特記事項 垂三角形、日本産は小型で殻長 30 mm。密な殻毛に覆われる。

イタボガキ

熊本県カテゴリー
絶滅危惧 I B 類 (EN)
環境省カテゴリー
絶滅危惧 I 類(CR+EN)

Ostrea denselamellosa Lischke, 1869

軟体動物
イタボガキ科

選定理由 全国局限、県内局限、近年減少

生息環境 内湾、浅海、砂礫底、砂泥底

生息状況 県内では、有明海（熊本市～宇土市）、大矢野島～天草上島、天草下島（富岡）に分布。富岡以外では、近年も生貝や新鮮な殻が確認されているが、個体群規模は小さいと考えられる。日本、朝鮮半島、中国の内湾に分布。日本では、陸奥湾～九州にかけての内湾浅海域に普通に見られたが、1990年代以降、顕著に減少し、現在では個体群は局所的になっている。赤潮や貧酸素の影響を受けやすいと考えられる。



撮影：山下博由

生存への脅威 海辺の改変等、水質汚濁、捕獲・採集、その他（貧酸素）

特記事項 殻高 12 cm。類円形や亜方形で、右殻には成長脈に沿って栓皮状の薄片が備わる。かつては各地で、食用にされていた。

ヤミノニシキ

熊本県カテゴリー
絶滅危惧 I B 類 (EN)
環境省カテゴリー
絶滅危惧 I 類(CR+EN)

Volachlamys hirasei (Bavay, 1904)

軟体動物
イタヤガイ科

選定理由 全国局限、県内局限

生息環境 内湾、干潟、潮下帯、砂泥底、泥底

生息状況 県内では、有明海（玉名市）、天草下島（富岡湾）で記録があるが、近年は生息情報がない。日本（紀伊水道、瀬戸内海、有明海）、朝鮮半島、中国の内湾に分布。有明海では干潟や浅海において、かつて豊富に見られた時期があったが、現在では稀にしか確認されない。



撮影：山下博由

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻高 55 mm。扇形で膨らみは弱く、肋の発達には変異があり、肋が明瞭に発達する型をアワジチヒロと呼ぶ。

コオキナガイ

熊本県カテゴリー
絶滅危惧 I B 類 (EN)
環境省カテゴリー
絶滅危惧 I 類(CR+EN)

Laternula impura (Pilsbry, 1901)

軟体動物
オキナガイ科

選定理由 全国局限、県内局限

生息環境 内湾、干潟、泥底

生息状況 県内では、天草松島周辺（池島）、天草上島（倉江川河口）、天草下島（羊角湾）、八代海（大野川、球磨川河口）、水俣（袋湾）で記録があり、熊本県は本種の分布記録地が最も多い県であると考えられる。しかし、いずれの産地でも、個体数は少なく、球磨川河口では、近年確認されていない。相模湾～九州、沖縄、朝鮮半島、中国、台湾に分布。東日本ではほとんど見られなくなっている。生息地は散在的で、いずれの場所でも個体数は少ない。



撮影：和田太一

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻長 25 mm。殻は薄く微顆粒を備え、長卵形で後縁は湾曲し尖る。

イセシラガイ

Pegophysema bialata (Pilsbry, 1895)

軟体動物
ツキガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧 I B 類 (EN)
環境省カテゴリー
絶滅危惧 I 類 (CR+EN)

選定理由 全国局限、県内局限、近年減少

生息環境 内湾、干潟、中潮帯～潮下帯、泥底

生息状況 県内では、有明海、天草、八代海に分布。干潟や浅海の泥底において、殻は頻繁に確認されるが、生息は殆ど確認されていない。熊本市沖の浚渫泥からは、ウラカガミと共に多くの殻が見られた。羊角湾では、古い殻の大量の密集が見られた。日本（本州～九州）、朝鮮半島、中国に分布。内湾の泥底やアマモ場に生息し、日本ではかつては干潟域でも見られたが、現在ではごく稀になっており、潮下帯に生息地が残っている。



撮影：山下博由

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失

特記事項 殻高 70 mm。球形で、大型になると膨らみが著しく強くなる。ごく薄質で薄い殻皮を備える。

アリアケケボリ

Borniopsis ariakensis Habe, 1959

軟体動物
ウロコガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧 I B 類 (EN)
環境省カテゴリー
絶滅危惧 I 類 (CR+EN)

選定理由 全国局限、県内局限、特殊生息生育環境

生息環境 内湾、干潟、中潮帯～潮下帯、砂泥底・泥底、共生

生息状況 県内では、有明海（熊本市）、天草松島周辺、八代海（氷川）に分布。トゲイカリナマコの巣穴中に生息し、その体表に付着するのが見られる。分布域が限定的で、共生依存であるため、生存基盤は脆弱であるといえる。有明海～天草～八代海に分布。模式産地は有明海。



撮影：石川裕

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁、その他（ホストの減少）

特記事項 殻長 12 mm。楕円形、殻表には微細な放射条と明らかな成長脈がある。

ヒナノズキン

Devonia semperi (Oshima, 1930)

軟体動物
ウロコガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧 I B 類 (EN)
環境省カテゴリー
絶滅危惧 I 類 (CR+EN)

選定理由 全国局限、県内局限、模式産地、特殊生息生育環境

生息環境 内湾、干潟、砂泥底、共生

生息状況 県内では、天草松島周辺、八代海（氷川、球磨川）に分布。模式産地の天草下島（富岡巴湾）では再発見されていない。分布域が限定的で、共生依存であるため、生存基盤は脆弱で、絶滅が危惧される。日本（瀬戸内海、博多湾、天草、八代海）、中国に分布。トゲイカリナマコの巣穴中に共生し、その体表に着生する。



撮影：和田太一

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁、その他（ホストの減少）

特記事項 殻長 7 mm。薄質、亜三角形で前背縁が長い。外套膜は殻を覆い、疣状突起を欠く。

ハナヒラガイ

Fronsella ohshimai Habe, 1958

軟体動物
ウロコガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧 I B 類 (EN)
環境省カテゴリー
絶滅危惧 I 類(CR+EN)

選定理由 全国局限、県内局限、模式産地、特殊生息生育環境

生息環境 内湾～外洋、低潮帯～潮下帯、共生

生息状況 天草下島（富岡赤岩崎）が模式産地であるが、近年は確認されていない。本種はスジホシムシに共生すると考えられてきたが、実際にはオオブンブク（及びその近縁種）がホストである（石川ほか、2013）。殻は、男鹿半島・相模湾～九州で確認されている。近年、オオブンブク類の調査により、各地で新たな生息地が確認されている。そのため、環境省の評価は再考の必要がある。



撮影：高重博

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、水質汚濁、その他（ホストの減少）

特記事項 殻長 9 mm。長卵形、白色、薄質、鉸歯は 2 つあり、その間に弾帯がある。套線は湾入しない。

オキナノエガオ

Platymysia rugata Habe, 1951

軟体動物
ウロコガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧 I B 類 (EN)
環境省カテゴリー
絶滅危惧 I 類(CR+EN)

選定理由 全国局限、県内局限、特殊生息生育環境

生息環境 内湾、干潟、砂泥底、泥底、共生

生息状況 県内では、富岡で記録があるのみで、その後確認されていない。相模湾、七尾湾、瀬戸内海、四国、九州で、殻のみの分布記録が知られていた。近年、広島県竹原市、愛媛県の瀬戸内海の干潟において、スジホシムシの巣穴及び体表に付着して生息するのが確認された（Goto *et al.*, 2016）。殻での発見例も少ないことから、生息地が限定された希少種と考えられる。



撮影：石川裕

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁、その他（ホストの減少）

特記事項 殻長 8 mm。殻は扁平で薄く、楕円形、明瞭な同心円肋を持つ。

ヒシガイ

Fragum bannoi (Otsuka, 1937)

軟体動物
ザルガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧 I B 類 (EN)
環境省カテゴリー
絶滅危惧 II 類 (VU)

選定理由 全国局限、県内局限、近年減少

生息環境 外洋水の影響を受ける内湾～湾口、低潮帯～潮下帯、砂底、海草藻場

生息状況 県内では、天草上島（龍ヶ岳）、天草下島（富岡、砂月）で記録がある。龍ヶ岳町樋島では、2012 年の調査で記録されている（佐々木・中川、2012）。紀伊半島～九州、奄美大島、台湾、タイに分布。浅海の粗砂底やコアマモ場などの清浄な環境に生息する。現在国内では生息地が極めて少なくなっている。本属の種は、外套膜に褐虫藻を共生させ、光合成からもエネルギーを得ている。そのような生態から、海水の汚染・濁りも絶滅要因になっている可能性がある。



撮影：山下博由

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁、土砂流入、その他（海水の濁り、海草藻場の消失）

特記事項 殻高 10 mm。殻は四角形で厚質、瘤状突起のある太い放射肋が 20 本前後ある。

イチョウシラトリ

Serratina diaphana (Deshayes, 1855)

軟体動物
ニッコウガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧 I B 類 (EN)
環境省カテゴリー
絶滅危惧 I 類 (CR+EN)

選定理由 全国局限、県内局限、近年減少

生息環境 内湾、干潟、泥底

生息状況 県内では、有明海（唐人川～宇土半島東部）、天草松島周辺、天草上島（倉江川河口）、天草下島（羊角湾）、八代海（大野川～球磨川河口、津奈木、戸馳島）に分布。生息個体数は少ない。天草下島の富岡湾では消滅した。日本、朝鮮半島、中国に分布。日本では現在は、紀伊半島～九州の内湾に分布し、生息地、個体数ともに少ない

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻長 40 mm。前後に長い垂三角形で、前背縁が長く、殻表には成長脈と弱い放射条がある。



撮影：和田太一

アワジチガイ

Psammacoma candida (Lamarck, 1818)

軟体動物
ニッコウガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧 I B 類 (EN)
環境省カテゴリー

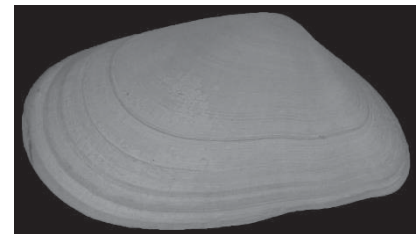
選定理由 全国局限、県内局限、近年減少

生息環境 内湾、潮下帯、砂泥底、泥底

生息状況 県内では、大矢野島、天草下島（富岡、羊角湾）に分布。富岡では多産したとされるが、近年確認されていない。羊角湾では浅海で比較的普通に見られる。日本、朝鮮半島、中国、西太平洋に分布。日本では、本州～九州に分布するが、生息地は限定的である。

生存への脅威 海辺の改変等、水質汚濁

特記事項 殻長 40 mm。前後に長い垂三角形で、前背縁が長く、殻表には弱い成長脈と微細な放射条線がある。



撮影：山下博由

フルイガイ

Semele cordiformis (Holten, 1802)

軟体動物
アサジガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧 I B 類 (EN)
環境省カテゴリー
絶滅危惧 I 類 (CR+EN)

選定理由 全国局限、県内局限、近年減少

生息環境 内湾、干潟、砂礫底、砂泥礫底

生息状況 県内では、池島（弘田ほか、1976）と八代海の1ヶ所で殻が確認されているのみ。近年の生息や個体群確認の情報はなく、絶滅が危惧される。房総半島～九州、中国、東南アジアに分布。内湾～湾口部の礫混じりの砂底・泥底に生息する。日本では現在、英虞湾、瀬戸内海、九州北部に生息地があるが、個体数は少ない場合が多い。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻長 40 mm。類円形、殻はやや薄く、弱く膨らむ。



撮影：山下博由

ムラサキガイ

熊本県カテゴリー
絶滅危惧ⅠB類 (EN)
環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

Soletellina adamsii (Reeve, 1857)

軟体動物
シオサザナミ科

選定理由 全国局限、県内局限、近年減少

生息環境 内湾、干潟、砂泥底

生息状況 県内では、有明海（熊本市、宇土市）、天草松島周辺、天草下島（本渡、富岡）、八代海（球磨川）で記録があるが、現在は見られなくなった場所もある。球磨川河口では、2009年以降も生息が確認されている（和田、私信）。日本、台湾、インドネシアに分布。日本では房総半島～九州に分布するが、1990年代以降、各地で個体群が大きく衰退した。干潟の砂泥中に深く潜って生息する。生息地では、大型で目立つため食用に採捕されることがあり、保全上の注意が必要である。



撮影：和田太一

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁、捕獲・採集

特記事項 殻長 10 cm。長楕円形、薄質、紫色で、黄褐色の殻皮を被る。

ミルクイ

熊本県カテゴリー
絶滅危惧ⅠB類 (EN)
環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

Tresus keenae (Kuroda & Habe, 1950)

軟体動物
バカガイ科

選定理由 全国局限、県内局限、近年減少

生息環境 内湾、潮下帯、砂泥底、砂礫底

生息状況 県内では、大矢野島、天草松島周辺（池島、高杣島沖）、天草上島に分布。近年は大矢野島で確認されている。熊本県の個体群は、本種の分布南限に近く、個体群の規模は小さいと考えられる。北海道～九州、朝鮮半島、極東ロシアに分布。日本では1990年代以降、全国的に生息地・生息量ともに、大きく減少した。



撮影：山下博由

生存への脅威 海辺の改変等、水質汚濁、捕獲・採集

特記事項 殻長 14 cm。楕円形、やや厚質、白色で、黄～黒褐色の殻皮を被る。後端は裁断状で広く開口し、長大な水管が出る。水産有用種。

サザメガイ

熊本県カテゴリー
絶滅危惧ⅠB類 (EN)
環境省カテゴリー

Dosinia (Bonartemis) iwakawai Oyama & Habe in Habe, 1961

軟体動物
マルスダレガイ科

選定理由 全国局限、県内局限、近年減少

生息環境 外洋、潮下帯、砂底・砂礫底

生息状況 県内では、天草下島（富岡、魚貫、牛深）に分布。近年、牛深の水深15mの潮下帯で少数の生息が確認された（高重、私信）。魚貫の打ち上げでは、古い殻が圧倒的に多く、減少傾向にあるのではないかと考えられた。房総半島～九州に分布。鹿児島県指宿が模式産地。福岡県でも、古い殻の多数の堆積が見られ、新鮮な殻が少ないことから、本種の個体群は衰退していると考えられる。岩礁間や転石下の砂に埋もれて生息していることが多い（高重、私信）。



撮影：高重博

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、水質汚濁

特記事項 殻高 35 mm。やや殻高の高い円形、明瞭な板状の輪肋があり、白地に褐色の放射彩がある。

アリアケカワゴカイ

熊本県カテゴリー
絶滅危惧 I B 類 (EN)
環境省カテゴリー
絶滅危惧 I B 類 (EN)

Hediste japonica (Izuka, 1908)

環形動物
ゴカイ科

選定理由 全国局限、県内局限

生息環境 内湾、干潟、砂質・泥質干潟

生息状況 主に有明海湾奥の干潟に生息する。

生存への脅威 河川改修、海辺の改変等

特記事項 体長 15 cm。湾奥部や河口の汽水域に生息する。泥質の干潟に棲管を作る。有明海特産種。近縁のヤマトカワゴカイとは、口吻背面の顎片数が 10 以下と少ないことで区別できる。

オニイソメ

熊本県カテゴリー
絶滅危惧 I B 類 (EN)
環境省カテゴリー

Eunice aphroditois (Pallas, 1788)

環形動物
イソメ科

選定理由 県内局限、近年減少、地域的孤立・希少

生息環境 外洋、潮間帯、転石地

生息状況 県内では、天草富岡、通詞島など数地点の転石海岸で見られるのみ。生息地確認地点では安定的に見られるが、密度は極めて低い。

生存への脅威 海辺の改変等、人等の接近・利用



標本所有者：
熊本大学合津マリンステーション

特記事項 体長 1m を超え、日本産では最大級のゴカイで、体色は黒紫色で、背面には黄金色の円紋が縦に並んでいる。

ツバサゴカイ

熊本県カテゴリー
絶滅危惧 I B 類 (EN)
環境省カテゴリー
絶滅危惧 I B 類 (EN)

Chaetopterus cautus Marenzeller, 1879

環形動物
ツバサゴカイ科

選定理由 特殊生息生育環境、近年減少

生息環境 内湾、干潟、浅海、泥底

生息状況 低潮帯や潮下帯の砂泥底に生息する。北海道～九州と分布は広いが、各地で激減している。宇土半島北岸から天草、八代海（球磨河口）には比較的多い。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失



撮影：逸見泰久

特記事項 体長 25 cm。大型の多毛類で、半透明の固い膜で出来た直径 1cm ほどの U 字型の棲管内に住む。棲管の両端を地上部に出すので、遠くからでも 1 対の棲管が確認できる。体は極端に形態の異なる前・中・後の 3 部からなる。頭部に 1 対の大きなヒゲを持つ。

ヨモギホンヤドカリ

熊本県カテゴリー
絶滅危惧 I B 類 (EN)

Pagurus nigrofascia Komai, 1996

節足動物
ホンヤドカリ科

環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 全国局限、県内局限、近年減少、特殊生息生育環境、地域的孤立・希少

生息環境 内湾、潮間帯、潮下帯、岩礫底

生息状況 函館、天草、博多湾、大村湾など点在。国外からの報告例はない。県内では、天草上島の下大戸ノ岬でのみ。潮間帯の転石下に生息。個体数は極めて少ない。

生存への脅威 道路工事、海辺の改変等、埋め立て、海水域の変化

特記事項 甲長 12 mm。形態はホンヤドカリに似るが、歩脚指節の先端は濃褐色、歩脚指節・鉗脚先端と第 2 触角はオレンジ色。また、しばしば同所的に生息するユビナガホンヤドカリとは上記色彩が異なる他、歩脚指節が前節より短く、額角が鋭く突き出すことで区別できる。



撮影：三島伸治

ウチノミカニダマシ

熊本県カテゴリー
絶滅危惧 I B 類 (EN)

Polyonyx utinomii Miyake, 1943

節足動物
カニダマシ科

環境省カテゴリー
絶滅危惧 I B 類 (EN)

選定理由 特殊生息生育環境、近年減少、地域的孤立・希少、その他（宿主の動態）

生息環境 内湾、干潟、潮下帯、砂泥底、ツバサゴカイの棲管内に共生

生息状況 天草、有明海の干潟。ツバサゴカイの棲管内に共生するが、共生率も低く、希少。

生存への脅威 海辺の改変等、干潟の減少・消失

特記事項 甲幅 5 mm の小型カニダマシ類。ツバサゴカイの棲管内雌雄のペアで見つかることが多い。

ムツアシガニ

熊本県カテゴリー
絶滅危惧 I B 類 (EN)

Hexapinus latipes (De Haan, 1835)

節足動物
ムシアシガニ科

環境省カテゴリー

選定理由 特殊生息生育環境、近年減少、地域的孤立・希少

生息環境 内湾、干潟、潮下帯、砂泥底、ツバサゴカイの棲管内に共生

生息状況 1970 年代には普通に見られたが、最近の記録は、天草松島西目原蔵島（2002 年）のみ。

生存への脅威 海辺の改変等、干潟の減少・消失

特記事項 甲幅 20 mm。甲は横長で、やや円筒状、前方で狭まる。額は狭く、眼柄・眼窩が小さい。甲面には小さなくぼみが多い。歩脚は 3 対で、長節が末端で肥大する。腕節・前節は短い幅広く、前縁・後縁には毛を密生する。相模湾以南。近縁のヒメムツアシガニはトゲイカリナマコの巣に共生。歩脚の長節が細く、末端でも肥大しない。



撮影：吉崎和美

アリアケヤワラガニ

熊本県カテゴリー
絶滅危惧ⅠB類 (EN)
環境省カテゴリー
情報不足 (DD)

Elamenopsis ariakensis (Sakai, 1969)

節足動物
ヤワラガニ科

選定理由 全国局限、特殊生息生育環境

生息環境 内湾、干潟、潮下帯、泥底

生息状況 有明海（天草など）、八代海（湾奥部）の低潮帯や潮下帯の泥地に分布。トゲイカリナマコに共生するが寄生率は低く、特に有明海では希少である。

生存への脅威 海辺の改変等、干潟の減少・消失

特記事項 甲幅 5 mm。甲は中央がくぼんだ五角形で、稜によって 10 程度の区画に分かれる。体色は淡いクリーム色。眼柄は短い。雌の腹板が癒合して 3 節になっている点特徴的。瀬戸内海でも記録があるが確認例は極めて少ない。



撮影：吉崎和美

ウモレベンケイガニ

熊本県カテゴリー
絶滅危惧ⅠB類 (EN)
環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

Clistocoeloma merguense De Man, 1888

節足動物
ベンケイガニ科

選定理由 県内局限、特殊生息生育環境

生息環境 内湾、塩性湿地、砂泥底、転石地

生息状況 羊角湾、八代海湾奥部（大野川河口、桂原など）、天草松島（永浦島）など。塩性湿地の流木や転石の下に生息。河川工事等によって減少している

生存への脅威 道路工事、河川改修、干潟の減少・消失、塩性湿地の減少・消失

特記事項 甲幅 16 mm。甲は幅広いやや丸みのある四角形で、泥色。額は広く、甲幅の半分以上。甲面や鉗脚には短毛の束が左右対称に並び、でこぼこしている。雄の鉗脚の可動指上縁には平たい粒が 14~19 粒並ぶ。捕らえると擬死のような行動を取る。東京湾以南。よく似たフジテガニは暖流の影響の強い内湾のみに分布。



撮影：逸見泰久

アリアケガニ

熊本県カテゴリー
絶滅危惧ⅠB類 (EN)
環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

Cleistostoma dilatatum De Haan, 1833

節足動物
ムツハアリアケガニ科

選定理由 全国局限

生息環境 内湾、河口、干潟、泥底

生息状況 有明海・八代海に多い他、瀬戸内海・伊万里湾などにも分布。河口域の高潮帯の泥底に巣穴を掘る。菊池川、緑川、白川、大野川、氷川、球磨川など。なお、県下最大と考えられていた白川河口の個体群は、堤防工事のため、ほぼ全滅した。

生存への脅威 河川改修、干潟の減少・消失、塩性湿地の減少・消失

特記事項 甲幅 20 mm。甲は丸みのある四角形。側縁には歯がなく、毛が密生する。歩脚は太く、粗い毛が密生し、先端が赤い。近縁種アリアケモドキの甲は六角形に近く、中央に強い稜が左右に走る。また、腹部は赤い。



撮影：逸見泰久

シオマネキ

Tubuca arcuata (De Haan, 1835)

節足動物
スナガニ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧ⅠB類 (EN)
環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由 全国局限

生息環境 内湾、河口、干潟、泥底

生息状況 有明海や八代海の河口域の高潮帯の泥底に生息。有明海の緑川、八代海の大野川や氷川に豊富。

生存への脅威 河川改修、海辺の改変等、干潟の減少・消失、塩性湿地の減少・消失

特記事項 甲幅 35 mm。甲は前方が広い台形。額が著しく狭い。雄の片方の鉗脚は巨大で赤い。近縁のハクセンシオマネキは乳白色または灰色の小型種で、砂地に生息。紀伊半島以南に分布。水産庁レッドデータブック：希少種。



撮影：逸見泰久

オオヨコナガピンノ

Tritodynamia rathbuni Shen, 1932

節足動物
カクレガニ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧ⅠB類 (EN)
環境省カテゴリー
絶滅危惧ⅠB類 (EN)

選定理由 特殊生息生育環境、近年減少

生息環境 内湾、干潟、潮下帯、泥底、ツバサゴカイの棲管に共生

生息状況 東京湾以南。有明海や八代海では低潮帯や潮下帯の泥底に生息。宿主ツバサゴカイの減少に伴い、本種も減少。

生存への脅威 埋め立て

特記事項 甲幅 20 mm。甲は横長の円筒形で平滑。鉗脚の掌部上縁には毛が密生。



標本所有者：熊本大学合津マリンステーション

ギボシマメガニ

Pinnixa balanoglossana Sakai, 1934

節足動物
カクレガニ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧ⅠB類 (EN)
環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由 全国局限、県内局限、特殊生息生育環境、近年減少、地域的孤立・希少

生息環境 内湾、干潟、潮下帯、泥底、ツバサゴカイの棲管に共生

生息状況 東京湾以南。有明海や八代海の低潮帯や潮下帯の泥底に生息。宿主ツバサゴカイの減少に伴い、本種も減少。

生存への脅威 海辺の改変等、水質汚濁、その他（宿主の動態）

特記事項 甲幅 20 mm。甲は横長の円筒形で平滑。鉗脚の掌部上縁には毛が密生。

ワダツミギボシムシ

熊本県カテゴリー
絶滅危惧ⅠB類 (EN)

Balanoglossus carnosus (Willey, 1899)

半索動物
ギボシムシ科

環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 全国局限、県内局限、近年減少、特殊生息生育環境

生息環境 内湾、干潟、砂泥底

生息状況 宇土半島、天草上島、天草下島周辺の干潟で見られるが、個体数は少ない。分布は低潮帯に限られ、生息域は極めて狭い。

生存への脅威 干潟の減少・消失

特記事項 全体は紐状で体長は1mに達する大型種。生時の色彩は黄白色。巣穴の周囲に砂粒からなる紐状の糞塊を積み上げるため、生息の確認が可能となる。

ヒガシナメクジウオ

熊本県カテゴリー
絶滅危惧ⅠB類 (EN)

Branchiostoma japonicum (Willey, 1897)

頭索動物
ナメクジウオ科

環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由 全国局限、県内局限、近年減少、特殊生息生育環境

生息環境 内湾、干潟、潮下帯、粗砂底

生息状況 球磨川河口、天草上島周辺などの干潟や潮下帯の粗砂地・貝殻砂に生息。減少傾向にあり、特に干潟では絶滅寸前である。

生存への脅威 干潟の減少・消失、その他（海砂採取）

特記事項 体長50mm。体色は乳白色で半透明、体型はシロウオに似る。生殖巣は粒状で、成熟すると精巣は淡青色、卵巣は淡黄色になる。西日本に広く分布するが、生息地は限られ、いずれの場所でも個体数は少ない。



撮影：逸見泰久

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

ウミサボテン

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー

Cavernularia elegans (Herklots, 1858)

刺胞動物
ウミサボテン科

選定理由 全国局限、県内局限

生息環境 内湾、外洋、干潟、砂底

生息状況 砂質の前浜干潟または潮下帯に生息。天草上島（龍ヶ岳）、天草下島（本渡干潟）では多く見られるが、その他の地域では少ない。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁

特記事項 体長30cm。体は棒状で、前半は白く後半はオレンジ色。砂に刺さるようにして生息し、夜間の満潮時に先端を伸ばし触手でプランクトンなどを採餌する。北海道西岸以南。



撮影：逸見泰久

ミドリシャミセンガイ

Lingula sp.

腕足動物
シャミセンガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー
情報不足 (DD)

選定理由 全国局限、県内局限、近年減少

生息環境 内湾、干潟、砂泥底、泥底

生息状況 白川、緑川、球磨川及び八代海の小河川の河口域の砂泥質及び泥質の干潟と潮下帯に生息。緑川河口、球磨川河口では豊富。近年の分子系統解析などの研究結果から、環境省のレッドリスト (2017) では、学名未確定のミドリシャミセンガイ類を sp. 1, 2, 3 に区分した。有明海産のものは、*Lingula* sp. 2 とされている。海外も含めた詳細な分布範囲は不明。和名についても、整理が必要である。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻長 30 mm。リン酸カルシウムの二枚の殻とキチン質の肉茎からなる。殻の表面は平滑で緑色を帯び、頂部には銀白色の剛毛が密生する。近縁のオオシャミセンガイの殻は暗褐色。ミドリシャミセンガイ類の個体数が多いのは、国内では有明海、八代海と奄美大島笠利湾のみ。



撮影：逸見泰久

セムシマドアキガイ

Cranopsis cumingii (A. Adams, 1853)

軟体動物
スカシガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由 全国局限、県内局限

生息環境 内湾～湾口、低潮帯～潮下帯、岩礫地

生息状況 県内では、天草下島 (富岡) で記録があるのみ (波部・菊池、1960) で、近年は確認されていない。茨城県・佐渡～九州、小笠原に分布。全国的に生息確認例は少ない。環境省の評価に準じた。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻長 5 mm。殻は傘型、放射肋は成長肋と交わり格子状になる。前背部に細い呼吸孔を持つ。



撮影：石川裕

イボキサゴ

Umbonium moniliferum (Lamarck, 1822)

軟体動物
ニシキウズ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 全国局限、県内局限、近年減少

生息環境 内湾、干潟、砂底、砂泥底

生息状況 県内では、野釜島、天草松島周辺 (前島、松島)、天草上島 (龍ヶ岳)、天草下島 (本渡、富岡、深海)、八代海 (球磨川河口) で確認されている。富岡湾では、干潟の開発やスナモグリ類の干潟攪拌によって個体群が大きく衰退したが、その後回復した。有明海奥部では、現在は殻しか確認されていない。東北～九州、朝鮮半島南部に分布。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻幅 20 mm。低円錐形、縫合下に疣列がある。殻底の滑層が大きいことで、近似種のキサゴと識別できる。



撮影：山下博由

ヒロクチカノコ

Neripteron pileolus (Récluz, 1850)

軟体動物
アマオブネ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 全国局限、県内局限

生息環境 内湾奥の河口汽水域や塩性湿地の水溜り・止水中、転石・流木下等

生息状況 県内では、有明海（菊池川～緑川河口、宇土市住吉）、天草上島（上津浦川など）、天草下島（羊角湾）、八代海（大野川～球磨川河口、佐敷川河口）で確認されている。三河湾・山口県以南～九州、中国大陸に分布。有明海・八代海では生息地が多いが、本種の国内分布は局所的で、生息環境も特殊であるため、絶滅リスクをやや高く評価した。

生存への脅威 河川改修、埋め立て、ヨシ原の減少、塩性湿地の減少・消失

特記事項 殻幅 20 mm。楕円半球形、殻口は大きく広がり、上下に張り出す。



撮影：山下博由

ウミヒメカノコ

Smaragdia sp.

軟体動物
アマオブネ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由 全国局限、県内局限

生息環境 内湾～外洋、低潮帯～水深 40m、海草藻場

生息状況 県内では、天草松島周辺の高空島沖で、1970年代に浅海の高潮帯に少産したという記録がある（弘田ほか、1976）。近年は、大矢野島周辺から殻が採集されているが、生息は確認されていない。伊豆半島～南西諸島に分布。ウミヒルモ類の群落などに生息する。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、水質汚濁

特記事項 殻長 4 mm。亜球形、黒い縦縞模様や白帯がある。



撮影：和田太一

カヤノミカニモリ

Clypeomorus bifasciata (G. B. Sowerby II, 1855)

軟体動物
オニノツノガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 全国局限、県内局限、近年減少

生息環境 外洋水の流入する湾、外洋、中潮帯の岩礫・砂礫地

生息状況 県内では、天草下島（通詞島、富岡、牛深）、八代海南部（水俣）に分布。一時、個体数が減少傾向にあったが、牛深や水俣では現在多く見られる。房総半島及び朝鮮半島以南、インド・西太平洋に分布。琉球列島以南では多産するが、本州～九州の個体群は、衰退・増加を繰り返している。その要因は海水温の変化で、機会的な低水温によって衰退が起きると考えられる。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、海水域の変化、その他（低水温、土砂・浮遊物の堆積）

特記事項 殻長 20 mm。太短い塔型で、縦肋と螺肋が交わり顆粒状になる。



撮影：山下博由

トウガタカニモリ

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー

Rhinoclavis sinensis (Gmelin, 1791)

軟体動物
オニツノガイ科

選定理由 県内局限、近年減少

生息環境 湾口～外洋、転石地、砂底

生息状況 県内では、天草下島（富岡、天草灘沿岸）で確認されている。富岡では多産したとされるが、近年の生息状況は不明。房総半島以南、インド・西太平洋に分布。熱帯性種であり、機会的な加入や衰退を繰り返していると考えられる。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、海水域の変化、水質汚濁、その他（低水温）

特記事項 殻長 60 mm。太い塔型で、3～5本の螺肋を持ち、縫合下の螺肋は結節が強い。



撮影：山下博由

クロヘナタリ

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

Cerithideopsis largillierti (Philippi, 1848)

軟体動物
キバウミニナ科

選定理由 全国局限、県内局限

生息環境 内湾、河口、干潟、泥底

生息状況 県内では、有明海（唐人川河口～宇土半島東部）、大矢野島、八代海（大野川～球磨川河口、維和島）に分布。大矢野島、維和島の個体群は消滅寸前である。有明海・八代海奥部の河口域では豊富に生息する。日本、朝鮮半島、中国に分布。日本では、瀬戸内海西部、有明海、八代海にのみ分布する。

生存への脅威 河川改修、埋め立て、ヨシ原の減少、干潟の減少・消失、塩性湿地の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻長 30 mm。やや太い塔型で、螺層は丸みを帯び体層はくびれる。縦肋は体層で弱くなり、外唇は肥厚しない。茶～灰黒色で色帯がある。



撮影：山下博由

イボウミニナ

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

Batillaria zonalis (Bruguière, 1792)

軟体動物
ウミニナ科

選定理由 全国局限、県内局限、近年減少

生息環境 内湾、干潟、砂泥底・泥底

生息状況 県内では、天草松島周辺（前島、永浦島）、天草下島（富岡、羊角湾）、八代海（球磨川河口など）に分布。羊角湾では多産する。前島、富岡では消滅した。有明海奥部では、現在は殻が確認されるのみ。本州及び朝鮮半島以南、インド・西太平洋に分布。日本本土の個体群は、1990年代以降、衰退した場所が多い。温暖な海域の泥干潟に大きな個体群が見られる。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻長 40 mm。塔型で、縫合下に白色帯を備え、外唇の上部は湾入する。



撮影：高重博

ムチカワニナ（タケノコカワニナ）

Stenomelania crenulata (Deshayes, 1838)

軟体動物
トゲカワニナ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類（VU）
環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN）

選定理由 全国局限、近年減少

生息環境 内湾、河口、汽水～淡水

生息状況 県内では、有明海、天草、八代海の河川の汽水域に生息。本州～九州、奄美、沖縄島に分布。分子系統解析により、沖縄島などのムチカワニナと本州～九州の *Stenomelania rufescens* (Martens, 1860) タケノコカワニナは同種と考えられ (Hidaka & Kano, 2014)、その見解に従った。熊本県では、比較的普通に見られるが、種全体の分布域は狭く、消滅した産地も多いため、やや重い評価とした。

生存への脅威 河川改修、埋め立て、水質汚濁、その他（低水温）

特記事項 殻長 60 mm。やや太く長い塔型、やや薄質、黒色。環境省の評価は、ムチカワニナ：絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN）、タケノコカワニナ：絶滅危惧Ⅱ類（VU）である。



撮影：吉崎和美

サナギモツボ

Finella pupoides A. Adams, 1860

軟体動物
スナモチツボ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類（VU）
環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類（VU）

選定理由 全国局限、県内局限、近年減少

生息環境 内湾～湾口、低潮帯～潮下帯、砂泥底、泥底、アマモ場

生息状況 県内では、大矢野島、天草下島（富岡）、八代海（水俣）で記録があるが、近年は生息が確認されていない。富岡ではかつて、砂泥底に多産という記録がある（波部・菊池、1960）。県内での本種についての調査精度は低いため、評価を下げた。本州～南西諸島、インド・西太平洋に分布。全国的に近年の生息情報はごく少ない。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻長 4 mm。細長い蛹形、螺層は膨らみ、縫合が深い。



撮影：石川裕

スジウネリチョウジガイ

Rissoina costulata Dunker, 1860

軟体動物
ホソスジチョウジガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類（VU）
環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類（VU）

選定理由 県内局限、近年減少

生息環境 内湾～外洋、低潮帯～潮下帯、主に岩礫地の石の裏

生息状況 県内では、大矢野島、天草下島（通詞島、富岡）で記録がある。富岡では、かつて岩礫地に普通に見られたとされる。県内では、ヌノメチョウジガイやゴマツボよりも記録が少ない。房総・男鹿半島～九州、小笠原、朝鮮半島に分布。日本では、各地の打ち上げで普通に見られる種であったが、内湾域では減少した地域が多い。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、水質汚濁

特記事項 殻長 5 mm。塔型、厚質、白色、太い縦肋はやや湾曲し斜行する。



撮影：山下博由

ゴマツボモドキ

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

Hyalia sp.

軟体動物
ワカウラツボ科

選定理由 全国局限、県内局限

生息環境 内湾～湾口、潮間帯、岩礫地、砂泥底、タイドプール

生息状況 県内では、天草下島（富岡）で記録があるが、近年確認されていない。本州～九州に分布。環境省の評価に準じた。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、水質汚濁

特記事項 殻長 4 mm。

ヨシダカワザンショウ

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

Angustassiminea yoshidayukioi (Kuroda, 1959)

軟体動物
カワザンショウ科

選定理由 県内局限、近年減少

生息環境 河口、塩性湿地、高潮帯

生息状況 県内では、八代海（球磨川河口、佐敷川河口、水俣）で確認されている。本州～九州に分布。河口塩性湿地に生息するカワザンショウ類の中では、最も潮位の高い場所に生息する種で、河川改修、護岸、歩道建設などの影響を受けやすい。

生存への脅威 河川改修、埋め立て、ヨシ原の減少、塩性湿地の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻長 3 mm。卵円形で膨らみがあり、茶褐色、光沢が強い。



撮影：和田太一

アズキカワザンショウ

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

Pseudomphala miyazakii (Habe, 1943)

軟体動物
カワザンショウ科

選定理由 全国局限、県内局限

生息環境 内湾、河口、高潮帯、塩性湿地

生息状況 県内では、有明海（緑川など）、八代海（大野川～氷川河口）に分布。天草には分布していない。中国大陸産のヒイロカワザンショウ *P. latericea* (H. & A. Adams, 1863) の亜種とされてきたが、近年は有明海、八代海に分布する日本固有種と考えられている。有明海沿岸の汚染が進んだ河川では減少している。

生存への脅威 河川改修、埋め立て、ヨシ原の減少、塩性湿地の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻長 7 mm。太い紡錘形、やや厚質、紅色やアズキ色で、縫合の下に螺条と淡色帯がある。



撮影：山下博由

カハタレカワザンショウ

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

Assimineidae gen. D & sp.

軟体動物
カワザンショウ科

選定理由 全国局限、県内局限

生息環境 内湾、高潮帯～中潮帯、干潟、塩性湿地、砂泥底の岩礫下

生息状況 県内では、有明海（熊本市河内町塩屋）で生息が確認されていたが、埋め立て工事によって生息地が消失した。八代海（球磨川河口）にも分布し、2009年以降も生息が確認されている（和田、私信）。東京湾、山口県～九州に分布。

生存への脅威 埋め立て、干潟の減少・消失、塩性湿地の減少・消失

特記事項 殻幅 1.3 mm。蝸牛型で微小、半透明、薄質。未記載属・種。



撮影：和田太一

フドロ

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

Margistrombus robustus (G. B. Sowerby III, 1875)

軟体動物
スイショウガイ科

選定理由 全国局限、県内局限

生息環境 内湾、干潟、低潮帯～潮下帯、砂底・砂泥底

生息状況 県内では、天草～八代海の干潟・浅海に分布。天草下島（新和）では、産卵が観察された（高重、私信）。本州～九州、西太平洋に分布。琉球列島には分布しておらず、日本本土の個体群は地理的に隔離された個体群である上に、国内の分布域も限定的である。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁、その他（低水温）

特記事項 殻長 60 mm。太い紡錘形で、張り出した外唇は体層上部に接合する。



撮影：山下博由

アダムスタマガイ

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

Cryptonatica adamsiana (Dunker, 1860)

軟体動物
タマガイ科

選定理由 全国局限、県内局限、近年減少

生息環境 内湾、干潟、低潮帯～潮下帯、砂底

生息状況 県内では、大矢野島、天草松島周辺（池島、永浦島）、天草下島（新和）、八代海（球磨川河口、芦北町）で確認されている。池島・永浦島の低潮帯では、かつて普通に見られた。新和や球磨川河口では、近年も生息が確認されている（高重、和田、私信）。本州～九州に分布。各地の打ち上げで普通に見られる種であったが、生息地は減少傾向にあり、特に九州では生息地の消滅が少なくない。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻長 25 mm。球形、臍盤は小さく臍は小さく開く、殻口は半月形で、蓋は石灰質白色で平滑。茶褐色で、幅広い色帯を持つ。



撮影：高重博

オリレシラタマ

Sigatica bathyraphe (Pilsbry, 1911)

軟体動物
タマガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 県内局限、近年減少

生息環境 内湾湾口部～外洋、低潮帯～潮下帯の砂底

生息状況 県内では大矢野島、天草下島(牛深)で、記録があるのみ。本州～九州に分布。著者らの有明海全域のドレッジ・採泥調査では、ツガイは多く確認されているが、本種は未確認。生息地・個体数は少ないものと思われる。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻長 8 mm。亜球型、縫合は溝状、臍穴は明瞭に開く。白色、黄褐色の殻皮を持つ。



撮影：山下博由

ウネナシトカケ

Acrilla acuminata (G. B. Sowerby II, 1844)

軟体動物
イトカケガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由 全国局限、県内局限

生息環境 内湾～外洋、低潮帯～潮下帯、砂底、砂泥底

生息状況 県内では、宇土市下網田町(石川、私信)、球磨川河口(石川、和田、私信)に分布しており、球磨川河口では 2009 年以降も生息が確認されている(和田、私信)。房総～九州、朝鮮半島、中国大陸、インドネシアに分布。近年、東京湾でも確認されている。分布は広く、様々な海域に出現するが、個体数は多くない。環境省の評価に準じた。

生存への脅威 海辺の改変等、水質汚濁

特記事項 殻長 45 mm。螺層の多い膨らみのある円錐形、薄質、茶色と白の色帯がある。



撮影：石川裕

オダマキ

Epitonium auritum (G.B.Sowerby II, 1844)

軟体動物
イトカケガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 全国局限、県内局限、近年減少

生息環境 開放的な湾や砂浜、低潮帯～潮下帯、砂底・細砂底

生息状況 県内では天草下島(富岡、砂月)で記録がある。房総・佐渡～九州、西太平洋に分布。国内ではかつて、各地の砂浜で豊富な打ち上げが見られたが、個体数が減少した場所が多い。砂浜の環境の劣化を示す種のひとつと言えよう。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、砂浜の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻長 20 mm。塔型、薄質、褐色の 3 本の色帯をめぐらす。糸条の縦肋は、ところにより太くなる。



撮影：阪本登

カニノテムシロ

Nassarius bellulus (A. Adams, 1852)

軟体動物
ムシロガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 全国局限、県内局限、近年減少

生息環境 内湾、干潟、中潮帯～潮下帯、砂泥底・泥底

生息状況 県内では、天草、八代海（日奈久、戸馳島など）に分布。県内では、大矢野島～天草松島周辺が分布の北辺になっており、個体群の生成・消滅が見られる。羊角湾では多産する。紀伊半島以南、インド・太平洋に分布。熱帯性種で、本州～九州では生息地が少ない。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁、その他（低水温）

特記事項 殻長 10 mm。殻は厚く、茶褐色で、明瞭な縦肋と螺溝があり、内唇滑層は広がり体層を覆う。殻上にマキガイイソギンチャクが共生することがある。



撮影：吉崎和美

オマセムシロ

Reticunassa praematurata Kuroda & Habe in Habe, 1960

軟体動物
ムシロガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由 全国局限、県内局限、模式産地、近年減少

生息環境 内湾～湾口部、低潮帯～潮下帯、砂底・砂泥底

生息状況 天草下島の富岡が模式産地であるが、近年は確認されていない。駿河湾～瀬戸内海～九州に分布。生息地・個体数ともに少ない。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻長 5 mm。薄質、黄褐色、縦肋は体層で弱くなり消失する。



撮影：石川裕

ハネナシヨウラク

Ceratostoma rorifluum (A. Adams & Reeve, 1849)

軟体動物
アッキガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由 全国局限、県内局限、分布境界、近年減少

生息環境 内湾～外洋、中潮帯～低潮帯、岩礁・岩礫地

生息状況 県内では、野釜島、天草松島周辺（前島、池島、飛竜島）、天草下島（通詞島、富岡、牛深）などで確認されている。野釜島や天草松島周辺では、かつて多産したが、一時大きく減少した。近年は、通詞島で生息が確認されている。天草周辺は本種の分布南限である可能性がある。日本海～九州西岸、朝鮮半島、中国大陸北部に分布。響灘、玄界灘沿岸などで、1990年代以降激減したが、やや回復傾向にある。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、水質汚濁、その他（インポセックス）

特記事項 殻長 45 mm。太い紡錘形、やや厚質、縦張肋は明瞭だが翼状に発達しない。青灰色で、淡色帯を持つことがある。



撮影：高重博

バイ

Babylonia japonica (Reeve, 1843)

軟体動物
バイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 県内局限

生息環境 内湾、干潟、低潮帯～潮下帯、砂底・砂泥底

生息状況 北海道南部～九州、朝鮮半島南部に分布。1980年代後半以降、日本各地で激減した種で、有機スズ化合物によるインボセックスにより個体群が衰退した。その後、有機スズ化合物の規制により、全国的に個体群が復活している。熊本県沿岸にも広く普通に分布していたが、一時大きく減少した。近年は、有明海、天草などで確認され、漁獲物が市場に出回るようになっているが、県内の個体群の全体的な状況はよく把握されていない。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁、捕獲・採集、その他 (インボセックス)

特記事項 殻長 70 mm。太い塔型、厚質、白地に褐色斑列がある。生時は褐色の厚い殻皮を被る。水産有用種で、バイ籠で漁獲する。



撮影：山下博由

オリエボラ

Scalptia scalariformis (Lamarck, 1822)

軟体動物
コロモガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由 全国局限、県内局限

生息環境 内湾、干潟、潮下帯、砂泥底、泥底

生息状況 県内では、有明海沿岸で殻が確認されているのみ。房総半島～九州、黄海、インド・西太平洋に分布。有明海の湾奥部では少なくないが、熊本県沿岸での確認例は少ない。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻長 25 mm。殻はやや厚く、規則的な強い縦肋があり、螺肋は弱い。



撮影：山下博由

ベッコウイモ

Conus fulmen Reeve, 1843

軟体動物
イモガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由 全国局限、県内局限、近年減少

生息環境 外洋、中潮帯～水深 50m、岩礁・岩礫地

生息状況 県内では、天草下島 (富岡、妙見浦、魚貴、牛深) で確認されている。妙見浦、牛深では、近年普通に産するのが確認された (高重、私信)。房総・男鹿半島～九州、韓国、台湾に分布。温帯性のイモガイで、日本本土で最も普通のイモガイであったが、各地で大きく減少した。

生存への脅威 海辺の改変等、水質汚濁、その他 (インボセックス)

特記事項 殻長 70 mm。



撮影：高重博

タクミニナ

Mathilda sinensis P. Fischer, 1867

軟体動物
タクミニナ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類（VU）
環境省カテゴリー

選定理由 全国局限、県内局限

生息環境 内湾、低潮帯～潮下帯、砂泥底、泥底

生息状況 県内では近年、有明海（宇土半島沖）で生息が確認されている。個体数は少ない。天草下島（富岡）でも記録があるが、近年は確認されていない。本州～九州、インド・西太平洋に分布。

生存への脅威 海辺の改変等、海水域の変化、水質汚濁

特記事項 殻長 10 mm。塔型、やや薄質、茶褐色、螺層中央の 2 本の螺肋は竜骨状で強く、縦肋は細かく密。

コメツブツララ

Acteocina decoratoides (Habe, 1955)

軟体動物
オオコメツブガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類（VU）
環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類（VU）

選定理由 全国局限、県内局限、近年減少

生息環境 内湾、干潟、砂泥底、泥底

生息状況 県内では、球磨川河口に分布するが、2009 年以降は生息が確認されていない（和田、私信）。紀伊半島～九州、種子島に分布。具体的に把握されている生息地は少ない。環境省の評価に準じた。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻長 3 mm。薄質、白色半透明、俵形、螺塔は明らか。



撮影：石川裕

カミスジカイコガイダマシ

Cylichnatys angusta (Gould, 1859)

軟体動物
ブドウガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類（VU）
環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類（VU）

選定理由 全国局限、県内局限、近年減少

生息環境 内湾、干潟、砂泥底、泥底

生息状況 県内では、天草下島（富岡）、球磨川河口に分布する。富岡では近年の記録がない。球磨川河口では、2009 年以降は生息が確認されていない（和田、私信）。北海道南部～九州、朝鮮半島、中国大陸に分布。環境省の評価に準じた。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻長 8 mm。薄質、白色半透明、俵形、螺層は巻き込み、殻表の細い螺条を持つ。



撮影：石川裕

クルマヒラマキ

Helicorbis cantori (Benson, 1850)

軟体動物
ヒラマキガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由 全国局限、県内局限

生息環境 汽水、淡水

生息状況 県内では、有明海沿岸、天草上島で確認されている。海岸付近の汽水域近くの淡水に生息する。本州～琉球列島、朝鮮半島～東南アジアに分布。別名、レンズヒラマキ。

生存への脅威 池沼の改修、河川改修、水湿地の開発、水質汚濁

特記事項 殻径 10 mm。低平な円盤状で、薄質、鉛色、体層は幅広く周縁下部は角張り、臍孔の窪みは広い。



撮影：和田太一

スオウクチキレ

Boonea suoana Hori & Nakamura, 1999

軟体動物
トウガタガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 全国局限、県内局限、特殊生息生育環境

生息環境 内湾、潮間帯、共生

生息状況 県内では、有明海（熊本市）、天草上島に分布。カリガネエガイ類 *Barbatia* spp. に外部共生する。瀬戸内海～九州に分布。生息地は多くない。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁、その他（宿主の減少）

特記事項 殻長 4 mm。



撮影：石川裕

ヌノメホソクチキレ

Iphiana tenuisculpta (Lischke, 1872)

軟体動物
トウガタガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由 全国局限、県内局限、近年減少

生息環境 内湾、干潟、砂浜、中潮帯～潮下帯、砂底・砂泥底・泥底

生息状況 県内では、球磨川河口に分布し、2009年以降も生息が確認されている（和田、私信）。房総・但馬地方～九州に分布。環境省の評価に準じた。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻長 10 mm。殻はやや厚質、茶褐色、細長い塔型。



撮影：石川裕

ヌカルミクチキレ

Sayella sp.

軟体動物
トウガタガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 全国局限、県内局限

生息環境 内湾、干潟、泥底

生息状況 県内では、大矢野島、八代海（大野川、球磨川）に分布。球磨川河口では、近年も確認されている（和田、私信）。個体数は少ない。本州～九州に分布。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失

特記事項 殻長4mm。蛹形、薄質、茶褐色で光沢が強く、螺層はやや丸く、縫合のくびれは明らか、軸唇に弱い褶が1つある。



撮影：山下博由

マキモノガイ

Leucotina diana (A. Adams, 1854)

軟体動物
トウガタガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定理由 全国局限、県内局限、特殊生息生育環境

生息環境 内湾～外洋、低潮帯～潮下帯、ハボウキなどの二枚貝に着生し体液を吸う

生息状況 県内では、天草松島周辺（前島）、天草下島（富岡、新和）で確認されている。前島産（渡部ほか、2008）は日本ベントス学会（2012）に、新和産は高重・武井（2019）に図示されている。新和では普通に産する（高重、私信）。本種は、ハボウキが多産する場所でも、まったく見られないことがあり、個体群形成は局地的であると考えられる。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁、その他（ホストの減少）

特記事項 殻長35mm。やや太い塔型、白色～肌色、太い螺肋をめぐらす。



撮影：高重博

イソアワモチ

Peronia verruculata (Cuvier, 1830)

軟体動物
ドロアワモチ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー

選定理由 全国局限、県内局限

生息環境 内湾～外洋、中潮帯、岩礁

生息状況 県内では、天草下島（通詞島、富岡、牛深）、水俣で確認されている。熊本県での生息地は少ない。本州以南、インド・西太平洋に分布。九州以北の個体群の分布は偏在的で、不安定な傾向にある。岩礁上の藻類の安定した繁茂や、湿度、隠蔽場所などが生息条件に影響すると考えられる。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、水質汚濁

特記事項 体長50mm。長楕円形、肉厚、背面はやや硬く黄緑色～灰褐色、多数の短い大小の疣状突起があり、大きい突起の先端には眼点がある。腹面は緑青色で、腹足は幅広い。



撮影：山下博由

センベイアワモチ

Platevindex sp.

軟体動物
ドロアワモチ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

選定理由 全国局限、県内局限

生息環境 内湾、河口、高潮帯、塩性湿地

生息状況 県内では、有明海（玉名市、熊本市）、大矢野島、天草上島、天草下島（椋の浦、羊角湾）、八代海（宇土半島～芦北）に分布。熊本市河内町塩屋には大きな個体群が存在したが、埋め立てにより消滅した。椋の浦の個体群も、樋門の建設によって消滅した可能性が高い。しかし、熊本県にはかなり多くの個体群がある。周防灘、九州に分布。

生存への脅威 河川改修、埋め立て、ヨシ原の減少、塩性湿地の減少・消失、水質汚濁

特記事項 体長 30 mm。卵円形・扁平で、背部は比較的硬く、茶褐色の地に黒い縦帯や斑紋がある。腹足は狭く、体の幅の3分の1程度。



撮影：和田太一

ナラビオカミミガイ

Auriculastra duplicata (L.Pfeiffer, 1854)

軟体動物
オカミミガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由 全国局限、県内局限、近年減少

生息環境 内湾、河口、高潮帯、塩性湿地

生息状況 県内では、有明海、天草、八代海の河口の塩性湿地に生息。生息個体数は少ない。河川改修や埋め立てで生息地が減少している。半地中生活者で、岩礫と土の隙間、カニ穴などに生息することが多い。三河湾～九州、朝鮮半島、中国に分布。

生存への脅威 河川改修、ヨシ原の減少、塩性湿地の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻長 9 mm。卵円形、厚質、緑黄褐色、内唇下部に1歯、軸唇に2歯があり、外唇は肥厚しない。



撮影：吉崎和美

オカミミガイ

Ellobium chinense (L. Pfeiffer, 1854)

軟体動物
オカミミガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由 全国局限、県内局限、近年減少

生息環境 内湾、河口、高潮帯、塩性湿地

生息状況 県内では、有明海、天草、八代海に分布。汚染の進んだ河川では減少・消滅している。熊本市河内町塩屋では埋め立てによって消滅した。三河湾～九州、朝鮮半島、中国に分布。河口域の埋め立て、護岸、汚染などによって、各地で減少傾向にある。河口のヨシ原・塩性湿地を代表する種の一つで、その環境指標種としても重要視される。

生存への脅威 河川改修、埋め立て、ヨシ原の減少、塩性湿地の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻長 30 mm。長卵形、やや厚質、茶褐色の厚い殻皮を被り、老成個体では殻皮が剥れて白色の殻が露出する。



撮影：和田太一

シノミミミガイ

Cassidula plecotrematoides japonica Möllendorf, 1901

軟体動物
オカミミガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

選定理由 全国局限、県内局限、近年減少

生息環境 内湾、河口、高潮帯、塩性湿地、岩盤のノッチや岩礫・石垣の間

生息状況 県内では、有明海（熊本市）、天草松島周辺（前島、永浦島）、天草下島（富岡、羊角湾）、八代海（芦北、津奈木）で確認されている。熊本市河内町塩屋の生息地は埋め立てによって消滅した。芦北・津奈木海岸では、道路工事の影響を回避するため一部の個体群の移植が行われた。三浦半島・山口県北部～九州に分布。南西諸島以南のものは、ヒゲマキシノミミミガイ *Cassidula plecotrematoides plecotrematoides* (Möllendorf, 1895)として、暫定的に区別されている。



撮影：和田太一

生存への脅威 河川改修、埋め立て、塩性湿地の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻長 10 mm。

クリロコミミガイ

Laemodonta siamensis (Morelet, 1875)

軟体動物
オカミミガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由 全国局限、県内局限、近年減少

生息環境 内湾、河口、高潮帯、塩性湿地

生息状況 県内では、有明海（熊本市）、天草下島（羊角湾）、八代海（宇土半島～芦北）などに分布。熊本市河内町塩屋、宇土半島の舟津では、埋め立てによって生息地が失われた。本州以南～東南アジアに分布。内湾、河口域の塩性湿地の泥地に生息する。



撮影：山下博由

生存への脅威 河川改修、埋め立て、ヨシ原の減少、塩性湿地の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻長 8 mm。卵円形で殻頂は侵食されていることが多く、細い螺肋を持ち、内唇に 2 歯、軸唇に 1 歯があり、殻口は肥厚し内側に 1 歯がある。

キヌカツギハマシノミ

Melampus sincaporensis L. Pfeiffer, 1855

軟体動物
オカミミガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由 全国局限、県内局限、近年減少

生息環境 内湾、河口、高潮帯、塩性湿地

生息状況 県内では、有明海、天草、八代海の河口・内湾のヨシ原・塩性湿地に分布。河川改修や埋め立てで生息地が減少している。熊本市河内町塩屋では埋め立てによって消滅した。本州～九州、朝鮮半島～東南アジアに分布。



撮影：山下博由

生存への脅威 河川改修、埋め立て、ヨシ原の減少、塩性湿地の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻長 10 mm。卵円形、やや薄質、茶～黒褐色で色帯があり、やや薄い殻皮を被る。

サザナミマクラ

Modiolatus flavidus (Dunker, 1857)

軟体動物
イガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 全国局限、県内局限、近年減少

生息環境 内湾～湾口、低潮帯～水深 10m、海草藻場、砂泥底

生息状況 県内では、天草下島（巴湾、牛深）で記録がある。巴湾ではアジモ帯（＝アマモ帯）に普通に見られたとされる（波部・菊池、1960）が、近年は確認されていない。房総以南、南西諸島～インド・太平洋に分布。主な生息地は奄美大島以南である。九州でも北部まで分布するが、記録は少ない。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻長 60 mm。薄質、長卵型、表面は黄褐色、内面は真珠光沢がある。



撮影：山下博由

スミノエガキ

Crassostrea ariakensis (Fujita, 1913)

軟体動物
イタボガキ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由 全国局限、県内局限

生息環境 内湾、河口、干潟、中潮帯～低潮帯、砂泥底・泥底

生息状況 県内では、有明海（唐人川～緑川）、八代海（大野川～球磨川）に分布。河口内の汽水域から、河口外の干潟にかけて分布し、シカメガキ、マガキよりも低い潮位に生息する。滞筋の回りや、その周囲の軟泥底では、泥の中で長大に成長する。大野川河口の個体群規模は大きく、本種の健全な生息地として非常に重要である。有明海・八代海、朝鮮半島、中国に分布。

生存への脅威 河川改修、海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁、採集・捕獲

特記事項 類円形や長方形で、長方形のものでは殻高が 30 cm 以上に達する。殻は厚く、成長脈が板状になる。



撮影：山下博由

シナヤカスエモノガイ

Thracia concinna Reeve, 1859

軟体動物
スエモノガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

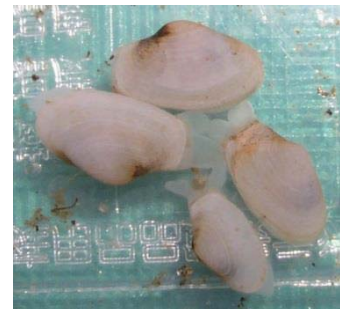
選定理由 全国局限、県内局限

生息環境 内湾～外洋、中潮帯～潮下帯、砂底

生息状況 県内では、天草下島（富岡、魚貴）で記録されている。天草上島近海の浚渫砂や蛸壺、天草沖のドレッジなどでは採集されていない。房総・男鹿半島～九州、朝鮮半島に分布。内湾の干潟、ポケットビーチの砂底、外洋の粗砂底など、比較的多様な環境で見られるものの、個体群の存在は限定的で、「広く普通」には分布していない。

生存への脅威 河川改修、海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻長 20 mm。亜方形、薄質、白色、膨らみは強い。



撮影：山下博由

ツルマルケボリ

Borniopsis tsurumaru Habe, 1959

軟体動物
ウロコガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由 全国局限、県内局限、特殊生息生育環境

生息環境 内湾、干潟、砂泥底、共生

生息状況 県内では、大矢野島、天草松島周辺、八代海（氷川）に分布。模式産地は有明海。トゲイカリナマコの巣穴中に生息し、その体表にも着生する。本州～九州、朝鮮半島、中国に分布。有明海以外からの生息情報は少ない。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、水質汚濁、その他（ホストの減少）

特記事項 殻長 10 mm。楕円形、殻表には微細で顕著な放射条と成長脈がある。殻頂は突出し膨らむ。



撮影：石川裕

セワケガイ

Borniopsis yamakawai (Yokoyama, 1922)

軟体動物
ウロコガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由 全国局限、県内局限、特殊生息生育環境

生息環境 内湾～湾口、岩礫、礫泥底、共生

生息状況 県内では、天草下島（富岡）で記録されているのみ（波部・菊池、1960）。近年の確認情報はない。房総半島～先島諸島に分布。ユムシ類の巣穴への住み込みが確認されている。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、水質汚濁、その他（ホストの減少）

特記事項 殻長 15 mm。丸い亜三角形、薄質、白色、膨らみは弱い。



撮影：石川裕

ニッポンヨーヨーシジミ

Divariscintilla toyohiwakensis Yamashita, Haga & Lützen, 2011

軟体動物
ウロコガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由 全国局限、県内局限、特殊生息生育環境

生息環境 内湾～湾口、干潟、低潮帯～潮下帯、砂泥底、共生

生息状況 県内では、天草上島の1ヶ所で生息が確認されている（石川、私信）。大分県、福岡県、熊本県の3ヶ所で分布が確認されている。砂泥質干潟低潮帯のシマトラフヒメシヤコの巣穴内に生息する。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、水質汚濁、その他（ホストの減少）

特記事項 殻長 4 mm。類円形、薄質、半透明白色、膨らみは弱い。



撮影：山下博由

オウギウロコガイ

Galeommella utinomii Habe, 1958

軟体動物
ウロコガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

選定理由 全国局限、県内局限、模式産地

生息環境 内湾～湾口、干潟～潮下帯、砂泥底、岩礫

生息状況 天草松島周辺（前島）、天草下島（富岡）で記録されている。富岡が模式産地であるが、近年は確認されていない。東京湾～九州に分布。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻長 6 mm。楕円形、薄質、約 20 本の太い放射肋があり、腹縁も肋で刻まれる。赤い突起を持った外套膜が殻を覆う。



撮影：和田太一

マゴコロガイ

Peregrinamor ohshimai Shôji, 1938

軟体動物
ウロコガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 全国局限、県内局限、特殊生息生育環境

生息環境 内湾、干潟、砂泥底・泥底、共生

生息状況 県内では、天草松島周辺、天草下島（富岡）、八代海（球磨川河口）などに分布。富岡では近年確認されていない。本州～九州、中国に分布。内湾の泥底に生息するアナジャコの胸部に共生する。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁、その他（ホストの減少）

特記事項 殻長 13 mm。細い鎌形、やや薄質、殻表は平滑で薄い殻皮を被る。



撮影：和田太一

フジタニコハクノツユ

Tellimya fujitaniana (Yokoyama, 1927)

軟体動物
ウロコガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由 全国局限、県内局限

生息環境 内湾～湾口、干潟～潮下帯、砂泥底

生息状況 県内では、天草下島（富岡）で記録されているのみ（波部・菊池、1960）。近年の確認情報はない。陸奥湾～九州、中国大陸に分布。生息情報がごく少ない種である。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、水質汚濁

特記事項 殻長 7 mm。楕円形、薄質、白色で光沢がある、膨らみは弱い。



撮影：石川裕

イソカゼガイ

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類（VU）
環境省カテゴリー

Basterotia gouldi (A. Adams, 1864)

軟体動物
イソカゼガイ科

選定理由 全国局限、県内局限、特殊生息生育環境

生息環境 内湾～湾口、特殊生育環境

生息状況 県内では、天草下島（富岡）で記録されているのみ（波部・菊池、1960）。近年の確認情報はない。房総・男鹿半島～九州に分布。ミドリユムシ類の体表・巣穴に共生することが知られている（日本ベントス学会、2012）。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、水質汚濁、その他（宿主の減少）

特記事項 殻長 10 mm。



撮影：石川裕

ユキノアシタ

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類（VU）
環境省カテゴリー

Siliqua albida (A. Adams & Reeve, 1850)

軟体動物
ナタマメガイ科

選定理由 全国局限、県内局限

生息環境 内湾、外洋、潮下帯、砂泥底

生息状況 県内では、大矢野島（長砂連沖）、天草上島（有明海側）、天草下島（魚貫）で確認されている。本州～九州、朝鮮半島、中国、西太平洋に分布。国内では生息地が限定的で、個体数も少ない。

生存への脅威 海辺の改変等、水質汚濁

特記事項 殻長 60 mm。ナイフ形、薄質、殻頂は後方に偏り、後端は丸く、前端は鈍く尖る。黄褐色の薄い殻皮を被る。



撮影：山下博由

オオモモノハナ

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類（VU）
環境省カテゴリー
準絶滅危惧（NT）

Macoma praetexta (Martens, 1865)

軟体動物
ニッコウガイ科

選定理由 全国局限、県内局限

生息環境 内湾～外洋、砂浜、低潮帯～水深 10m、砂泥底

生息状況 県内では、天草下島（白鶴浜、魚貫、砂月）に分布。魚貫、砂月では、近年も普通に見られる（武田、私信）。熊本県での生息域は狭く、他の生息地からも孤立している。北海道南部～九州、朝鮮半島、中国大陸、台湾に分布。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、砂浜の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻長 40 mm。楕円形、薄質、膨らみは弱く、殻は普通桃色。



撮影：山下博由

トガリュウシオガイ

Moerella culter (Hanley, 1844)

軟体動物
ニッコウガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 全国局限、県内局限

生息環境 内湾、干潟、河口、中潮帯～水深5m、泥底

生息状況 県内では、天草下島（羊角湾）、八代海（芦北、袋湾）に生息する。羊角湾では個体数が多い。紀伊半島～南西諸島、中国、フィリピンに分布。泥干潟や河口泥底に生息し、港湾内の軟泥底でも確認される。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻長17mm。亜三角形、やや薄質、紅色、後端はやや尖る。



撮影：高重博

テリザクラ

Moerella iridescens (Benson, 1842)

軟体動物
ニッコウガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由 全国局限、県内局限、分布境界

生息環境 内湾、干潟、中潮帯～低潮帯、泥底

生息状況 県内では、有明海（唐人川～宇土半島東部）、天草（羊角湾）、八代海（大野川～芦北、戸馳島）の泥干潟に分布。瀬戸内海、有明海、八代海、朝鮮半島、中国、西太平洋に分布。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻長20mm。前後に長い亜三角形で、やや薄質、後端はやや尖り、薄紅色や白色で光沢がある。



撮影：山下博由

モモノハナ

Moerella hilaris (Hanley, 1844)

軟体動物
ニッコウガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 全国局限、県内局限

生息環境 内湾～外洋、砂浜、砂底、砂泥底

生息状況 県内では、天草下島（魚貴、砂月）に分布し、近年も普通に見られる（武田、私信）。熊本県での生息域は狭く、他の生息地からも孤立している。本州～九州、朝鮮半島、中国大陸に分布。砂浜の浅海底に生息するが、近年、日本各地で減少傾向にある。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、砂浜の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻長20mm。亜三角形、薄質、紅色、膨らみは弱い。



撮影：山下博由

ダイミョウガイ

Pharaonella perna Spengler, 1798

軟体動物
ニッコウガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 全国局限、県内局限、近年減少

生息環境 内湾～湾口、砂底、海草藻場

生息状況 県内では、天草周辺の干潟、浅海砂底に普通に生息していたが、1960年代から希少になっている。近年は、魚貫で稀に確認される（武田、私信）。駿河湾以南、インド・西太平洋に分布。熱帯性種で、日本本土は分布域の北限にあたる。九州では玄界灘・響灘にも分布しているが、それらの海域ではごく稀である。



撮影：山下博由

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、砂浜の減少・消失、水質汚濁、その他（低水温）

特記事項 殻長 70 mm。殻は白・紅・黄色などで、薄質で前後に長く、後縁は細まる。

ベニガイ

Pharaonella sieboldii (Deshayes, 1855)

軟体動物
ニッコウガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 全国局限、県内局限、近年減少

生息環境 内湾～外洋、砂浜、低潮帯～潮下帯、砂底

生息状況 県内では、天草下島（富岡、魚貫、砂月）に分布。富岡では減少した。魚貫では個体数が多い。北海道南部～種子島、朝鮮半島に分布。主に開放的な砂浜の低潮帯～水深 20mの砂底に生息する。1980年代以降、太平洋岸、瀬戸内海沿岸では大きく減少した。本州日本海側には個体群が多く存在する。



撮影：山下博由

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、水質汚濁

特記事項 殻長 60 mm。殻は紅色、薄質で前後に長く、後縁は細まり尖る。

アオサギガイ

Psammacoma gubernaculum (Hanley, 1844)

軟体動物
ニッコウガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー

選定理由 全国局限、県内局限

生息環境 内湾、潮下帯、砂泥底、泥底

生息状況 県内では、有明海（宇土市）、大矢野島などで新鮮な殻が多く確認されており、浅海に生息していると考えられるが、生貝の確認例はない。アワジチガイよりも広い範囲で分布が確認されるため、ランクを下げた。日本、朝鮮半島、中国、東南アジアに分布。日本では、房総・能登半島～九州に分布するが、生息情報は少ない。



撮影：山下博由

生存への脅威 海辺の改変等、水質汚濁

特記事項 殻長 50 mm。亜方形、後背縁は直線的で明瞭な稜があり、薄質、白色、淡褐色の薄い殻皮を備える。

ヒラザクラ

Tellinides striatus (Gmelin, 1791)

軟体動物
ニッコウガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 全国局限、県内局限、近年減少

生息環境 内湾～やや外洋、低潮帯～水深 20m、砂底・砂泥底、海草藻場

生息状況 県内では、天草下島（富岡、魚貴）で確認されている。富岡では、砂底に普通であったとされる（波部・菊池、1960）が、近年の生息状況は不明。魚貴では、打ち上げで稀に見られる。房総・能登以南～南西諸島、中国大陸南部、インド・太平洋に分布。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻長 40 mm。卵円形、薄質で平たく、薄紅色。



撮影：山下博由

ハザクラ

Gari minor (Deshayes, 1855)

軟体動物
シオサザナミ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 全国局限、県内局限

生息環境 内湾、河口、砂底・砂泥底

生息状況 県内では、天草下島（白鶴浜、羊角湾）、八代海（球磨川、佐敷川）で確認されている。熊本県では、比較的生息確認地点が少ない。房総・能登～南西諸島、西太平洋に分布。温暖な地域の河口の砂底・砂泥底に生息する。

生存への脅威 河川改修、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻長 30 mm。楕円形、やや薄質、黄緑色の地に茶褐色の放射彩がある。



撮影：山下博由

ナミノコガイ

Donax cuneatus Linnaeus, 1758

軟体動物
フジノハナガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 県内局限、近年減少

生息環境 外洋、砂浜

生息状況 県内では、天草下島（白鶴浜、牛深）の砂浜で、かつては普通に見られたが、近年は減少している。県内の生息分布は限定的で、絶滅が危惧される。鹿児島県東シナ海沿岸に大きな個体群があるため、幼生の供給は安定的かもしれない。本州～琉球列島、西太平洋に分布。砂浜の波打ち際に生息し、潮汐と共に移動して生活する。フジノハナガイよりも粗い粒度の砂浜に生息する。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、水質汚濁、海水域の変化

特記事項 殻長 25 mm。前背縁が伸長する亜三角形で、後背縁にやや棘だった放射肋があるが、他はほぼ平滑。内縁腹面は刻まれない。



撮影：山下博由

フジノハナガイ

Donax semigranosus Dunker, 1877

軟体動物
フジノハナガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 県内局限、特殊生息生育環境、近年減少

生息環境 外洋、砂浜

生息状況 県内では、天草下島（白鶴浜、牛深）の砂浜で、かつては普通に見られたが、近年は減少している。県内の生息分布は限定的で、絶滅が危惧される。ナミノコガイよりも少ない。本州～九州、西太平洋に分布。細砂の砂浜の波打ち際に生息し、潮汐と共に移動して生活する。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、海水域の変化

特記事項 殻長 15 mm。前背縁が伸長する垂三角形で、後背縁は布目状になる。内縁腹面は刻まれる。



撮影：山下博由

ウミタケ

Barnea (Umitakea) japonica (Yokoyama, 1920)

軟体動物
ニオガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由 全国局限、県内局限、近年減少

生息環境 内湾、干潟、中潮帯～水深 20m、泥底・砂泥底

生息状況 県内では、有明海、天草上島、八代海に分布。多くは殻の記録であるが、球磨川河口では、近年も生息が確認されている。本州～九州、ロシア日本海沿岸～中国大陸沿岸に分布。有明海では湾奥部（福岡～長崎県）に豊富で、漁獲されていたが、近年著しく減少している。熊本県では、漁獲対象になるほどは多産せず、記録も少ない。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁、捕獲・採集

特記事項 殻長 80 mm。垂方形、ごく薄質、前後端は大きく開き、殻表には棘だった放射肋がある。長大な水管を持つ。



撮影：山下博由

ヒメマスオ

Cryptomya busoensis Yokoyama, 1922

軟体動物
オオノガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由 全国局限、県内局限、近年減少

生息環境 内湾、低潮帯～水深 50m、砂泥底・泥底

生息状況 県内では、有明海（熊本市塩屋）、大矢野島で確認されている。北海道～九州、朝鮮半島、中国大陸沿岸に分布。潮下帯に主な生息域があり、現状評価が難しい。環境省の評価に準じた。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻長 20 mm。薄質、長卵形、後端は裁断状、白色で汚褐色の薄い殻皮を持つ。



撮影：山下博由

クシケマスオ

Cryptomya elliptica (A. Adams, 1851)

軟体動物
オオノガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 全国局限、県内局限、特殊生息生育環境

生息環境 内湾の干潟の砂泥底・泥底において、アナジャコなどの巣穴に依存的に生息

生息状況 県内では、有明海、天草上島（大浦）、八代海（球磨川河口、佐敷川河口）に分布。伊勢湾～九州、南西諸島、インド・太平洋に分布。日本本土では生息地が限られ、減少傾向が認められる。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁、その他（アナジャコなどの減少）

特記事項 殻長 20 mm。卵円形、薄質、膨らみは弱く、放射肋が密にあり、白色、淡褐色の殻皮を被る。



撮影：山下博由

ユキガイ

Meropesta nicobarica (Gmelin, 1791)

軟体動物
バカガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 県内局限

生息環境 内湾、干潟、潮下帯、砂泥底、アマモ場

生息状況 県内では、大矢野島、天草上島（龍ヶ岳）、天草下島（羊角湾）、八代海南部に分布。殻は多く見られるが、生貝の確認例は少ない。房総半島～南西諸島、インド・西太平洋に分布。沖縄島などでは多く見られるが、九州以北の個体群分布は局所的で、不安定である。冬季の低水温は生息のストレスになると考えられる。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁、その他（低水温）

特記事項 殻長 30 mm。前後に長く、後縁は長く細まる。白色で薄く、明瞭な放射肋が多数ある。



撮影：山下博由

チドリマスオ

Donacilla picta Dunker, 1877

軟体動物
チドリマスオ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー

選定理由 全国局限、県内局限

生息環境 外洋、砂浜、砂底、砂礫底

生息状況 県内では、天草下島のごく一部で確認されているのみで、絶滅が危惧される。本州～九州、東シナ海、東南アジア、インドに分布。砂浜・礫浜の波打ち際に生息するが、分布地は限定的で、日本では海岸の環境変化もあり、生息地が減少している。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、水質汚濁

特記事項 殻長 7 mm。亜三角形で前縁が長く、薄質、緑色の地に白い放射彩がある。



撮影：山下博由

イオウハマグリ

Pitar sulfureus Pilsbry, 1904

軟体動物
マルスダレガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由 全国局限、県内局限、近年減少

生息環境 内湾、干潟、中潮帯、砂泥底・泥底

生息状況 県内では、天草上島（八代海沿岸）、天草下島（富岡、羊角湾、魚貫湾、深海）に分布。紀伊半島～南西諸島、西太平洋に分布。日本本土では、シオヤガイとセットで見られる温暖種であるが、シオヤガイよりも少なく、個体群の消耗が強い。冬季の低水温に弱いと考えられる。九州での生息地北限は、長崎県対馬。



生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁、その他（低水温）

撮影：高重博

特記事項 殻長 25 mm。丸く膨らみの強いハマグリ型で、殻は厚く、白色で、殻頂とその内側は橙彩される。生貝は砂泥を殻表に付着させる。

ウスハマグリ

Pitar kurodai Matsubara, 2007

軟体動物
マルスダレガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

選定理由 全国局限、県内局限、近年減少

生息環境 内湾～やや外洋、低潮帯～潮下帯、砂底

生息状況 県内では、大矢野島、天草下島（富岡、砂月）で確認されている。福島・兵庫～九州に分布。本種は、神奈川県逗子、福岡県福岡のような開放的な湾では、個体群が存続している。一方、九州の唐津湾では著しく減少して、消滅寸前になっている。また、離岸堤や港湾などによって閉鎖的になった海域に出現したアマモ場に住み込んで個体群を形成する。以上のように、本種の生息状況は多様で複雑であり、一律な評価は難しい。



生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁

撮影：山下博由

特記事項 殻長 50 mm。丸く膨らみの強いハマグリ型で、殻はやや薄く、白色。生貝は砂泥を殻表に付着する。

オキアサリ

Macridiscus multifariorus Kong, Matsukuma & Lutaenko, 2012

軟体動物
マルスダレガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー

選定理由 県内局限

生息環境 開放的な湾や砂浜、低潮帯～潮下帯、砂底

生息状況 天草下島（白鶴浜、魚貫、砂月）の砂浜に分布。熊本県では生息域が狭く、他の生息地からも孤立している。房総半島～九州、台湾、中国南部に分布。



生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、砂浜の減少・消失、水質汚濁、捕獲・採集

撮影：山下博由

特記事項 通常は殻長 45 mm位になるが、天草産は小型である。垂三角形、前後背縁は直線的、厚質。

コタマガイ

Macridiscus aequilatera (G. B. Sowerby I, 1825)

軟体動物
マルスダレガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー

選定理由 県内局限

生息環境 開放的な湾や砂浜、低潮帯～潮下帯、砂底

生息状況 天草下島（白鶴浜、魚貫、砂月）の砂浜に分布。熊本県では生息域が狭く、他の生息地からも孤立している。北海道南部～九州、朝鮮半島に分布。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、砂浜の減少・消失、水質汚濁、捕獲・採集

特記事項 通常は殻長 70 mm 位になるが、天草産は小型である。長卵形、厚質。



撮影：山下博由

シオヤガイ

Anomalodiscus squamosus (Linnaeus, 1758)

軟体動物
マルスダレガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 全国局限、県内局限

生息環境 内湾、干潟、砂泥底・泥底

生息状況 県内では、大矢野島、天草松島周辺、天草上島（倉江川河口、栖本湾）、天草下島（富岡、羊角湾、本渡瀬戸～深海）、八代海（八代市、津奈木町）に分布。紀伊半島～九州、中国、西太平洋に分布。縄文海進時に分布を拡大した熱帯性種で、日本の暖温帯に個体群が遺存している。埋没深度が浅く、殻が露出していることが多いため、カラスによる食物認識が起きると、深刻な捕食圧を受ける。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁、動物食害、その他（低水温）

特記事項 殻長 30 mm。亜三角形、厚質、後背縁は直線的に延びて、後端は鈍く尖る。放射肋と成長脈が交わり布目状になる。



撮影：山下博由

シラオガイ

Circe undatina (Lamarck, 1818)

軟体動物
マルスダレガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 県内局限、近年減少

生息環境 内湾～湾口、低潮帯～潮下帯、砂底・砂泥底・砂礫底

生息状況 県内では、大矢野島、野釜島、天草松島周辺（前島、池島、高杣島）、天草上島（龍ヶ岳）、天草下島（富岡、羊角湾、魚貫湾）、八代海（御所浦島、芦北）などに分布。龍ヶ岳、羊角湾、魚貫湾などでは、生貝が多く見られる。本州～九州、東南アジアに分布。干潟表面にころがっている場合も多く、低水温や捕食者に対して無防備な生態が観察される。生貝の豊富な個体群は、全国的に少なく、遺骸集団が目立つ。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁、動物食害

特記事項 殻長 40 mm。丸い亜三角形、厚質、明瞭な輪肋があり、殻頂付近には放射肋がある。



撮影：山下博由

ハマグリ

Meretrix lusoria (Röding, 1798)

軟体動物
マルスダレガイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由 近年減少

生息環境 内湾、河口、干潟、砂底・砂泥底

生息状況 県内では、有明海（菊池川河口～宇土半島東部）、天草松島周辺、天草下島（本渡、富岡、羊角湾）、八代海（氷川～球磨川河口）に分布。白川～緑川河口の個体群規模が大きい。熊本県での漁獲量は過去に比して著しく減少している。本州～九州、朝鮮半島南部に分布。1980年代以降、日本全国で大きく減少した。漁獲量を適正に管理することが、保全上重要である。外国産ハマグリ（シナハマグリなど）の放流は交雑を引き起こす可能性がある。

生存への脅威 河川改修、海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁、捕獲・採集、外来種の侵入、交雑、

特記事項 殻長 85mm。亜三角形、やや薄質、套線湾入は浅く、下端は尖らない。光沢が強く、色・模様は多彩である。



撮影：山下博由

ハナグモリ

Glaucanome angulata Reeve, 1844

軟体動物
ハナグモリ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

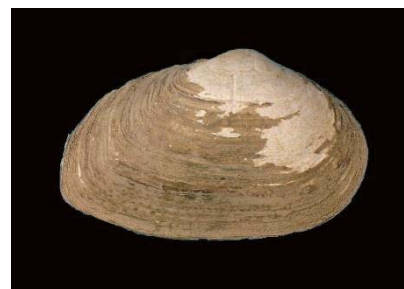
選定理由 全国局限、県内局限、近年減少

生息環境 内湾、河口、干潟、泥底・砂泥底

生息状況 県内では、有明海、天草松島周辺（永浦島）、天草下島（羊角湾）、八代海（大野川～氷川河口）に分布。有明海では埋め立てなどによって生息地が減少している。本州～九州、朝鮮半島、中国大陸、フィリピンに分布。内湾の泥干潟に生息。本種は中潮帯上部に生息するため、護岸や埋め立てによって生息環境が失われやすい。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻長 20 mm。前後に長い楕円形、薄質、緑褐色の殻皮を被る。



撮影：山下博由

スジホシムシ

Sipunculus nudus Linnaeus, 1766

星口動物
スジホシムシ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 近年減少

生息環境 水深約 100mまでの干潟・浅海。多くの場合、貝殻やサンゴ礁の破片が混じった砂泥中に生息。掘り出されても、体の前部（陥入吻）を出し入れして、素早く砂に潜る。

生息状況 天草の砂泥干潟で稀に確認される。かつては釣り餌用に大量に漁獲されたが、現在では生息地・密度ともに激減。

生存への脅威 海辺の改変等、干潟の減少・消失、人等の接近・利用

特記事項 体長 20 mm。体表が金属光沢を放ち、縦横に走る溝で格子状に区切られることで、スジホシムシモドキと識別できる。

ウチワゴカイ

Nectoneanthes uchiwa Sato, 2013

環形動物
ゴカイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 県内局限

生息環境 内湾、河口域、干潟、浅海、砂泥底

生息状況 有明海（白川、緑川）、天草（本渡）、八代海（球磨川）などで見られるが、低密度である。

生存への脅威 海辺の改変等、海域の変化

特記事項 体長 20 cmになる大型のゴカイ類。背面は緑褐色。背面両側の背足葉がウチワのように広がっているため区別しやすい。ホトトギスガイが密生する場所に多い。釣り餌として利用される。

ムギワラムシ

Mesochaetopterus japonicas Fujiwara, 1934

環形動物
ツバサゴカイ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 県内局限、近年減少

生息環境 内湾、干潟、潮下帯、砂泥底

生息状況 荒尾海岸、天草周辺、球磨川河口など、砂質または砂泥質の前浜干潟の潮間帯下部から潮下帯に生息、県下では希少かつ減少傾向にある。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失

特記事項 体長 15 cm。干潟表面に直径 5mm ほどの砂粒をつなげた筒状の棲管が出す。ヤドリカニダマシが棲管内に共生することが多い、近似種のツバサゴカイの棲管はU字型で太く、先端は白い。

フジテガニ

Clistocoeloma villosum (A. Milne-Edwards, 1869)

節足動物
ベンケイガニ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 全国局限、県内局限

生息環境 内湾、河口、転石地

生息状況 湾奥部の海岸や河口の転石下。県内では、牛深など。西日本で確認されているが、全国的に希少。今後護岸工事などで生息地が破壊される可能性が強く、注意が必要である。

生存への脅威 河川改修、海辺の改変等、埋め立て、ヨシ原の減少、塩性湿地の減少・消失

特記事項 甲幅 20 mm。全身が黒く泥のような色をしているが、鉗脚掌部は赤みのある藤色。甲の背面には小さな顆粒が散在する。しばしば同所的に生息するウモレベンケイガニの甲背面にはでこぼこはあるが顆粒がなく、鉗脚掌部はオレンジ色であることで区別できる。



撮影：逸見泰久

ミナミアシハラガニ

Pseudohelice subquadrata (Dana, 1851)

節足動物
モズクガニ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 全国局限

生息環境 外洋、河口、砂泥底、転石地

生息状況 天草富。

生存への脅威 河川改修、海辺の改変等、干潟の減少・消失

特記事項 甲幅 30 mm。甲はやや丸みを帯びた四角形で、強く湾曲し中央が盛り上がる。甲背面は、暗紫色の地に白いまだら模様。甲側縁には3歯の切れ込みがある。近縁のアシハラガニの甲はあまり湾曲せず、ヒメアシハラガニの甲は灰色の地に黒っぽいまだら模様。九州以南に分布。



撮影：吉崎和美

アリアケモドキ

Deiratonotus cristatum (De Man, 1895).

節足動物
ムツハアリアケガニ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー

選定理由 全国局限

生息環境 河口、干潟、泥底

生息状況 汽水域でも特に淡水の影響が強い上流域に生息。

生存への脅威 河川改修、海辺の改変等、干潟の減少・消失

特記事項 甲幅 15 mm。甲は六角形で平たく横長で、中央に横すじが入る。腹部の一部が赤い。



撮影：吉崎和美

ヒメヤマトオサガニ

Macrophthalmus banzai Wada & Sakai, 1989

節足動物
オサガニ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 県内局限、近年減少、地域的孤立・希少

生息環境 内湾、干潟、泥底

生息状況 西日本から南西諸島。有明海（天草、宇土半島）、羊角湾などの潮間帯の泥地に分布するが、生息地は限られており、個体群サイズも小さい。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失

特記事項 甲幅 25 mm。甲は長方形。甲幅は甲長の1.4倍程度。近縁のヤマトオサガニとはウエイピングの様式が異なり、本種は鉗脚を伸ばし「バンザイ」の動作をするのに対し、ヤマトオサガニでは鉗脚を曲げたまま上下する。



撮影：逸見泰久

ハクセンシオマネキ

熊本県カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

Austruca lactea (De Haan, 1835)

節足動物
スナガニ科

選定理由 全国局限

生息環境 内湾、干潟、砂泥底

生息状況 伊勢湾以南。県内では、白川河口、天草など。砂質または砂泥質の堅い干潟の上部～中部域に生息。県内に生息地は少ないが、大きな個体群は白川と天草松島の2ヶ所のみ。

生存への脅威 道路工事、河川改修、海辺の改変等、干潟の減少・消失



撮影：逸見泰久

特記事項 甲幅 18 mm。甲は前後の丸みが強く、額は広い。雄の鉗脚の片方が巨大。体色は灰色。繁殖期(6～8月)になると体色が乳白色になり、雄は巨大な鉗脚を激しく振る求愛行動を行う。近縁のシオマネキは河口の泥質干潟に生息し、雄の鉗脚は赤い。

アカホシマメガニ

熊本県カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省カテゴリー

準絶滅危惧 (NT)

Pinnixa haematosticta Sakai, 1934

節足動物
カクレガニ科

選定理由 県内局限、特殊生息生育環境、近年減少

生息環境 内湾、干潟、砂泥底、共生

生息状況 スジホシムシモドキの巣穴に共生。宿主が釣り餌として利用されているため、強い捕獲圧と生息地の攪乱により減少。

生存への脅威 海辺の改変等、水質汚濁、捕獲・採集、踏み付け



撮影：吉崎和美

特記事項 甲幅 7 mm。甲は幅広く甲幅の2倍を超える。甲面両端に赤色の斑点がある。鉗脚と第3、4歩脚は両縁に毛を密生する。ギボシマメガニに似るが、前側縁はなめらかに斜め後方に傾き、張り出さない。伊豆半島以南。

シロナマコガニ

熊本県カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省カテゴリー

Pinnixa tumida Stimpson, 1858

節足動物
カクレガニ科

選定理由 全国局限、県内局限、特殊生息生育環境、地域的孤立・希少

生息環境 砂泥底

生息状況 砂泥底に生息するシロナマコの消化管内に見られる。県内では、2004年に菊池川の河口で1個体が採集されている。宿主シロナマコは青森県陸奥湾内に広く生息しているが、それ以外の地域では希少。

生存への脅威 海辺の改変等、河川改修、干潟の減少・消失

特記事項 甲幅 10 mm。日本固有種。潮間帯から潮下帯の砂泥底に生息する埋在性のシロナマコの消化管に寄生。函館湾、男鹿半島で記録があるが、近年の生息確認は菊池川のみ。陸奥湾では砂浜にシロナマコが普通に生息しており、本種はこれに単独で寄生している。寄生率は35%ほどであるが、ほとんどが成熟雌である。

ウモレマメガニ

Pseudopinnixa carinata Ortmann, 1894

節足動物
ムツハアリアケガニ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由 全国局限、近年減少

生息環境 内湾、干潟、潮下帯、砂泥底

生息状況 宇土半島周辺、天草、八代海東岸などの砂泥質の河口干潟から前浜干潟の潮間帯下部や潮下帯に生息。生息地が少なく、また個体数も激減。



撮影：吉崎和美

生存への脅威 河川改修、海辺の改変等、干潟の減少・消失

特記事項 甲幅 10 mm。甲羅はやや横長で、下方が少し広い台形。甲は地が灰色で、黒いまだら模様がある。しばしば同所的に生息するトリウミアカイトモドキは、甲が丸みを帯びた四角形で、歩脚が細長い。西日本に分布するとされるが、生息情報は少ない。

チビイトマキヒトデ

Aquilonastra minor (Hayashi, 1974)

棘皮動物
トマキヒトデ科

熊本県カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省カテゴリー

選定理由 全国局限、県内局限、特殊生息生育環境、近年減少

生息環境 外洋、潮間帯、タイドプール

生息状況 天草の外洋に面した転石潮間帯のタイドプールにのみ見られる希少種。

生存への脅威 海辺の改変等、干潟の減少・消失、その他（台風等による攪乱）

特記事項 直径 20 mm。イトマキヒトデに似る小型のヒトデで、雌雄同体、浮遊幼生期を持たない直達発生種である。

準絶滅危惧 (NT)

ハナワケイソギンチャク

Neocondylactis sp. England, 1987

刺胞動物
ウメボシイソギンチャク科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー

選定理由 全国局限、県内局限、近年減少

生息環境 有明海、八代海の干潟

生息状況 有明海特産種で、荒尾干潟で確認されている。詳細分布は不明。

生存への脅威 誤獲

特記事項 体幅 50 mm。細長い。砂泥に埋没し、砂泥表面に触手を広げて採餌する。有明海の一部で食用とされるイシワケイソギンチャクと混在する。イシワケイソギンチャク (35mm) より大型で深く潜る。

ツボミ

Patelloida conulus (Dunker, 1861)

軟体動物
コガモガイ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 県内局限、近年減少

生息環境 内湾、中潮帯、生きているウミナナ類、主にウミナナ *Batillaria multiformis* (Lischke, 1869)の殻上に着生し、稀にヘナタリ類、石や貝殻にも着生

生息状況 県内では、天草松島周辺（前島）、天草上島、天草下島（富岡、羊角湾、深海）、八代海（戸馳島、八代）で確認されている。本州～九州、沖縄島、朝鮮半島に分布。ウミナナが減少した地域では、少なくなっている。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁、その他（ウミナナ類の減少）

特記事項 殻径 5 mm。やや尖った傘型。



撮影：和田太一

キサゴ

Umbonium costatum (Valenciennes in Kiener, 1838)

軟体動物
ニシキウズ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー

選定理由 県内局限、近年減少

生息環境 外洋、湾、砂浜、低潮帯～潮下帯、砂底

生息状況 県内では、天草、八代海（球磨川河口など）に分布。熊本 RDB1998 では、天草周辺での減少傾向と潮間帯で見られなくなったことが報告されている。球磨川河口では、2009 年以降は確認されていない。天草下島の魚貫では多産する。北海道南部～九州、朝鮮半島に分布。かつては各地の海岸でごく普通に打ち上げが見られたが、個体群・個体数は減少傾向にあると考えられる。



撮影：山下博由

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟・砂浜の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻幅 25 mm。低円錐形、周縁は丸く、殻底臍部の滑層の幅は、殻幅の半分以下で、イボキサゴよりも狭い。

ミヤコドリ

Phenacolepas pulchella (Lischke, 1871)

軟体動物
ユキスズメ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 全国局限、県内局限

生息環境 内湾、河口、潮間帯、泥底・砂泥底に埋もれた石の裏に生息

生息状況 県内では、天草上島、天草下島（本渡、羊角湾）、八代海（球磨川河口）に分布。房総・佐渡～南西諸島、朝鮮半島に分布。環境省評価に準じた。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻長 10 mm。笠型楕円形で、殻頂は後端に偏り、顆粒状の放射肋が密にある。



撮影：和田太一

ヒナユキスズメ

Phenacolepas sp.

軟体動物
ユキスズメ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 全国局限、県内局限

生息環境 内湾、外洋、潮間帯、泥底・砂泥底に埋もれた石の裏に生息

生息状況 県内では、有明海、天草下島（本渡）、八代海（球磨川河口、恋路島）などに分布。有明海では、菊池川から熊本市にかけて、比較的多くの地点で確認されている。三浦半島～九州に分布。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻長 6 mm。笠型類円形、低平で、殻長は後方左側に偏る。未記載種。



撮影：山下博由

コゲツノブエ

Cerithium corallium Kiener, 1841

軟体動物
オニツノガイ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
絶滅危惧 II 類 (VU)

選定理由 全国局限、県内局限

生息環境 内湾、干潟、泥底・砂泥底

生息状況 県内では、天草下島（羊角湾など）、八代海（八代市、津奈木町など）に生息。羊角湾では多産する。紀伊半島・東松浦半島以南、インド・西太平洋に分布。琉球列島以南ではマングローブ湿地などに多産する。日本本土では、暖温帯の干潟に生息する。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁、その他（低水温）

特記事項 殻長 30 mm。暗褐色、塔型、螺肋は軟状の縦肋と交わってやや棘立ち、縦張肋がある。



撮影：吉崎和美

ヘナタリ

Pirenella nipponica Ozawa & Reid, 2016

軟体動物
キバウミニナ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 全国局限、近年減少

生息環境 内湾、河口、干潟、砂泥底・泥底

生息状況 県内では、有明海、天草、八代海の河口、干潟に分布。有明海奥部では減少傾向にある。天草や八代海では、多産する。千葉・金沢以南～九州、沖縄島、朝鮮半島南部、中国大陸中部、台湾に分布 (Reid and Ozawa, 2016)。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻長 30 mm。殻底へ太くなる塔型で、縦肋は端で縦張肋を形成し、螺肋・螺溝も明瞭、外唇は大きく張り出し、その下端は水管を越えて伸びる。



撮影：高重博

カワアイ

Pirenella pupiformis Ozawa & Reid, 2016

軟体動物
キバウミニナ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由 全国局限、近年減少

生息環境 内湾、河口、干潟、泥底

生息状況 県内では、有明海、天草、八代海の河口・干潟に分布。有明海奥部では減少傾向にある。天草や八代海では多産する。宮城県以南～九州、南西諸島、朝鮮半島、中国大陸、台湾、ベトナムに分布 (Reid and Ozawa, 2016)。ヘナタリよりも、より泥質の環境に生息する。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻長 45 mm。やや太い塔型で、縦肋も縦張肋も弱く、螺肋・螺溝は明瞭、外唇の張り出しは弱く、茶褐色。



撮影：高重博

ヌノメチヨウジガイ

Phosinella pura (Gould, 1861)

軟体動物
ホソスジチヨウジガイ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 県内局限、近年減少

生息環境 内湾～外洋、低潮帯～潮下帯。岩礫の裏に生息

生息状況 県内では、大矢野島、天草下島（通詞島、富岡）、八代海（恋路島）で確認されている。北海道南部～九州、奄美大島、朝鮮半島、中国大陸沿岸に分布。日本では、各地の打ち上げで普通に見られる種であったが、瀬戸内海などの内湾域では大きく減少した。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻長 5 mm。やや太い塔型、厚質、白色、縦肋と螺肋が交わって布目状になる。



撮影：山下博由

ゴマツボ

Stosicia annulata (Dunker, 1860)

軟体動物
ホソスジチヨウジガイ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由 全国局限、県内局限、近年減少

生息環境 内湾～湾口、低潮帯～潮下帯、岩礫地

生息状況 県内では、大矢野島、天草松島周辺（野釜島、前島）、天草下島（富岡）、天草上島（阿村）、八代海（御立岬）で確認されている。熊本県では、生息地・個体数が比較的多い。房総・能登半島～九州、中国大陸沿岸に分布。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻長 4 mm。短円筒形、強い螺肋があり、その間は溝になる。殻口は肥厚する。



撮影：和田太一

カワグチツボ

Fluviocingula elegantula (A. Adams, 1861)

軟体動物
ワカウラツボ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 全国局限、県内局限、近年減少

生息環境 内湾、河口、干潟、泥底

生息状況 県内では、有明海（唐人川河口）、八代海（大野川河口）、天草下島（富岡）に分布。富岡では近年確認されていない。北海道～九州、ロシア沿海州、朝鮮半島、中国大陸沿岸に分布。熊本県ではこれまでの確認地点が少ないが、環境省評価に準じた。

生存への脅威 河川改修、海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻長 4 mm。短い塔型、薄質、縫合はくびれる。殻表には多くの螺条があるが、その強さは個体群によって変異が大きい。



撮影：和田太一

サザナミツボ

Nozema ziczac (Fukuda & Ekawa, 1997)

軟体動物
ワカウラツボ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 県内局限

生息環境 内湾、河口、干潟、潮間帯

生息状況 県内では、大矢野島、八代海（球磨川河口）で確認されている。環境省評価に準じた。

生存への脅威 河川改修、海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻長 1.8 mm。



撮影：和田太一

ワカウラツボ

Wakauraia sakaguchii (Kuroda & Habe, 1954)

軟体動物
ワカウラツボ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由 全国局限、県内局限

生息環境 内湾・河口、干潟、砂泥・泥底に埋もれた石・流木などの裏に生息

生息状況 県内では、有明海（菊池川河口～熊本市）、天草下島（羊角湾）、八代海（大野川、球磨川河口）で確認されている。熊本県では、生息地・個体数が比較的多い。三河湾～九州、朝鮮半島南部に分布。

生存への脅威 河川改修、海辺の改変等、埋め立て、ヨシ原の減少、干潟の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻長 4 mm。短い紡錘形、やや薄質、低い螺脈がある。



撮影：和田太一

アラウズマキ

Circulus duplicatus (Lischke, 1872)

軟体動物
イソコハクガイ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
絶滅危惧II類 (VU)

選定理由 県内局限

生息環境 内湾～外洋、低潮帯～潮下帯、岩礫地、砂底

生息状況 県内では天草上島（阿村）、天草下島（富岡）で確認されている。本種は外洋に面した湾・砂浜などで多数の打ち上げが見られることがあるため、生息状況の評価が難しい。房総・男鹿半島～九州、朝鮮半島に分布。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻径 4 mm。低平な円形、白色、キール状の螺肋を持つ。



撮影：石川裕

シラギク

Pseudoliotia pulchella (Dunker, 1860)

軟体動物
イソコハクガイ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 県内局限

生息環境 内湾～湾口、中潮帯～潮下帯、岩礫地、砂泥底・泥底、埋もれ石の裏に生息

生息状況 県内では、有明海、天草、八代海に分布。生息地は少ない。本州～九州、朝鮮半島に分布。本種は汚染の少ない干潟や磯では、ほぼ普遍的に見られる。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻幅 3 mm。平巻型、厚質、太い縦肋と螺肋が交差して格子状になる。



撮影：川内野善治

エドガワミズゴマツボ（ウミゴマウツボ）

Stenothyra edogawensis (Yokoyama, 1927)

軟体動物
ミズゴマツボ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 全国局限、県内局限

生息環境 内湾、河口、干潟、中潮帯～潮下帯、泥底

生息状況 県内では、有明海（唐人川、緑川）、八代海（大野川、球磨川）の河口域に分布。本州～九州、朝鮮半島に分布。

生存への脅威 河川改修、海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻長 2 mm。卵形、やや薄質、黄褐色、殻表には微細な刻点列がある。



撮影：和田太一

ミズゴマツボ

Stenothyra japonica Kuroda, 1962

軟体動物
ミズゴマツボ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由 全国局限、県内局限

生息環境 海岸近くの低塩分の汽水域～淡水域に生息、内陸部で見られることもある

生息状況 県内では、有明海沿岸（玉名市、熊本市）、上益城郡益城町、天草上島、八代海沿岸（八代市）に分布。干拓地のクリークなどになり普通に見られる。東北～九州に分布。

生存への脅威 河川改修、水湿地の開発、水質汚濁

特記事項 殻長 5 mm。卵円形、黄褐色、刻点螺条列を持つ。



撮影：和田太一

クリイロカワザンショウ

Angustassiminea castanea (Westerlund, 1883)

軟体動物
カワザンショウ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 県内局限、近年減少

生息環境 内湾、河口、塩性湿地

生息状況 県内では、有明海（緑川など）、天草上島、八代海（大野川、氷川、球磨川など）で確認されている。本州～九州に分布。河口域の塩性湿地の汚染・消失で、減少傾向にある。

生存への脅威 河川改修、埋め立て、ヨシ原の減少、塩性湿地の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻長 5 mm。短い塔型、縫合下に螺条があり、茶～黒褐色。



撮影：和田太一

ツブカワザンショウ（ヒメカワザンショウ）

Assiminea estuarina Habe, 1946

軟体動物
カワザンショウ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 県内局限、近年減少

生息環境 内湾、河口、塩性湿地

生息状況 県内では、有明海、戸馳島、八代海の河口域・塩性湿地に分布。生息地は多くはない。宮城県～九州、奄美大島、沖縄島に分布。

生存への脅威 河川改修、埋め立て、ヨシ原の減少、塩性湿地の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻長 3 mm。殻は丸みが強く、縫合はよくくびれ、臍孔が開く。黄褐色で二本の褐色帯をめぐらす。



撮影：和田太一

イヨカワザンショウ（ヤミカワザンショウ）

Assiminea sp.

軟体動物
カワザンショウ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧（NT）
環境省カテゴリー
準絶滅危惧（NT）

選定理由 全国局限、県内局限

生息環境 内湾、河口、塩性湿地、潮間帯の中潮帯上部の岩礫、マガキやシカメガキ群集の間に生息

生息状況 県内では、有明海、戸馳島、八代海に分布。生息地では、個体数は多い。瀬戸内海、有明海、八代海、朝鮮半島南部に分布。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、ヨシ原の減少、干潟の減少・消失、塩性湿地の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻長 2.5 mm。ツブカワザンショウに似るが螺塔は高く細まる。ヤミカワザンショウは有明海産の色帯が広いタイプに与えられた和名。



撮影：和田太一

ヒナタムシヤドリカワザンショウ

Assiminea aff. *parasitologica* Kuroda, 1958

軟体動物
カワザンショウ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧（NT）
環境省カテゴリー
準絶滅危惧（NT）

選定理由 全国局限、県内局限、近年減少

生息環境 内湾、河口、塩性湿地

生息状況 県内では、有明海、天草、八代海の河口域・塩性湿地に分布。本州～九州、朝鮮半島に分布。河口域の塩性湿地の消失・汚染で減少傾向にある。

生存への脅威 河川改修、埋め立て、ヨシ原の減少、塩性湿地の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻長 4 mm。縫合下や殻底に淡黄色帯がある。



撮影：和田太一

ハナツトガイ

Velutina pusio A. Adams, 1860

軟体動物
ハナツトガイ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧（NT）
環境省カテゴリー
準絶滅危惧（NT）

選定理由 県内局限、近年減少

生息環境 内湾～外洋、低潮帯～潮下帯、岩礫地、海藻や群体ボヤの間で見られる

生息状況 県内では、永浦島の低潮帯岩礫地において、*Aplidium pliciferum* (Redikorzev, 1927) マンジュウボヤに着生しているのが確認された。福島・新潟県～九州、朝鮮半島に分布。かつては各地の海岸で打ち上げが見られたが、減少傾向にあると考えられる。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、水質汚濁

特記事項 殻長 20 mm。薄質、少旋、お椀型で殻口が広く開く。



撮影：山下博由

ネコガイ

Eunaticina papilla (Gmelin, 1791)

軟体動物
タマガイ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 近年減少

生息環境 内湾～外洋、低潮帯～水深 30m、砂底・砂泥底

生息状況 県内では、天草松島周辺（前島）、天草下島（富岡、砂月）で確認されている。房総・男鹿半島～南西諸島、朝鮮半島、中国大陸、インド・太平洋に分布。環境省評価に準じた。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻長 30 mm。卵型、殻口は広く開く。白色、淡黄褐色の殻皮を持つ。



撮影：山下博由

フロガイダマシ

Naticarius concinnus (Dunker, 1860)

軟体動物
タマガイ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由 近年減少

生息環境 内湾～外洋、低潮帯～潮下帯、砂底

生息状況 県内では、大矢野島～天草下島沖の有明海沿岸、天草下島の八代海側、牛深などで確認されている。比較的確認地点が多く、個体数も少なくない。房総・男鹿半島～九州、朝鮮半島に分布。瀬戸内海などで減少傾向がある。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻長 17 mm。球形、厚質、殻の上半分は褐色の不明瞭な雲状斑で占められ、中央に太く不連続な褐色帯がある。蓋は石灰質で 6～7 本の溝がある。



撮影：山下博由

ツガイ

Sinum incisum (Reeve, 1864)

軟体動物
タマガイ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 全国局限、県内局限

生息環境 内湾、低潮帯～潮下帯、泥底・砂泥底

生息状況 県内では、有明海、天草下島（富岡）、八代海（球磨川河口）で確認されている。有明海の潮下帯では、比較的普通に見られる。房総半島～沖縄、中国大陸、フィリピンに分布。環境省評価に準じた。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻径 25 mm。



撮影：和田太一

ツツミガイ

Sinum planulatum (Récluz, 1843)

軟体動物
タマガイ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 全国局限、県内局限

生息環境 内湾～外洋、潮間帯～水深 30m、砂泥底・砂底

生息状況 県内では、天草下島（富岡、砂月）で確認されている。房総半島～南西諸島、中国大陸、インド・太平洋に分布。環境省評価に準じた。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻径 30 mm。



撮影：石川裕

クレハガイ

Epitonium clementinum (Grateloup, 1840)

軟体動物
イトカケガイ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 県内局限

生息環境 内湾、干潟、潮間帯～水深 10m、砂泥底

生息状況 県内では、有明海、八代海に分布。近年、球磨川河口で生息が確認されている。房総・佐渡～九州、西太平洋に分布。環境省評価に準じた。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻長 20 mm。薄質、螺層は膨らみが強く、細い縦肋が多数ある。淡褐色で、3本の褐色螺帯がある。



撮影：和田太一

セキモリ

Epitonium yokoyamai Suzuki & Ichikawa, 1936

軟体動物
イトカケガイ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

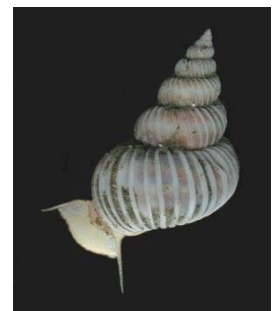
選定理由 県内局限

生息環境 内湾、干潟、潮間帯～水深 10m、砂泥底

生息状況 県内では、有明海（玉名市）、大矢野島、野釜島などに分布。房総・佐渡～九州、西太平洋に分布。イシワケイソギンチャクの周囲に群れている例が報告されている（高重・武井、2019）。環境省評価に準じた。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁、その他（イソギンチャクの減少）

特記事項 殻長 20 mm。薄質、螺層はやや膨らみ、縫合は深く、板状の細い縦肋が多数ある。白色で、2本の淡褐色螺帯がある。



撮影：石川裕

ミクリガイ

Siphonalia cassidariaeformis (Reeve, 1846)

軟体動物
エゾバイ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー

選定理由 近年減少

生息環境 内湾～外洋、干潟、低潮帯～潮下帯、砂底・砂泥底

生息状況 県内では、大矢野島周辺、天草松島周辺、天草上島、天草下島（本渡、通詞島、富岡、牛深）などに分布。富岡では激減した。近年、通詞島の潮間帯で普通に産するのが確認されている（高重、私信）。本州～九州、朝鮮半島、中国に分布。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、その他（インボセックス）

特記事項 殻長 40 mm。体層は大きく、厚質、茶褐色、明瞭な螺肋を備え、肩には結節列がある。



撮影：高重博

テングニシ

Hemifusus tuba (Gmelin, 1791)

軟体動物
テングニシ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 近年減少

生息環境 内湾～外洋、干潟、低潮帯～潮下帯、砂泥底

生息状況 県内では、有明海、天草、八代海の干潟・潮下帯に分布。近年、天草下島（新和町）の潮下帯では普通に見られた（高重、私信）。房総・男鹿半島～九州、インド・西太平洋に分布。本種は、有明海全体で減少傾向にあったが、現状を評価するデータが不足している。減少要因は、漁獲とインボセックスが考えられるが、有機スズ化合物規制後も、個体数が十分に増えていないのではないかと考えられる。

生存への脅威 海辺の改変等、水質汚濁、その他（インボセックス）

特記事項 殻高 14 cm。九州では「こうかい（甲貝）」と呼ばれ、食用にする。



撮影：阪本登

オニサザエ

Chicoreus asianus Kuroda, 1942

軟体動物
アッキガイ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 県内局限

生息環境 内湾～外洋、低潮帯～潮下帯、岩礫底・砂泥底

生息状況 県内では、大矢野島周辺～天草下島、八代海（御所浦島）などに分布。近年、牛深で普通、通詞島では潮間帯で多産するのが確認されている。本種は、瀬戸内海などの内湾域において、恐らくインボセックスの発現によって大きく減少した。熊本県の個体群の過去の状況はよく分かっていないが、外洋寄りの個体群では減少傾向は弱かったものと思われる。また、バイなどと同様にインボセックスの改善があったと考えられる。房総・能登半島～九州、中国、台湾に分布。

生存への脅威 海辺の改変等、水質汚濁、その他（インボセックス）

特記事項 殻高 10 cm。インボセックスの原因となるトリブチルスズ化合物は 1990 年代に使用が制限された



撮影：山下博由

マクラガイ

Oliva mustelina Lamarck, 1811

軟体動物
マクラガイ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 近年減少

生息環境 内湾～外洋、低潮帯～水深 30m、砂底・砂泥底

生息状況 県内では、天草下島（富岡、魚貴）で確認されている。魚貴では普通に見られる。房総・男鹿半島～九州、インド・西太平洋に分布。本種は本州～九州において、殻が普通に拾える種であったが、特に個体数の減少が著しい。インポセックスの他に、餌動物の減少が影響している恐れがある。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁、その他（インポセックス、餌動物の減少）

特記事項 殻長 40 mm。日本周辺のマクラガイ属では、温帯域に広く分布している唯一の種。



撮影：阪本登

クリロマンジ

Pseudodaphnella leuckarti (Dunker, 1860)

軟体動物
フデシャジク科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 県内局限、近年減少

生息環境 内湾～外洋、低潮帯～潮下帯、岩礫地・砂底

生息状況 県内では、天草下島（富岡）で岩礫地に多産と記録されているのみ（波部・菊池、1960）。環境省評価に準じた。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁、その他（餌動物の減少）

特記事項 殻長 7 mm。



撮影：山下博由

ホソタマゴガイ

Limulatys oiformis Habe, 1952

軟体動物
ブドウガイ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 県内局限

生息環境 内湾湾口、低潮帯～潮下帯、砂底

生息状況 県内では、天草下島（富岡、牛深）、八代海（恋路島）で確認されている。牛深では近年、多産するのが確認された。環境省評価に準じた。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、水質汚濁

特記事項 殻長 10 mm。



撮影：石川裕

イトカケゴウナ

Bacteridium vittatum (A. Adams, 1861)

軟体動物
トウガタガイ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 全国局限、県内局限、近年減少

生息環境 内湾～湾口、低潮帯～水深 20m、砂底・砂泥底

生息状況 県内では、野釜島、天草下島（本渡沖、富岡）に分布。野釜島では近年、低潮帯のアマモ場で生息が確認されている。富岡では、かつて砂泥底に多産したとされるが、現状不明。本州～九州、朝鮮半島、中国大陸北部に分布。全国的に生息報告例は少ないが、有明海沿岸の潮下帯数ヶ所で生息が確認されている。熊本県では絶滅危惧Ⅱ類に評価していたが、環境省評価に準じた。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻長 3.8 mm。



撮影：狩野泰則

マクスジコミミガイ

Laemodonta monilifera (H. Adams & A. Adams, 1854)

軟体動物
オカミミガイ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 県内局限

生息環境 湾口～外洋、高潮帯、打ち上げ堆積物や岩礫の間に生息

生息状況 県内では、天草下島（富岡、羊角湾）で確認されている。熊本県では、生息情報が少ない。房総半島以南～熱帯インド・西太平洋に分布。護岸や埋め立てによる、自然海岸の消失、高潮帯の消失・環境悪化などによって、生息地が脅威にさらされている。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、水質汚濁

特記事項 殻長 5.5 mm。



撮影：山下博由

ウスコミミガイ

Laemodonta exaratooides Kawabe, 1992

軟体動物
オカミミガイ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 県内局限、近年減少

生息環境 内湾～湾口、高潮帯～中潮帯上部、砂泥底に埋もれた石の裏やカニ穴などに生息

生息状況 県内では、有明海（熊本市河内町）、天草上島（大浦）、天草下島（上太田尾、羊角湾）、八代海（宇土半島、球磨川河口、御所浦島、芦北）などに分布。熊本市塩屋、宇土半島の舟津（宇城市三角町郡浦）では、埋め立てによって生息地が失われた。東北～九州、朝鮮半島に分布。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、ヨシ原の減少、干潟の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻長 7 mm。卵円形で殻頂は尖り、やや厚質、細い螺肋を持ち、内唇に 2 歯、軸唇に 1 歯があり、殻口は肥厚し内側に 1 歯がある。殻表には短毛を生じる。



撮影：和田太一

ハマシノミガイ

Melampus nuxeastaneus Kuroda, 1949

軟体動物
オカミミガイ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー

選定理由 県内局限

生息環境 湾口～外洋、高潮帯、打ち上げ堆積物や岩礫の間に生息

生息状況 県内では、天草下島（五和、富岡、羊角湾、牛深）、八代海（御所浦島）などで確認されている。房総・佐渡～台湾、朝鮮半島に分布。護岸や埋め立てによる、自然海岸の消失、高潮帯の消失・環境悪化などによって、生息地が脅威にさらされている。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、水質汚濁

特記事項 殻長 15 mm。卵形、厚質、内唇に 2 歯、軸唇に 1 歯、外唇内側に歯列がある。殻表は平滑で、茶褐色、白い色帯を持つこともある。



撮影：吉崎和美

ナギサノシタタリ

Microtralia acteocinoides Kuroda & Habe, 1961

軟体動物
オカミミガイ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー

選定理由 県内局限、模式産地

生息環境 内湾～外洋、高潮帯、打ち上げ堆積物や岩礫の間に生息

生息状況 県内では、天草下島（富岡）、八代海（御所浦島）で確認されている。富岡曲崎は本種の模式産地であるが、近年は確認されていない。北海道南部～琉球列島、朝鮮半島に分布。*Microtralia alba* (Gassies, 1865) と同種とする見解もある。ナギサノシタタリは、人工護岸にも住み込むことが報告されているが、県内ではそのような例は確認されていない。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、水質汚濁

特記事項 殻長 5 mm。やや長い卵形、薄質、半透明白色、内唇に 2 歯、軸唇に 1 歯、外唇は薄く歯はない。



撮影：山下博由

アサヒキヌタレガイ

Acharax japonica (Dunker, 1882)

軟体動物
キヌタレガイ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
絶滅危惧 II 類 (VU)

選定理由 県内局限

生息環境 内湾～湾口、低潮帯～水深 20m、砂泥底、アマモ場

生息状況 県内では、天草下島（富岡湾）で確認されている。北海道～九州、中国大陸沿岸に分布。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失

特記事項 殻長 20 mm。鰓には硫酸化細菌が共生する。



撮影：石川裕

キヌタレガイ

Solemya pusilla Gould, 1861

軟体動物
キヌタレガイ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 県内局限

生息環境 内湾～湾口、低潮帯～水深 20m、砂泥底、アマモ場

生息状況 県内では、有明海（宇土半島沖）、天草下島（富岡湾）で確認されている。北海道～九州に分布。環境省評価に準じた。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失

特記事項 殻長 15 mm。鰓には硫黄酸化細菌が共生する。



撮影：山下博由

コケガラス

Modiolus moduloides (Röding, 1798)

軟体動物
イガイ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 全国局限

生息環境 内湾、干潟、中潮帯～潮下帯、砂泥底。繭糸の巣を作って、密集し生息

生息状況 県内では、有明海、天草松島周辺（前島）、八代海（球磨川河口、二見洲口）に分布。個体数は多い。八代海の個体群は、近年になってアサリなどと共に有明海から持ち込まれた可能性がある。有明海の個体群の起源も再検討の必要がある。瀬戸内海～九州、インド・西太平洋に分布。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻長 45 mm。



撮影：山下博由

シカメガキ

Crassostrea sikamea (Amemiya, 1928)

軟体動物
イタボガキ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 全国局限

生息環境 内湾、中潮帯～低潮帯。岩礫・護岸などの基盤にも着生するが、主に貝殻に着生し、河口域の干潟では堆積してカキ礁を形成することがある。

生息状況 県内では、有明海、八代海北部の湾奥に分布。生息地では多産し絶滅のリスクは低いと考えられるが、国内での分布域が限定的であることを評価した。また、本種がマガキ・スミノエガキと形成するカキ礁は、生態系における機能や構造の特殊性が注目される。県内では、大野川河口の沖合に広大なカキ礁がある。有明海、八代海、朝鮮半島、中国に分布。近年、伊万里湾、周防灘、島根県中海、福井県久々子湖でも生息が確認されており、移入か在来かは不明である。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、交雑

特記事項 殻高 40～60 mm。アメリカには、1940 年代に熊本から導入され、Kumamoto oyster の名で食用とされ、系統が維持されてきた。



撮影：山下博由

ズベタイラギ

Atrina japonica (Reeve, 1858)

軟体動物
ハボウキ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 近年減少

生息環境 内湾～湾口、低潮帯～水深 30m、砂泥底・泥底

生息状況 県内では、有明海、天草下島（新和町）、八代海（球磨川河口など）に分布。殻が幅広く、殻表面に鱗片突起のない「タイラギの無鱗型」が本種に同定されるが、有鱗型のリシケタイラギとの間には中間型もあり、また生息環境によって殻形質は変化すると報告もあるので、殻形態で両者を区別するのは難しい。さらに、「タイラギ」という和名がどちらを指すかは混乱があるため、「タイラギ」は2種を区別しない総称として用いた方がよい。減少傾向については、リシケタイラギの項を参照。



撮影：和田太一

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁、捕獲・採集、その他（貧酸素）

特記事項 殻高 30 cm。ズベタイラギは、リシケタイラギより泥分の多い底質に生息する。

リシケタイラギ

Atrina lischkeana (Clessin, 1891)

軟体動物
ハボウキ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 近年減少

生息環境 内湾～湾口、低潮帯～水深 30m、砂泥底・泥底

生息状況 県内では、有明海、大矢野島～天草上島～天草下島（本渡）、八代海に分布する。熊本県のタイラギ（ズベタイラギ、リシケタイラギ）の漁獲量は、1980年代から著しく減少し、絶滅危惧種の定量条件を十分満たすほどである。



撮影：山下博由

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁、捕獲・採集、その他（貧酸素）

特記事項 殻高 30 cm。

ハボウキ

Pinna attenuata Reeve, 1858

軟体動物
ハボウキ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 その他（国内での減少傾向）

生息環境 内湾～湾口、低潮帯～水深 30m、砂泥底・砂礫底

生息状況 県内では、有明海（玉名市）、大矢野島周辺、天草松島周辺（前島、池島）、天草上島、天草下島（羊角湾）、八代海（御所浦島など）に分布。羊角湾では浅海域に多産する。熊本県では少なくないが、環境省評価に準じた。本州～九州、中国大陸、東南アジアに分布。



撮影：山下博由

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁、捕獲・採集

特記事項 殻高 30 cm。細長く、黄褐色、棘の無い弱い放射肋がある。

イタヤガイ

Pecten albicans (Schröter, 1802)

軟体動物
イタヤガイ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
環境省カテゴリー

選定理由 近年減少

生息環境 内湾～外洋、低潮帯～潮下帯、砂底・砂泥底

生息状況 県内では、天草、八代海に分布。天草下島では干潟に多産する場所があったが、近年は見られなくなった。移動性の高い種であり、一時的に干潟に住み込んだとも考えられる。北海道南部～九州、朝鮮半島、中国に分布。かつては日本各地でごく普通に見られたが、全体的には減少傾向にあると考えられる。響灘や玄界灘では、かつて大量発生が見られたが、近年は見られなくなった。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、水質汚濁、捕獲・採集

特記事項 殻長 10 cm。扇形で右殻は大きく膨れ、左殻は平板、約 8 本の放射肋がある。水産有用種。



撮影：山下博由

コツツガイ

Eufistulana grandis (Deshayes, 1855)

軟体動物
ツクエガイ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 全国局限、県内局限

生息環境 内湾～湾口、低潮帯～潮下帯、砂泥底

生息状況 県内では、天草松島周辺（高杣島沖）、天草下島（富岡、新和）で確認されている。新和（八代海に属す）では近年、普通に生息するのが確認された（高重、私信）。本州・九州では近年生息確認がないとされている（日本ベントス学会、2012）が、水深 20m 以深では、駿河湾など各地で生息が見られる（高重、私信）。房総半島～南西諸島、インド・太平洋に分布。環境省評価に準じた。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻長 40 mm。石灰質の長い棲管を作り、その中に生息する。



撮影：山下博由

バラフマテ

Solen roseomaculatus Pilsbry, 1901

軟体動物
マテガイ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 全国局限、県内局限

生息環境 湾口、低潮帯～水深 30m、砂底・砂泥底

生息状況 県内では、有明海の沖合（大矢野島沖～天草上島沖）、天草松島周辺（前島）で確認されている。有明海湾口部では、ドレッジで複数地点から採集された他、天草上島の漁港の蛸壺に少なからず混入していた。房総・能登半島以南～九州、中国大陸、インド・太平洋に分布。環境省評価に準じた。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻長 50 mm。



撮影：山下博由

ウロコガイ

Lepiodes takii (Kuroda, 1945)

軟体動物
ウロコガイ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 全国局限、県内局限

生息環境 内湾～外洋、低潮帯～水深 30m、岩礫の裏に生息する。

生息状況 県内では、天草松島周辺（前島）、天草下島（通詞島、富岡、妙見浦、新和）で確認されている。妙見浦、新和では多産する（高重、私信）。駿河湾～九州に分布。環境省評価に準じた。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、水質汚濁

特記事項 殻長 7 mm。



撮影：高重博

スジホシムシモドキヤドリガイ

Nipponomysella subtruncata (Yokoyama, 1927)

軟体動物
ウロコガイ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 全国局限、県内局限、特殊生息生育環境

生息環境 内湾～外洋、中潮帯～低潮帯、砂泥底、スジホシムシモドキの巣穴に生息し、その体表やカニ類に着生

生息状況 県内では、天草松島周辺（前島など）、八代海（球磨川河口）で確認されている。浜名湖～九州、南西諸島に分布。スジホシムシヤドリガイという和名もあるが、スジホシムシではなく、スジホシムシモドキに着生する。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁、その他（ホストの減少）

特記事項 殻長 5 mm。



撮影：山下博由

マツモトウロコガイ

Paraborniola matsumotoi Habe, 1958

軟体動物
ウロコガイ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 県内局限

生息環境 内湾～湾口、低潮帯～潮下帯、岩礫の裏

生息状況 県内では、天草上島で確認されている。房総・男鹿半島～九州に分布。生息地は比較的多い。環境省評価に準じた。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻長 7.5 mm。



撮影：山下博由

オサガニヤドリガイ

Borniopsis macrophthalmensis (Morton & Scott, 1989)

軟体動物
ウロコガイ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 全国局限、県内局限、特殊生息生育環境

生息環境 潮間帯～水深 10m、オサガニ類の体表に着生し、その巣穴にも住み込む

生息状況 県内では、上天草市松島町（メナガオサガニ、ヒメメナガオサガニに着生）、天草市魚貫町（ヒメメナガオサガニに着生）で確認されている（渡部、私信）。神奈川県～八重山諸島、香港、タイに分布。環境省評価に準じた。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁、その他（宿主の減少）

特記事項 殻長 3 mm。



撮影：渡部哲也

ニッポンマメアゲマキ

Pseudogaleomma japonica (A. Adams, 1864)

軟体動物
ウロコガイ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 県内局限

生息環境 内湾～湾口、中潮帯～低潮帯、砂泥底・泥底・岩礫地、埋もれ石の裏に生息

生息状況 県内では、天草松島周辺（前島）、天草上島、天草下島（羊角湾）、八代海（戸馳島、恋路島）で確認されている。房総・男鹿半島～九州、朝鮮半島に分布。本種は多くの内湾・海岸にかなり普遍的に生息している。環境省評価に準じた。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻長 10 mm。埋もれた石の裏で、複数個体が集団で生息していることが多い。



撮影：和田太一

ヒラセザクラ

Clathrotellina carnicolor (Hanley, 1846)

軟体動物
ニッコウガイ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 県内局限

生息環境 内湾～外洋、低潮帯～水深 40m、砂底・細砂底、海草藻場

生息状況 県内では、天草下島（富岡、魚貫）で確認されている。富岡では、砂底に普通と記録されている（波部・菊池、1960）が、近年は確認されていない。魚貫では、近年打ち上げで確認されたが、個体数は少ない。紀伊半島以南、南西諸島、インド・太平洋に分布。熱帯性種。環境省評価に準じた。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻長 25 mm。



撮影：久保弘文

ユウシオガイ

Moerella rutila (Dunker, 1860)

軟体動物
ニッコウガイ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 全国局限、県内局限、近年減少

生息環境 内湾、河口、干潟、中潮帯、砂底・砂泥底

生息状況 県内では、有明海（宇土半島）、天草松島周辺（前島）、天草上島、天草下島（本渡、富岡、里浦、羊角湾、深海）、八代海（八代市、芦北町）で確認されている。陸奥湾～九州、朝鮮半島、中国、台湾に分布。本種は、水質・底質の悪化などの干潟の環境変化によって、個体群の消耗が起きやすい傾向が見られる。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻長 18 mm。膨らみは弱く、薄質、後端はやや裁断状。紅、黄、白などの変異がある。



撮影：山下博由

サクラガイ

Nitidotellina hokkaidoensis (Habe, 1961)

軟体動物
ニッコウガイ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 その他（国内での減少傾向）

生息環境 内湾～外洋、砂浜、干潟、低潮帯～潮下帯、砂底・砂泥底

生息状況 県内では、天草上島（龍ヶ岳）、天草下島（富岡、魚貫、羊角湾、砂月）、八代海（戸馳島、球磨川河口、袋湾）で確認されている。北海道南部～九州、朝鮮半島、中国大陸沿岸に分布。県内では減少傾向にないが、環境省評価に準じた。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻長 20 mm。



撮影：山下博由

ウズザクラ

Nitidotellina lischkei M. Huber, Langleit & Kreipl, 2015

軟体動物
ニッコウガイ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 その他（国内での減少傾向）

生息環境 内湾～外洋、砂浜、干潟、低潮帯～潮下帯、砂底・砂泥底、海草藻場

生息状況 県内では、天草、八代海（戸馳島、恋路島）で確認されている。北海道南部～九州、朝鮮半島、中国大陸沿岸に分布。本種は九州では、港湾内や入江の小規模なコアマモ場や砂泥底に普遍的に出現し、生息地の多い普通種である。ただし、隠蔽種があることが示唆されている。環境省評価に準じた。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻長 10 mm



撮影：石川裕

サギガイ

Rexithaerus sector (Oyama, 1950)

軟体動物
ニッコウガイ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 県内局限

生息環境 内湾～外洋、砂浜、低潮帯～水深 30m、砂底・砂泥底

生息状況 県内では、天草下島（巴湾、魚貴、砂月）で確認されている。生息地は限定的で、個体数も少ない。サハリン、北海道～九州、朝鮮半島、中国に分布。各地で、過去よりも減少傾向が見られる。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、水質汚濁、動物食害、その他（砂浜の減少・消失）

特記事項 殻長 40 mm。



撮影：山下博由

キュウシュウナミノコ

Donax kiusiuensis Pilsbry, 1901

軟体動物
フジノハナガイ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 県内局限

生息環境 湾口～外洋、砂浜、波打ち際～水深 3m、砂底・細砂底

生息状況 県内では、天草下島（魚貴、砂月）に生息する。県内での生息地は少ないが、本種は分散・新規加入が起こりやすい種だと考えられるため、やや低い評価とした。ただし、砂浜の粒度によっては住み込みが困難になる。北海道南部～南西諸島、中国、台湾に分布。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、水質汚濁、動物食害、土砂流入、その他（砂浜の減少・消失）

特記事項 殻長 8 mm。



撮影：山下博由

アシガイ

Gari maculosa (Lamarck, 1818)

軟体動物
シオサザナミ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 県内局限

生息環境 湾口～外洋、低潮帯～水深 30m、砂底・砂礫底

生息状況 県内では、大矢野島、野釜島、天草下島（通詞島、富岡、新和）で確認されている。大矢野島（有明海側）と新和では、普通に産する（高重、私信）。房総半島・山口県北部～南西諸島、インド・太平洋に分布。環境省評価に準じた。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻長 35 mm。亜長方形、やや厚質、殻表には斜めの非対象な線条がある。



撮影：山下博由

オチバガイ

Gari virescens (Deshayes, 1855)

軟体動物
シオサザナミ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
環境省カテゴリー

選定理由 全国局限、県内局限

生息環境 内湾、干潟、砂浜、河口、汽水域、中潮帯～潮下帯、砂泥底、河口汽水域を中心に生息し、塩分の低い内湾の干潟・砂浜でも見られる

生息状況 県内では、有明海（菊池川河口）、天草下島（本渡、白鶴浜）、八代海（佐敷）で確認されている。房総半島・若狭湾～九州、朝鮮半島、中国、台湾、フィリピンに分布。

生存への脅威 河川改修、海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻長 40 mm。前後に長い楕円形、殻頂は後方寄り、やや薄質、緑褐色の殻皮を被る。



撮影：山下博由

キヌタアゲマキ

Solecurtus divaricatus (Lischke, 1869)

軟体動物
キヌタアゲマキ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 その他（国内での減少傾向）

生息環境 内湾～外洋、低潮帯～30m、砂底・砂泥底

生息状況 県内では、大矢野島、天草松島周辺（高杣島、前島）、天草上島（有明海沿岸、龍ヶ岳）、天草下島（本渡、富岡、魚貴、新和）、八代海（球磨川河口、二見）で確認されている。房総半島～九州、朝鮮半島、中国、台湾に分布。県内では減少傾向にないが、環境省評価に準じた。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻長 80 mm。長円筒形、薄質、殻頂はやや前方に寄り、前後端は大きく開く。殻表には放射状に非対象稜があり、薄紅色で、薄い殻皮を被る。



撮影：山下博由

オオノガイ

Mya arenaria oonogai Makiyama, 1935

軟体動物
オオノガイ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 県内局限、近年減少

生息環境 内湾、河口、中潮帯～低潮帯、砂泥底・泥底

生息状況 県内では、有明海、天草松島周辺、天草下島（富岡、里浦）、八代海（球磨川河口、水俣など）に分布。県内では生貝の確認例が乏しかったが、八代海に比較的豊富に生息することが明らかになったので、ランクを下げた。北海道～九州、朝鮮半島、中国に分布。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻長 80 mm。殻は前後に長く後縁は細まる。白色、薄質、茶褐色の殻皮を持ち、水管は長く太い。



撮影：山下博由

オトリガイ

Lutraria maxima Jonas, 1844

軟体動物
バカガイ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 県内局限

生息環境 内湾～外洋、砂浜、低潮帯～水深 30m、砂底・砂泥底

生息状況 県内では、天草下島（本渡、富岡、魚貫、龍ヶ岳）で確認されている。茨城～九州、朝鮮半島、中国、台湾、ベトナム、タイに分布。環境省評価に準じた。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、水質汚濁

特記事項 殻長 12 cm。長楕円形、やや厚質、白色、褐色のやや厚い殻皮を被り、水管は太く大きい。



撮影：高重博

カモジガイ

Lutraria rhynchaena Jonas, 1844

軟体動物
バカガイ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 その他（国内での減少傾向）

生息環境 内湾～外洋、低潮帯～水深 50m、砂礫底・砂泥底

生息状況 県内では、大矢野島、野釜島、天草上島、天草下島（巴湾）で確認されている。天草上島（有明海側）の蛸壺には、少なからず混入する。県内では、減少傾向を示すデータはないが、環境省評価に準じた。房総・能登半島～南西諸島、インド・太平洋に分布。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻長 8～13 cm



撮影：高重博

バカガイ

Mactra chinensis Philippi, 1846

軟体動物
バカガイ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー

選定理由 県内局限

生息環境 内湾～外洋、砂浜、干潟、中潮帯～水深 20m、砂底

生息状況 県内では、大矢野島～天草下島に分布。有明海や八代海の湾奥には、*Mactra quadrangularis* Reeve, 1854 シオフキが分布しており、バカガイはほとんど見られない。熊本県RDB1998では、天草近海で著しく減少したと報告された。近年の調査で、天草下島南部の砂浜に分布し、魚貫や砂月で多数確認されたので、ランクを下げた。千島列島、サハリン、北海道～九州、ロシア沿海州、朝鮮半島～ベトナムに分布。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁、捕獲・採集、動物被害、その他（砂浜の減少・消失）

特記事項 殻長 80 mm。亜三角形、薄質、黄褐色で放射彩がある。水産有用種。「あおやぎ」と呼ばれ鮎のネタや刺身になる他、干物は「ひめがい」などの名で流通している。



撮影：山下博由

ワカミルガイ

Mactrotoma angulifera (Reeve, 1854)

軟体動物
バカガイ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 全国局限、県内局限

生息環境 内湾～湾口、低潮帯～水深 50m、砂底・砂泥底

生息状況 県内では、天草下島（富岡）の記録があるのみ（波部・菊池、1960）。本種は島原半島沖の有明海湾口部で近年確認されているため、天草沖にも分布している可能性がある。環境省評価に準じた。

生存への脅威 海辺の改変等、水質汚濁

特記事項 殻長 30 mm。



撮影：山下博由

タガンデモドキ

Neotrapezium sublaevigatum (Lamarck, 1819)

軟体動物
フナガタガイ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 県内局限

生息環境 内湾～湾口、河口、中潮帯～低潮帯、岩礫地

生息状況 県内では、天草下島（富岡）で確認されている。房総半島・兵庫県北部～南西諸島、インド・太平洋に分布。環境省評価に準じた。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、水質汚濁

特記事項 殻長 30 mm。



撮影：山下博由

ケマンガイ

Gafrarium divaricatum (Gmelin, 1791)

軟体動物
マルスダレガイ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 全国局限

生息環境 内湾～外洋、中潮帯～低潮帯、岩礫底・砂礫底

生息状況 県内では、天草上島（龍ヶ岳）、天草下島（魚貫湾、羊角湾、牛深）、八代海（御立岬、御所浦島）などに分布。生息地・個体数ともに、少なくない。房総・能登半島～九州、インド・西太平洋に分布。環境省評価に準じた。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻長 40 mm。丸みのある亜方形、厚質、殻表全面に分岐放射肋があり、内面は黒紫色。



撮影：山下博由

スダレハマグリ

Marcia japonica (Gmelin, 1791)

軟体動物
マルスダレガイ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 全国局限、県内局限、分布境界

生息環境 内湾、中潮帯～低潮帯、砂泥底・泥底

生息状況 県内では、天草下島（羊角湾、里浦）、八代海（津奈木）で確認されている。羊角湾では2000～2012年の、里浦では2012年の調査で、極めて古い殻しか見られなかったが、近年になって生貝が多く確認されるようになった。津奈木では、古い殻しか確認していない。羊角湾・里浦では、近年になって、幼生が定着し個体群が形成されたものと考えられる。今後注意深く観察する必要がある。環境省評価に準じた。



撮影：山下博由

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁、その他（低水温）

特記事項 殻長 45 mm。

ガンギハマグリ

Pitar lineolatus (G. B. Sowerby II, 1854)

軟体動物
マルスダレガイ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 その他（国内での減少傾向）

生息環境 湾口～外洋、低潮帯～潮下帯、砂底・砂泥底、海草藻場

生息状況 県内では、天草下島（巴湾、妙見浦、牛深、砂月、新和）、八代海（恋路島）で確認されている。近年、妙見浦、牛深、新和では生息が普通に見られた（高重、私信）。砂月では個体数が多い。熊本県では少なくないが、環境省評価に準じた。房総・佐渡～九州、南西諸島、インド・西太平洋に分布。本種は九州では、やや普通に見られ、港湾内に生じたコアモ場などにも住み込んでいる。大分県北部では分布が拡大しており、海洋温暖化の影響を受けている可能性がある。



撮影：山下博由

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻長 25 mm。

スジホシムシモドキ

Sipunculus cumanense (Keferstein, 1867)

星口動物
スジホシムシ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー

選定理由 近年減少

生息環境 陸奥湾以南の砂泥質干潟、天草の砂泥干潟では比較的多く、釣り餌用に採集されている

生息状況 スジホシムシと混棲することもあるが、密度はスジホシムシよりも高い。刺激を受けると体がくびれて数珠状となり、自切する点で、スジホシムシと識別できる。

生存への脅威 海辺の改変等、干潟の減少・消失、人等の接近・利用

特記事項 体長 40 cm。かつては、「タケゾウ」、「ヘイロク」、「サンゴウジュ」、「オウコムシ」などと呼ばれて、愛知県以南の干潟では釣り餌用に大量に採集されていた。



撮影：山下博由

イトメ

Tylorrhynchus osawai (Izuka, 1903)

環形動物
ゴカイ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 県内局限

生息環境 河口、汽水、砂質干潟、塩性湿地

生息状況 有明海（白川、緑川）、八代海（球磨川）等の感潮域上部で局所的に高密度に出現する。

生存への脅威 河川改修

特記事項 体長 20 cm の大型ゴカイ類。淡水の影響が強い汽水域、ヨシ原等の砂質干潟に高密度で出現する。他のゴカイ類と異なり、口吻にキチン質の顎片を持たず、乳頭様の突起を持つ。

トゲイカリナマコウロコムシ

Arctonoella sp.

環形動物
ウロコムシ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー

選定理由 県内局限

生息環境 内湾、干潟、泥質

生息状況 有明海（荒尾干潟、白川、緑川河口）、八代海（湾奥、球磨川）などの泥質の干潟・潮下帯に局所的に高密度に出現するトゲイカリナマコに共生している。場所によっては共生率が高い。有明海、八代海のみに分布。

生存への脅威 海岸の改変等、海域の変化

特記事項 体長 20 mm。背腹に扁平で茶褐色、背面を覆う 16 対のウロコ（背鱗）は中央に目玉模様をもつ。

ニッポンオフエリア

Travisia japonica Fujiwara, 1933

環形動物
オフエリアゴカイ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー

選定理由 県内局限、近年減少

生息環境 前浜干潟、砂質、潮間帯下部、潮下帯

生息状況 天草（本渡、富岡）の砂質干潟で採集記録がある。近年の記録は、本渡干潟（2003 年）のみ。

生存への脅威 干潟の減少・消失、海水域の変化

特記事項 体長 5 cm で体色は薄赤色、体型はずんぐりしている。

シダレイトゴカイ

Notomastus latericeus Sars, 1851

環形動物
イトゴカイ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー

選定理由 県内局限

生息環境 河口干潟、砂泥質、泥質

生息状況 有明海（白川、緑川）、八代海（球磨川）等の河口汽水域で見られる。

生存への脅威 河川改修

特記事項 体長 30 cm。近縁のイトゴカイ、ホソイトゴカイに比べ体節の凸凹が大きく、ずんぐりした体型をしている。胸部は 11 剛毛節からなり、剛毛はすべて針状である。

タマシキゴカイ

Arenicola brasiliensis Nonato, 1958

環形動物
タマシキゴカイ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー

選定理由 県内局限

生息環境 内湾、干潟、潮下帯、砂底、砂泥底

生息状況 荒尾海岸、天草周辺など。砂質の前浜干潟の潮間帯下部に生息。生息地が少ない。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、海水域の変化

特記事項 体長 15 cm。干潟表面に直径 5 mm ほどの砂粒をつなげた筒状の棲管を出す。ヤドリカニダマシが棲管内に共生することが多い。



撮影：吉崎和美

カンテンフサゴカイ

Amaeana sp.

環形動物
フサゴカイ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー

選定理由 国内局限

生息環境 内湾の干潟の低潮帯～潮下帯の砂泥底。

生息状況 1990 年代以降の生息確認地点は 10 ヶ所以下であり、周防灘、有明海（諫早湾）、八代海のみ。内湾奥部の干潟が埋め立てによって全国的に減少したことに伴い、生息地が著しく縮小している可能性がある。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、海水域の変化

特記事項 体長 10 cm。華奢な柔らかい体の先端に口触手が密生し、口触手は先端が膨らんだ特異な形をしている。

ニッポンフサゴカイ

Thelepus setosus (Quatrefages, 1866)

環形動物
フサゴカイ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー

選定理由 県内局限

生息環境 内湾、砂質干潟、転石帯、潮下帯

生息状況 有明海（荒尾）、天草（本渡、富岡）、八代海（球磨川、龍ヶ岳、水俣）などで記録されているが、密度は低い。干潟の転石下などで見つかる。

生存への脅威 海辺の改変等

特記事項 体長 20 cm程度で、石や貝殻を付着させた薄い膜状の棲管に住んでいる。転石下や砂中に棲管を作り、糸状の触手を棲管から出し、有機物を粘着させて摂食する。



撮影：吉崎和美

ミナミエラコ

Pseudopotamilla myriops (Marenzeller, 1884)

環形動物
ケヤリムシ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー

選定理由 県内局限

生息環境 内湾、砂質干潟、潮下帯、転石帯

生息状況 天草（松島・本渡）、八代海（龍ヶ岳）の砂質・砂泥質の干潟・潮下帯で見られるが、密度は低い。

生存への脅威 海辺の改変等、干潟の減少・消失

特記事項 体長 10 cmの円筒状で頭部に漏斗状の鰓冠（糸状の鰓がつながったもの）を持ち、尾部は細くなる。砂泥底に棲管を作り、底土表面に棲管の先端を出し、鰓冠の出し入れをする。



撮影：逸見泰久

カシラエビ

Sandersiella acuminata Shiino, 1965

節足動物
ハッチンソニエラ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
情報不足 (DD)

選定理由 県内局限、模式産地、特殊生息生育環境

生息環境 アマモ場

生息状況 天草富岡のアマモ場より採集された。現在の分布不明。

生存への脅威 海辺の改変等

特記事項 体長 2.4 mmのカシラエビ綱に属する小型の節足動物。分類の見直しが進んでいる。

テナガツノヤドカリ

Diogenes nitidimanus Terao, 1913

節足動物
ヤドカリ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
情報不足 (DD)

選定理由 県内局限、近年減少

生息環境 砂質干潟及び潮下帯

生息状況 砂質または砂泥質の前浜干潟の潮間帯下部から潮下帯に生息。天草周辺には少なくないが、他の地域では希少かつ減少している。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失

特記事項 甲長 10 mm。三陸海岸～九州。琉球列島には分布しないが、香港には分布する。砂質干潟の潮間帯から潮下帯水深 10mほどに生息。抱卵メスは春 4 月くらいから秋 10 月くらいまで見られる。産卵期のピークの 7、8 月には大部分の個体が潮下帯に移動し、秋には潮間帯に戻ってくる。



撮影：逸見泰久

ヤドリカニダマシ

Polyonyx sinensis Stimpson, 1858

節足動物
カニダマシ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 県内局限、特殊生息生育環境

生息環境 内湾、干潟、潮下帯、砂泥底

生息状況 荒尾海岸、天草周辺、球磨川河口など。砂質または砂泥質の前浜干潟の潮間帯下部から潮下帯に生息。県下では希少かつ減少傾向にある。

生存への脅威 河川改修、海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失

特記事項 甲幅 5 mm。甲は横長の楕円で、地は茶～灰色で黒い模様がある。ムギワラムシの棲管に共生する。砂質または砂泥質の前浜干潟の潮間帯下部から潮下帯に生息。

ウミエラカニダマシ

Porcellanella triloba White, 1852

節足動物
カニダマシ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー

選定理由 県内局限、特殊生息生育環境

生息環境 潮下帯、砂底、砂泥底

生息状況 有明海湾口部、八代海（天草上島 龍ヶ岳）などに分布。

生存への脅威 海辺の改変等、水質汚濁、その他（宿主の動態）

特記事項 甲幅 10 mm。水深 10～70mの内湾の砂底や砂泥底に生息するヤナギウミエラやトゲウミエラなどの葉状体に共生。相模湾以南に分布。



標本所有者：熊本大学合津マリンステーション

ヘイケガニ

Heikeopsis japonica (von Siebold, 1824)

節足動物
ヘイケガニ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー

選定理由 全国局限

生息環境 内湾、干潟、浅海、砂泥底

生息状況 有明海（宇土半島沿岸など）・八代海（球磨川河口など）の潮間帯と浅海。潮間帯に本種が出現するのは有明海・八代海のみと考えられる。

生存への脅威 海辺の改変等、水質汚濁、海水域の変化

特記事項 甲幅 25 mm。甲は褐色で丸みのある台形。表面は平滑であるが、いくつかの溝があり人の怒った顔のように見える。第3、5歩脚の先端は小さな鉤状で、これで貝殻などを背負う。全国の水深 10~30m の砂泥底に生息。近縁のキメンガニは甲にいぼ状突起がある。



撮影：逸見泰久

ヒメムツアシガニ

Hexapus anfractus (Rathbun, 1909)

節足動物
ムツアシガニ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 特殊生育生息環境

生息環境 泥質干潟及び潮下帯

生息状況 砂泥底から泥底に生息する。トゲイカリナマコやフサゴカイ類の巢穴に共生。国内では有明海でのみで生息が確認されている。

生存への脅威 海辺の改変等、干潟の減少・消失

特記事項 甲幅 10 mm。砂泥底から泥底に生息。体色は本来白いが、表面が泥で覆われているため、見分けにくい。甲や腹部は非常に硬い。



撮影：逸見泰久

ツノガニ

Hyastenus diacanthus (de Haan, 1839)

節足動物
ツノガニ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー

選定理由 近年減少

生息環境 砂泥干潟、砂泥底

生息状況 房総半島~九州沿岸、オーストラリア、インド洋。潮間帯下部から潮下帯の砂泥底。天草諸島の干潟では比較的多くみられたが、近年は減少傾向。現在、干潟での生息が確認できるのは有明海沿岸のみ。

生存への脅威 海辺の改変等、干潟の減少・消失、海水域の変化

特記事項 甲幅 40 mm。砂泥底に点在する転石や流木に付着していることが多い。体表を覆う短毛にカイメンやヒドロゾア、ホヤ類などを付着させて偽装する。



標本所有者：熊本大学合津マリンスターション

ホソウデヒシガニ

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー

Enoplolambrus laciniatus (De Haan, 1839)

節足動物
ヒシガニ科

選定理由 近年減少

生息環境 砂泥干潟、砂泥底

生息状況 房総半島～九州、福井県沿岸。干潟の潮間帯下部や潮下帯の砂泥底。天草諸島の干潟では 1980 年代後半までは比較的多く見られたが、1990 年代以降減少。本種が好む比較的固い砂泥質の海底が減少し、泥質化したことが原因のひとつと考えられる。現在、干潟域での生息が確認できるのは有明海沿岸のみ。

生存への脅威 海辺の改変等、干潟の減少・消失、海水域の変化

特記事項 甲幅 40 mm。日本固有種。

ヒシガニ

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー

Enoplolambrus validus (De Haan, 1837)

節足動物
ヒシガニ科

選定理由 県内局限

生息環境 内湾、潮下帯、砂浜、砂底

生息状況 天草周辺など。砂質または砂泥質の前浜干潟の潮間帯下部や浅海。近年、干潟・浅海域の泥化などにより減少傾向にある。

生存への脅威 海辺の改変等、干潟の減少・消失、海水域の変化

特記事項 甲幅 30 mm。甲は下半分が丸みを帯びた菱形で、鉗脚が長い。甲や鉗脚には無数のトゲを有する。房総半島以南の前浜干潟の潮間帯下部や浅海域に生息。



標本所有者：熊本大学合津マリンステーション

クシテガニ

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

Parasesarma affine (De Haan, 1837)

節足動物
ベンケイガニ科

選定理由 全国局限

生息環境 内湾、河口、塩性湿地、高潮帯、泥底

生息状況 坪井川・緑川・氷川・球磨川の河口の塩性湿地など。護岸工事などにより減少。

生存への脅威 河川改修、ヨシ原の減少、塩性湿地の減少・消失、干潟の減少・消失

特記事項 甲幅 25 mm。オオユビアカベンケイとも呼ばれる。甲は四角形で、側縁は後方でやや狭まる。側縁に切れ込みはない。可動指の上縁には大粒の顆粒が並ぶ。ユビアカベンケイが鉗脚先端のみが赤く掌部は肌色に対し、本種では先端は赤で掌部はオレンジ色。西日本の塩性湿地の泥地に巣穴を掘り、周辺で活動。



撮影：逸見泰久

ユビアカベンケイガニ

Parasesarma tripectinis (Shen 1940)

節足動物
ベンケイガニ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 近年減少

生息環境 内湾、河口、塩性湿地

生息状況 静岡県以南～沖縄諸島。日本固有種。河口域塩性湿地のやや上部付近に生息するため、護岸工事などで生息地が破壊されやすい。

生存への脅威 河川改修、海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失

特記事項 甲幅 16 mm。アシハラガニやクシテガニのように巣穴を掘ることはほとんどなく、ヨシ原内を徘徊する。満潮時には、水から離れた高所に移動し、干上がるとヨシ原内で餌を取る。



撮影：吉崎和美

ベンケイガニ

Sesarmops intermedius (De Haan, 1835)

節足動物
ベンケイガニ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 県内局限、近年減少

生息環境 内湾、河口、塩性湿地、高潮帯、潮上帯

生息状況 水川河口、球磨川河口など。護岸工事などにより激減。

生存への脅威 河川改修、海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失

特記事項 甲幅 35 mm。甲は四角形で赤く、側縁に1個の切り込みがある。河口汽水域のヨシ原周辺の土手などに巣穴を掘り、夜になると草むらなど広い範囲を活動する。類似種のアカテガニには甲側縁に切れ込みはない。房総半島以南



撮影：逸見泰久

ハマガニ

Chasmagnathus convexus (de Haan, 1835)

節足動物
モクズガニ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 全国局限、近年減少

生息環境 内湾、河口、塩性湿地、高潮帯、潮上帯

生息状況 潮上帯の小高いところやヨシ原の辺りに大きな巣穴を掘って生息する。夜行性で植物食。ヨシ原を主な生息場所とするため、護岸壁の建設や改修、あるいは河川改修や埋め立てが、本種の生息場所を狭めている。西日本には好適な生息地が残されており、球磨川河口干潟などでは多数が観察される。

生存への脅威 河川改修、海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失

特記事項 甲幅 50 mm。宮城県～沖縄諸島、朝鮮半島、中国大陸沿岸、台湾。



撮影：逸見泰久

ヒメアシハラガニ

Helicana japonica (K. Sakai & Yatsuzuka, 1980)

節足動物
モクズガニ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 近年減少

生息環境 干潟、河口、塩性湿地

生息状況 砂泥質干潟に巣穴を掘って生活。やや堅く乾燥した干潟に多い。肉食が強く、主としてカニ類（ハクセンシオマネキ、チゴガニ、コメツキガニなど）を捕食。近縁のアシハラガニは中～高潮帯に生息する。食物連鎖上位種であるため、元々個体数が少ない。特に、河川や小規模な干潟の個体群は、埋め立てや堤防の建設・改修によって減少傾向にある。

生存への脅威 河川改修、海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失

特記事項 甲幅 25 mm。愛媛県重信川における繁殖期は 3～7 月で、雌は甲幅約 10mm で抱卵。



撮影：逸見泰久

アカイソガニ

Cyclograpsus intermedius Ortmann, 1894

節足動物
モクズガニ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー

選定理由 県内局限

生息環境 外洋、岩礫地、潮間帯

生息状況 天草周辺（苓北町）など。海辺の改変等、埋め立てなどによって減少傾向にある。相模湾以南の外洋に面した礫の多い岩礁の潮間帯上部の転石下に生息する。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て

特記事項 甲幅 20 mm。甲は丸みを帯びた平滑な四角形で光沢があり、周囲には狭い縁取り。側縁に 2 個の浅い切れ込みがある。



標本所有者：熊本大学合津マリンステーション

トリウミアカイソモドキ

Sestrostoma toriumii (Takeda, 1974)

節足動物
モクズガニ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 全国局限、特殊生息生育環境

生息環境 砂泥質干潟、アナジャコ科・スナモグリ科甲殻類の巣穴に寄居

生息状況 砂泥質干潟に生息。瀬戸内海以外の地域では希少。埋め立てなどによって宿主となる甲殻類の生息地が破壊され、個体数が減少している。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失

特記事項 甲幅 9 mm。アナジャコ科・スナモグリ科甲殻類の巣穴に寄居。外洋に面した転石地にたまった砂泥には、バルスアナジャコやスナモグリが巣穴をつくっている。近縁のヒメアカイソモドキは、体全体が白色であるため、本種とは容易に識別できる。



撮影：逸見泰久

スネナガイソガニ

Hemigrapsus longitarsis (Miers, 1879)

節足動物
モクズガニ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー

選定理由 県内局限

生息環境 潮間帯下部から潮下帯の砂泥底やアマモ場に生息

生息状況 潮間帯下部から潮下帯の砂泥底に生息。干潟表面に点在する石の下や、アマモの根際に見られる。干潟での記録は西日本に限られる。本種の好む硬い砂泥質の干潟やアマモ場は減少しつつあり、個体群の減少が懸念される。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失

特記事項 甲幅 15 mm。体色は暗緑褐色から明るい赤茶色までと多様。同所的に生息するケフサイソガニなどと違い、歩脚が華奢で長く、また雌雄共に鉗脚は細く、軟毛を持たない。



標本所有者：熊本大学合津マリンステーション

ヒメケフサイソガニ

Hemigrapsus sinensis Rathbun, 1931

節足動物
モクズガニ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 特殊生息生育環境

生息環境 カキ礁や周辺の転石地に生息

生息状況 潮間帯中部から下部のカキ礁やカキ殻の間隙、転石下に生息。カキ殻に依存することが多いため、個体群の維持には安定的なカキ群集が必要であり、河川改修、水質悪化等による河口部の攪乱が脅威となりうる。大規模なカキ礁は減少している。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失

特記事項 甲幅 10 mm。和歌山県、瀬戸内海、有明海、中国大陸南部。同所的に生息することが多いケフサイソガニやタカノケフサイソガニは、メスは鉗脚に軟毛がないのに対し、本種は雌雄共に軟毛が生える。大型のカキ類であるスミノエガキのカキ礁を生息場所とする個体群は大型化する。

ヨコナガモドキ

Asthenognathus inaequipes Stimpson, 1858

節足動物
モクズガニ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 特殊生息生育環境

生息環境 トゲイカリナマコの巣穴内に共生

生息状況 トゲイカリナマコの巣穴からヒメムツアシガニとともに見られることが多いが、本種の方が少ない。ヒメムツアシガニと同様に、釣餌用のスジホシムシモドキの採集によって、同所的に生息している宿主及び本種の生息地の攪乱が懸念される。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失

特記事項 甲幅 10 mm。陸奥湾、相模湾、伊豆半島、伊勢湾、瀬戸内海、有明海、黄海に分布。潮間帯からの記録は有明海と黄海に限られる。



撮影：吉崎和美

ハラグレチゴガニ

Ilyoplax deschampsii (Rathbun, 1913)

節足動物
コメツキガニ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 全国局限、県内局限、分布境界

生息環境 干潟、河口、泥底

生息状況 菊池川河口。本種は国内では有明海湾奥部にのみに生息し、菊池川が南限になる

生存への脅威 河川改修、埋め立て、干潟の減少・消失

特記事項 甲幅 1 cm。甲は前縁が丸みを帯びた四角形で、背面は灰色。口や頬、鉗脚は紫がかかった色をしている。雄では腹部の中央がくびれる。チゴガニは甲が五角形に近く、口や頬は青みがかった。また腹部はくびれない。有明海湾奥部に流入する河川感潮域の軟泥質や泥質の干潟に生息。



撮影：逸見泰久

チゴイワガニ

Ilyograpsus nodulosus Sakai, 1983

節足動物
オサガニ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー

選定理由 県内局限

生息環境 河口干潟の低潮帯及び潮下帯の泥底

生息状況 紀伊半島以南～沖縄諸島。紀伊半島、四国南西岸、九州、奄美大島、沖縄島、西表島で記録があるが、どの場所でも生息数が少ない。西表島では、現在も生息が確認されている。

生存への脅威 河川改修、埋め立て、干潟の減少・消失

特記事項 甲幅 7 mm。日本固有種。ドロイワガニとして、九州天草や沖縄島から報告された個体は、すべて本種とみなされる。



撮影：吉崎和美

オサガニ

Macrophthalmus abbreviatus Manning & Holthuis, 1981

節足動物
オサガニ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 近年減少

生息環境 内湾、干潟、砂泥底

生息状況 白川、緑川、天草周辺、球磨川、天草周辺など。生息地は少ないが、いずれの場所でも希少。砂泥質または砂質のやや堅い干潟の中部～下部域に生息。

生存への脅威 海辺の改変等、干潟の減少・消失

特記事項 甲幅 30 mm。甲は長方形で、甲幅は甲長の約 2 倍。眼柄は細長く、額は狭い。鉗脚は長大で、強く湾曲する。泥質干潟に生息する近縁のヤマトオサガニと異なり、腹部は赤い。東京湾以南に分布。



撮影：逸見泰久

ヒメメナガオサガニ

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー

Macrophthalmus microfylacas Nagai, Watanabe & Naruse, 2006

節足動物
オサガニ科

選定理由 近年減少

生息環境 内湾、干潟、浅海、砂泥底

生息状況 確実な記録は、県内では上天草市松島町と天草市魚貴湾、県外では沖縄県泡瀬干潟のみである。局所的に分布するため環境変動により絶滅する危険性が高い。

生存への脅威 海辺の改変等、水質汚濁、海水域の変化



撮影：吉崎和美

特記事項 甲幅 10 mm。甲は横長の長方形で、眼柄が著しく長い。甲側縁の第1・3歯は小さく、第2歯が大きい。潮間帯下部から潮下帯の固くしまった砂泥底に生息する。近縁のメナガオサガニは甲幅約 2cm で、第1歯が横にとげ状に突出し、第2歯よりも大きい。また、眼柄は本種よりも相対的に短い。

メナガオサガニ

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー

Macrophthalmus serenei Takeda & Komai, 1991

節足動物
オサガニ科

選定理由 近年減少

生息環境 内湾、干潟、浅海、砂泥底

生息状況 天草周辺では少なくなかったが、近年の記録は 2004 年の上天草市西目海岸の 1 個体のみ。

生存への脅威 海辺の改変等、水質汚濁、海水域の変化



撮影：吉崎和美

特記事項 甲幅 20 mm。甲は横長の長方形で、眼窩外歯は横にとげ状に突き出る。それに続く 2 歯は小さい。眼柄が著しく長い。伊豆半島以南の潮間帯下部と潮下帯の砂泥地に生息。近縁の小型種ヒメメナガオサガニは甲幅約 1cm で、眼柄が本種よりも相対的に長い。また眼窩外歯よりも第 2 歯が突出する。

スナガニ

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー

Ocypode stimpsoni Ortmann, 1897

節足動物
スナガニ科

選定理由 県内局限、近年減少

生息環境 砂浜、河口、砂底

生息状況 県内各地の砂浜や河口干潟上部に生息するがいずれも希少である。また、海辺の改変等、埋め立て、海水域の変化等で減少傾向にある。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、海水域の変化



撮影：逸見泰久

特記事項 甲幅 30 mm。甲は四角形で、側縁に切れ込みはない。甲は砂色だが、繁殖期の夏には赤や黄色になる個体もある。眼柄は太く短く、眼が大きい。幼ガニでは、ミナミスナガニやツノメガニと識別が難しいので注意が必要。東北以南の河口干潟及び前浜干潟の高潮帯～潮上帯の砂底に生息

メナシピンノ

Xenophthalmus pinnotheroides White, 1846

節足動物
メナシピンノ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 全国局限

生息環境 干潟の砂泥底

生息状況 瀬戸内海西部、有明海、フィリピン、タイ。砂泥底に生息し、縦横に走る複雑な巣穴を掘る。眼や体表の色素が退化している。有明海から瀬戸内海西部の非常に限られた区域にのみ生息するため、個体群の維持には細心の注意を払う必要がある。硬く締まった砂泥質の底質にのみ巣穴を作るため、埋め立てや浚渫、堤防設置による底質の変化には敏感であると考えられる。



撮影：吉崎和美

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失

特記事項 甲幅 15 mm。体表にはウロコガイ上科の二枚貝ガンズキが付着していることがある。

ホンコンマメガニ

Pinnixa penultipedalis Stimpson, 1858

節足動物
カクレガニ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
情報不足 (DD)

選定理由 全国局限、特殊生息生育環境

生息環境 大型多毛類の棲管に寄生

生息状況 瀬戸内海、有明海、中国大陸南部。砂泥底の大型多毛類（ヒヤクメニッポンフサゴカイ・ニッポンフサゴカイなど）の棲管に寄生するが、宿主の大型多毛類は激減している。フサゴカイ類が多数生息する干潟が減少傾向にあり、本種の生息環境も危惧される状況にある。



撮影：吉崎和美

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失

特記事項 甲幅 8 mm。

フタハピンノ

Pinnotheres bidentatus Sakai, 1939

節足動物
カクレガニ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由 特殊生息生育環境

生息環境 二枚貝の外套膜内に寄生

生息状況 和歌山県、徳島県、九州。河口域などの砂底から砂泥底に生息。イソシジミやクチバガイ、ソトオリガイなど、数種類の二枚貝の外套膜内に寄生することが知られている他、底質中からも採集される。砂質干潟と、二枚貝個体群の両方が揃わないと生息できないため、埋め立て、浚渫、河川改修、水質悪化等による生息環境の破壊が懸念される。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失

特記事項 甲幅 4 mm。日本固有種。紀伊水道と九州沿岸のみで記録されている。

カギツメピンノ

Pinnotheres pholadis de Haan, 1835

節足動物
カクレガニ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー

選定理由 特殊生息生育環境

生息環境 内湾、干潟、岩礫地

生息状況 天草周辺など。ムラサキイガイ、アズマニシキなどの二枚貝に寄生。東京湾以南に生息する。

生存への脅威 海辺の改変等、海水域の変化

特記事項 甲幅 1.5 cm。オオシロピンノに似るが、歩脚の指節はすべて短いかぎ爪となっている。また、第3顎脚の指節先端は前節の先端を超える。



標本所有者：熊本大学合津マリンステーション

ニホンマメガニダマシ

Sakaina japonica Serène, 1964

節足動物
カクレガニ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー

選定理由 特殊生息生育環境

生息環境 フサゴカイ類の棲管内に共生

生息状況 相模湾、紀伊長島、有明海に分布。砂底や砂泥底に生息するフサゴカイ類の棲管内に共生することが多いが、転石下や岩礁域の海藻類の根際で見られることもある。有明海ではフクロムシ類に寄生されている個体がしばしば観察される。分布域は比較的広いが、個体数は少ない。本種の個体群維持には安定的な宿主個体群の維持が不可欠であり、汚染や攪乱の少ない干潟の保全が望まれる。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失

特記事項 甲幅 8 mm。日本固有種。歩脚の先端はかぎ爪状で非常に鋭く、しがみつく力も強い。



標本所有者：熊本大学合津マリンステーション

オオアカヒトデ

Leiaster leachi (Gray, 1840)

棘皮動物
アカヒトデ科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー

選定理由 県内局限、分布境界

生息環境 外洋、潮下帯

生息状況 紀伊半島以南の岩礁・サンゴ礁に分布するが、県下では牛深の水深 5~15mのサンゴ群集の分布する岩礁でまれに見つかる。

生存への脅威 捕獲・採集

特記事項 腕長 40 cmに達する大型のヒトデ。盤は小さく5本の腕は太くて長い。体色は赤を基本とし、真紅色、褐色あるいは橙黄色の不規則な斑紋が散在する。

ヨツアナカシパン

Peronella japonica Mortensen, 1948

棘皮動物
カシパン科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー

選定理由 県内局限、近年減少

生息環境 潮間帯、潮下帯、砂底

生息状況 天草（龍ヶ岳、松島、本渡、鬼池）の低潮帯～潮下帯の砂底に生息。龍ヶ岳では普通に見られるが他の場所では少ない。

生存への脅威 海辺の改変等、干潟の減少・消失

特記事項 殻は中型で長径 50 mm。やや平たく、輪郭は多角形に近い楕円計。全体に赤褐色を帯びる。黒褐色のヒトデ型の花紋が目立つ。



撮影：逸見泰久

スカシカシパン

Astriclypeus manni Verrill, 1867

棘皮動物
カシパン科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー

選定理由 県内局限、近年減少

生息環境 潮間帯、潮下帯、砂底

生息状況 天草（龍ヶ岳、本渡、富岡）の潮下帯砂底に生息。龍ヶ岳は普通に見られるが他の場所では少ない。

生存への脅威 海辺の改変等、干潟の減少・消失

特記事項 殻は大型で長径 14 cmの円盤状。殻を貫通する 5 個の細長い透かし孔がある。全体に茶褐色を帯びる。



撮影：吉崎和美

ヒラタブンブク

Lovenia elongata (Gray, 1845)

棘皮動物
カシパン科

熊本県カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー

選定理由 県内局限、近年減少

生息環境 潮間帯、潮下帯、砂底

生息状況 天草周辺の砂底に生息。大矢野、松島、龍ヶ岳、本渡、富岡の砂底に生息。龍ヶ岳、大矢野では群生しているが、他の地点では低密度。

生存への脅威 海辺の改変等、干潟の減少・消失

特記事項 殻は中型で長径 50 mm。やや平たく前後に長い。囲肛部はろうと状となり殻内面へ陥入。全体に赤褐色を帯びる。



撮影：吉崎和美

情報不足 (DD)

アマクサオトゲキクメイシ

Acanthastrea amakusensis Veron, 1990

刺胞動物
オトゲサンゴ科

熊本県カテゴリー
情報不足 (DD)
環境省カテゴリー

選定理由 県内局限、分布境界、模式産地

生息環境 潮下帯

生息状況 天草を模式産地として、1990年に記載され、その後東南アジアまで分布することがわかってきた。牛深の2ヶ所で生息が確認されている。

生存への脅威 その他（個体群の規模が小さい）

特記事項 塊状のサンゴで直径10cm程度の群体を作る。生時の色彩は鮮やかで緑、白、赤など変異が大きい。

タイワンキサゴ

Umbonium suturale (Lamarck, 1822)

軟体動物
ニシキウズカイ科

熊本県カテゴリー
情報不足 (DD)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 県内局限

生息環境 湾～外洋、砂浜、干潟、低潮帯～水深10m、砂底

生息状況 県内では、天草下島（砂月）で記録がある（矢田・潮崎、2001）。近年の産出状況が不明のため、情報不足とした。和歌山県～沖縄島、台湾に分布し、生息地は点状的。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、水質汚濁、その他（砂浜の減少・消失）

特記事項 殻径20mm。



撮影：山下博由

ヒメカノコ

Clithon oualaniense (Lesson, 1831)

軟体動物
アマオブネ科

熊本県カテゴリー
情報不足 (DD)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 全国局限、県内局限

生息環境 内湾奥、汽水域、淡水流入・滲出のある干潟

生息状況 県内では、天草下島（羊角湾）で、殻が多く確認されているが、生息は確認されていない。一時的に分散したものが、消滅したと考えられる。房総半島～南西諸島、インド・太平洋に分布。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻長10mm。亜球形、殻口は半月形で、内唇～軸唇に弱い数個の歯がある。大きい三角斑があり色彩は変異に富む。



撮影：石川裕

イリエツボ

Iravadia yendoi (Yokoyama, 1927)

軟体動物
ワカウラツボ科

熊本県カテゴリー
情報不足 (DD)
環境省カテゴリー
絶滅危惧 I 類(CR+EN)

選定理由 全国局限、県内局限

生息環境 内湾奥、水深 5~10m

生息状況 県内では、天草下島（富岡）の砂泥地に少産という記録があるのみ（波部・菊池、1960）。

生存への脅威 海辺の改変等

特記事項 殻長 4.5 mm。

サキグロタマツメタ

Laguncula pulchella Benson, 1842

軟体動物
タマガイ科

熊本県カテゴリー
情報不足 (DD)
環境省カテゴリー
絶滅危惧 I 類(CR+EN)

選定理由 その他（情報不足）

生息環境 内湾、中潮帯~低潮帯、砂底・砂泥底

生息状況 県内では、有明海（荒尾市~宇土市住吉）、八代海（球磨川河口）に分布。本種の有明海、周防灘の個体群は在来であると考えられてきたが、日本産の個体群はすべて 1940~1950 年代以降に国外から移入されたものである可能性が指摘されている（山下ほか、2014）。そのため、本種のレッドリスト評価は再検討される必要がある。1968 年の荒尾市産の標本（豊橋市自然史博物館、2005）が、今のところ熊本県産で最も古いものと考えられる。



撮影：和田太一

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、捕獲・採集、外来種の侵入

特記事項 殻長 50 mm。タニシ型、やや薄質、青灰色、螺層の膨らみは強く、蓋は角質。

アラゴマフダマ

Naticarius onca (Röding, 1798)

軟体動物
タマガイ科

熊本県カテゴリー
情報不足 (DD)
環境省カテゴリー
絶滅危惧 II 類 (VU)

選定理由 全国局限、県内局限

生息環境 内湾~湾口、中潮帯~水深 20m、細砂底、海草藻場

生息状況 県内では、天草下島（牛深）で記録がある（矢田・潮崎、2001）。著者らは標本を未確認で、近年の産出状況も不明のため、情報不足とした。紀伊半島以南、インド・太平洋に分布。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻長 25 mm。



撮影：久保弘文

マルテンスマツムシ

Mitrella martensi (Lischke, 1871)

軟体動物
フトコロガイ科

熊本県カテゴリー
情報不足 (DD)
環境省カテゴリー
絶滅危惧 I 類(CR+EN)

選定理由 その他 (情報不足)

生息環境 内湾、中潮帯～低潮帯、岩礫地・砂泥底。干潟の転石や杭、カキなどの付着基盤のあるところに生息

生息状況 県内では、有明海（荒尾市～宇土半島東部）、八代海（球磨川河口、二見洲口）に分布。有明海などに生息する本種の「大型で太い」殻形の個体群は、国外からの移入である可能性が指摘されており（日本ベントス学会、2012）、熊本県産のレッドリスト評価は困難である。八代海の個体群は、有明海からの移入もしくは分散である可能性がある。北海道南部～九州、朝鮮半島、中国に分布。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失

特記事項 殻長 20 mm。紡錘形、厚質、外唇内側には歯列を備える。茶褐色の縦の雲状斑があり、やや厚い殻皮を被る。



撮影：和田太一

ウネハナムシロ

Nassarius variciferus (A. Adams, 1852)

軟体動物
ムシロガイ科

熊本県カテゴリー
情報不足 (DD)
環境省カテゴリー
絶滅危惧 I 類(CR+EN)

選定理由 その他 (情報不足)

生息環境 内湾、干潟、低潮帯～潮下帯、砂底・砂泥底

生息状況 県内では、有明海（玉名市）で殻が確認されているのみ。現在、有明海奥部に生息する本種の個体群は、国外からの移入である可能性が指摘されており（日本ベントス学会、2012）、熊本県産はレッドリスト評価が困難である。瀬戸内海～九州、朝鮮半島、中国に分布。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、外来種の侵入

特記事項 殻長 10～25 mm。厚質、明瞭な縦肋と縦張肋があり、肋間には低い螺肋が密にある。外唇は肥厚し内側に歯列を備え、内唇に 2 歯、軸唇に 1 歯がある。



撮影：山下博由

コゲチャタケ

Myurella tsuboiana (Yokoyama, 1922)

軟体動物
タケノコガイ科

熊本県カテゴリー
情報不足 (DD)
環境省カテゴリー

選定理由 全国局限、県内局限、近年減少

生息環境 湾～外洋、潮下帯、砂底・砂泥底

生息状況 県内では、天草下島（牛深）で複数の記録がある（矢田・潮崎、2001）。本種は近年、国内で生息の報告がほとんどない種であり、減少が危惧される。茨城県～九州に分布。近似種 *Myurella bifrons* (Hinds, 1844) オオコゲチャタケとの関係も再検討の必要がある。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、水質汚濁

特記事項 殻長 40～80 mm。



撮影：山下博由

カサガタガイ

Pyramidellidae gen. B & sp.

軟体動物
トウガタガイ科

熊本県カテゴリー
情報不足 (DD)
環境省カテゴリー
情報不足 (DD)

選定理由 全国局限、県内局限、特殊生息生育環境

生息環境 内湾湾口部の砂泥干潟・岩礫地、ヒヤクメニッポンフサゴカイ
Thelepus japonicus Marenzeller, 1884 の棲管内に生息

生息状況 県内では、熊本市、上天草市、天草市で確認されている（日本ベントス学会、2012）。山口県、徳島県、愛媛県、熊本県に分布。未記載種。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁、その他（ホストの減少）

特記事項 殻径 5 mm。



撮影：渡部哲也

アカガイ

Anadara broughtonii (Schrenck, 1867)

軟体動物
フネガイ科

熊本県カテゴリー
情報不足 (DD)
環境省カテゴリー

選定理由 県内局限、近年減少

生息環境 内湾、低潮帯～潮下帯、砂泥底・泥底

生息状況 県内では、有明海（緑川河口）で記録がある。熊本県で絶滅危惧 I B 類としてきたが、産出記録が少なく、分布状況や過去の生息状況が不明であり、評価が困難である。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻長 10 cm。箱型で膨らみは強く、42 本内外の平滑な放射肋があり、褐色の殻皮を持つ。水産有用種。



撮影：山下博由

ヤマホトトギス

Arcuatula japonica (Dunker, 1857)

軟体動物
イガイ科

熊本県カテゴリー
情報不足 (DD)
環境省カテゴリー
準絶滅危惧 (NT)

選定理由 全国局限、県内局限、近年減少

生息環境 内湾～湾口、潮下帯、砂底・砂泥底

生息状況 県内では、ヤマホトトギスとして永浦島（弘田ほか、1976）、巴湾（波部・菊池、1960）、牛深町・砂月（矢田・潮崎、2001）の記録がある。近似種にノジホトトギス *Arcuatula perfragilis* (Dunker, 1857) があり、混同のおそれがあるため、標本の確認や再調査が必要である。波部・菊池（1960）は両種を富岡から報告しているため、巴湾の記録は間違いないであろう。熊本 RDB 2004 で報告した「有明海沿岸、八代海沿岸」のものはノジホトトギスである。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、水質汚濁

特記事項 殻長 20 mm。ヤマホトトギスはノジホトトギスより大型で、緑色が強く鳥羽模様が明瞭である。



撮影：山下博由

ネコノアシガキ

Talonostrea talonata Li & Qi, 1994

軟体動物
イタボガキ科

熊本県カテゴリー
情報不足 (DD)
環境省カテゴリー
情報不足 (DD)

選定理由 全国局限、県内局限

生息環境 内湾～湾口、低潮帯～水深 10m、砂礫底

生息状況 県内では、有明海沿岸、天草上島沖、天草下島（羊角湾）で殻が確認されているが、生息記録はない。本種は国内では生息が確認されておらず、消滅時期も明らかでないため情報不足とする。日本、朝鮮半島、中国大陸沿岸に分布。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、水質汚濁

特記事項 殻高 20～33 mm。



撮影：山下博由

オビクイ

Entodesma navicula (Adams & Reeve, 1850)

軟体動物
サザナミガイ科

熊本県カテゴリー
情報不足 (DD)
環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由 県内局限

生息環境 内湾～外洋、低潮帯～水深 20m、岩礫地、海藻の根元

生息状況 県内では、天草下島（富岡）の記録があるのみ（波部・菊池、1960）。本種が主に生息する潮下帯岩礫地は、県内では調査不足であり、情報不足とする。天草灘沿岸の打ち上げでは確認されていない。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、水質汚濁

特記事項 殻長 25 mm。



撮影：山下博由

チゴマテ

Solen kikuchii Cosel, 2002

軟体動物
マテガイ科

熊本県カテゴリー
情報不足 (DD)
環境省カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由 全国局限、県内局限

生息環境 内湾～湾口、低潮帯～49m、泥底・砂泥底

生息状況 県内では、有明海、天草松島周辺（前島、池島）、八代海北部の浅海域に分布。個体数は多い。本種は、波部・田中（1959）の有明海全域の貝類遺骸調査に記録がなく、有明海周辺での化石・現生堆積物中からも発見されていない。有明海での最初の発見は 1970 年前後と考えられる（菊池、1985）。移入種である可能性も考慮されるため、情報不足とした。国内では、瀬戸内海にも分布する。

生存への脅威 海辺の改変等、水質汚濁

特記事項 殻長 23 mm。



撮影：山下博由

ハチミツガイ

Melliteryx puncticulata (Yokoyama, 1924)

軟体動物
ウロコガイ科

熊本県カテゴリー
情報不足 (DD)
環境省カテゴリー
情報不足 (DD)

選定理由 全国局限、県内局限

生息環境 内湾～湾口、低潮帯～潮下帯、岩礫地・砂底

生息状況 県内では、天草下島（富岡）の記録があるのみ（波部・菊池、1960）。評価する情報に乏しい。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻長 6 mm。



撮影：石川裕

カキゴロモ

Aspidopholas sp.

軟体動物
ニオガイ科

熊本県カテゴリー
情報不足 (DD)
環境省カテゴリー

選定理由 全国局限、県内局限、特殊生息生育環境

生息環境 内湾、低潮帯、砂泥底・泥底、スミノエガキやマガキ *Crassostrea gigas* (Thunberg, 1793)の殻に穿孔して生息

生息状況 県内では、八代海北部の大野川河口沖のカキ礁において、大型のスミノエガキの殻に穿孔して生息するのが確認された。個体数は少ない。学名未決定種であるので、情報不足とした。有明海、八代海、朝鮮半島南部に分布。中国の近似種との関係は不明。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁、その他（カキの減少）

特記事項 殻長 22 mm。



撮影：芳賀拓真

キサガイ

Cardilia semisulcata (Lamarck, 1819)

軟体動物
キサガイ科

熊本県カテゴリー
情報不足 (DD)
環境省カテゴリー

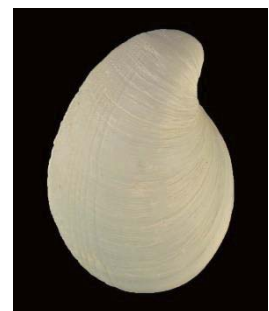
選定理由 全国局限、県内局限

生息環境 浅海の砂底、砂泥底

生息状況 県内では、天草下島（富岡）で記録があるのみ（波部・菊池、1960）で、近年は確認されていない。日本、インド・西太平洋に分布。日本では、房総半島～九州に分布し、開放的な湾や砂浜の浅海砂底に生息するが、生息地は限定的で個体数も少ない。

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、水質汚濁

特記事項 殻長 20 mm。



撮影：山下博由

ヒメシオガマ近似種

熊本県カテゴリー
情報不足 (DD)
環境省カテゴリー

Cycladicama sp.

軟体動物
フタバシラガイ科

選定理由 全国局限、県内局限

生息環境 内湾、干潟、低潮帯～潮下帯、泥底・砂泥底、アマモ場

生息状況 県内では、天草下島（羊角湾）に生息、個体数は少ない。羊角湾に分布する種は、博多湾、唐津湾、伊万里湾、佐世保市などに分布するものと同種と考えられる。学名未決定種であるので、情報不足とした。



撮影：山下博由

生存への脅威 海辺の改変等、埋め立て、干潟の減少・消失、水質汚濁

特記事項 殻長 15 mm。

アンチラサメハダホシムシ

熊本県カテゴリー
情報不足 (DD)
環境省カテゴリー

Antillesoma antillarum (Grube, 1858)

星口動物
サメハダホシムシ科

選定理由 近年減少

生息環境 潮間帯から浅海に分布。砂泥ないしサンゴ砂中、あるいは、礫間の泥中に生息

生息状況 和歌山県以南の太平洋岸、瀬戸内海、有明海に広く分布するが希少。現在では、瀬戸内海や有明海のごく限られた生息地から少数が発見されるのみ。

生存への脅威 海辺の改変等、干潟の減少・消失、人等の接近・利用

特記事項 体長 16 cm。体幹前端（陥入吻の基部）に大型で黒褐色の乳頭突起が密生する。1930年代には有明海の干潟で「クロムシ」と呼ばれ、釣り餌用に漁獲された。

ヒゴスナウミナナフシ

熊本県カテゴリー
情報不足 (DD)
環境省カテゴリー

Cyathura higoensis Nunomura, 1977

節足動物
スナウミナナフシ科

選定理由 県内局限、模式産地

生息環境 河口、浅海

生息状況 有明緑川の標本により記載され、西日本の河口や浅海で知られている。詳細な分布は不明。

生存への脅威 海辺の改変等、干潟の減少・消失

特記事項 体長 14 mmの細長い等脚類、ナナフシという名前であるが、体節は7節以上ある。目は小さい。

ヒゲナガウミナナフシ

熊本県カテゴリー
情報不足 (DD)
環境省カテゴリー

Amakusanthura longiantennata Nunomura, 1977

節足動物
スナウミナナフシ科

選定理由 県内局限、模式産地、特殊生息環境

生息環境 アマモ場

生息状況 天草富岡のアマモ場で採集された標本により記載された。詳細な分布は不明。

生存への脅威 海辺の改変等

特記事項 体長 7 mm の細長い等脚類。ナナフシという名前であるが、体節は 7 節以上ある。体は白色で目がない。

ハスノハカシパン

熊本県カテゴリー
情報不足 (DD)
環境省カテゴリー

Scaphechinus mirabilis A. Agassiz, 1863

棘皮動物
カシパン科

選定理由 全国局限、県内局限、特殊生息生育環境

生息環境 潮下帯、砂底

生息状況 天草富岡のみ採集記録があるが、近年はまれにしか確認されない。

生存への脅威 海辺の改変等、干潟の減少・消失

特記事項 殻は中型で長径 50 mm。扁平で周縁は薄くなっている。輪郭は円に近い五角形のものが多いが変異は大きい。全体に濃紫色を呈する。

ウチワイカリナマコ

熊本県カテゴリー
情報不足 (DD)
環境省カテゴリー

Oestergrenia variabilis (Théel, 1886)

棘皮動物
イカリナマコ科

選定理由 全国局限、県内局限、特殊生息生育環境

生息環境 潮間帯、潮下帯、砂泥底

生息状況 有明海、八代海各地で採集されているが、詳細な分布は不明。

生存への脅威 海辺の改変等、干潟の減少・消失

特記事項 長さ 10 cm。直径 5 mm 程度のイカリナマコ科の小型種。体は乳白色。夜間に遊泳することが知られている。

ハマクマノミ

熊本県カテゴリー
情報不足 (DD)
環境省カテゴリー

Amphiprion frenatus Brevoort, 1856

魚類
スズメダイ科

選定理由 県内局限、近年減少、特殊生息生育環境

生息環境 外洋、潮下帯、共生

生息状況 南方系の種類であるが、牛深周辺で生息が確認され、分布北限の可能性はある。

生存への脅威 その他 (宿主の減少)

特記事項 体長 10 cm。体型はクマノミ類共通であるが、体色が赤で頭部にのみ白色の幅広い横帯を有する。サンゴイソギンチャクと共生。

ヒゲハギ

熊本県カテゴリー
情報不足 (DD)
環境省カテゴリー

Chaetodermis penicilligera (Cuvier, 1816)

魚類
カワハギ科

選定理由 県内局限、近年減少

生息環境 潮下帯

生息状況 インドー西太平洋に分布する熱帯種で、1969年に富岡で採集された個体が日本初記録となった。富岡、牛深で記録があるが、近年は確認されていない。

生存への脅威 誤獲

特記事項 体長 18 cm。他のカワハギ類と形状は似るが、第一背びれ棘や体に多数のヒゲ状の突起があるので区別される。

(3) 文献

1. Goto, R., Ishikawa, H. and Y. Hamamura (2016) Morphology, biology, and phylogenetic position of the bivalve *Platommysia rugata* (Heterodonta: Galeommatoidea), a commensal with the sipunculan worm *Sipunculus nudus*. *Zoological Science*, 33: 441-447.
2. 波部忠重・菊池泰二 (1960) 天草臨海実験所近海の生物相 第1輯 軟体動物. 九州大学理学部附属天草臨海実験所 (苓北).
3. Hidaka, H. & Y. Kano (2014) Morphological and genetic variation between the Japanese populations of the amphidromous snail *Stenomelania crenulata* (Cerithioidea: Thiaridae). *Zoological Science*, 31(9): 593-602.
4. 弘田禮一郎・徳留一生・山口隆男 (1976) 合津臨海実験所近海の軟体動物(予報). *Calanus*, 5: 12-30.
5. 石川裕・山下博由・後藤龍太郎・池辺進一・吉田誠・高重博 (2013) ハナビラガイとソバノミガイの宿主. 日本貝類学会平成25年度大会(豊橋)研究発表要旨、*Venus*, 72(1-4): 159-160.
6. 環境省 (2019) 「環境省レッドリスト2019」、環境省自然環境局野生生物課。
<https://www.env.go.jp/nature/kisho/hozen/redlist/index.html> (2019年3月15日確認)
7. 菊池泰二 (1985) 有明海のチゴマテガイ. *ちりぼたん*, 16: 75-76.
8. 熊本県希少野生動植物検討委員会(編著) (1998) 熊本県の保護上重要な野生動植物—レッドデータブックくまもと—. 熊本県環境生活部自然保護課(熊本).
9. 日本ベントス学会 (2012) 干潟の絶滅危惧動物図鑑 海岸ベントスのレッドデータブック. 東海大学出版会、神奈川.
10. 奥谷喬司(編) (2017) 日本近海産貝類図鑑(第二版). 東海大学出版部(平塚).
11. Reid, D. G. and T. Ozawa (2016) The genus *Pirenella* Gray, 1847 (= *Cerithideopsis* Thiele, 1929) (Gastropoda: Potamididae) in the Indo-West Pacific region and Mediterranean Sea. *Zootaxa*, 4076 (1): 001-091.
12. 佐々木美貴・中川雅博 (2012) 2012(平成24)年度 富士フィルムグリーンファンド「干潟生物の市民調査」手法による八代海のベントス相調査 事業報告書。
https://researchmap.jp/?action=cv_download_main&upload_id=44213 (2019年2月1日参照).
13. 高重博・武井哲史 (2019) 日本の貝、ネイチャーウォッチングガイドブック 温帯域・浅海で見られる種の生態写真+貝殻標本. 誠文堂新光社(東京).
14. 豊橋市自然史博物館 (2005) 豊橋市自然史博物館資料集第16号 高桑弘氏寄贈貝類目録 2. 腹足綱(第6分冊) ウミウサギガイ科—タマガイ科.
15. 渡部哲也・竹下文雄・逸見泰久 (2008) 熊本県上天草市松島町前島海岸における底生無脊椎動物相. *南紀生物*, 50: 268-274.
16. World Register of Marine Species (WoRMS). <http://www.marinespecies.org> (2019年2月1日参照).
17. 矢田正海・潮崎正浩 (2001) 牛深産貝類目録. 著者自刊(熊本).
18. 山下博由・黒住耐二・岡本正豊・佐藤慎一 (2014) 日本産サキグロタマツメタの記録—有明海・瀬戸内海に在来個体群は存在したか?—. 日本貝類学会平成25年度大会(豊橋)

研究発表要旨、Venus, 72 (1-4): 150.

19. 山下博由・阪本登・森敬介・前田修之 (2019) 佐賀県海産貝類チェックリスト. ネイチャー佐賀 (佐賀).
20. 吉崎和美・山下博由 (2005) 熊本県天草・羊角湾の貝類と主要な生物相について 第二報. 天草自然研究会 (熊本).